

平成 25 年度事業報告

I. 組織運営

1. 法人運営

(1) 役員および評議員（平成 26 年 3 月 31 日現在）

| 区分 | 理事 | 監事 | 評議員 |
|-----|-----|----|-----|
| 定数 | 15人 | 2人 | 37人 |
| 現員数 | 15人 | 2人 | 37人 |

(2) 会議関係

ア. 理事会

| 年月日 | 内 容 |
|-----------|--|
| H25.5.24 | (1)平成24年度 事業報告について (2)平成24年度 一般会計・特別会計収入支出決算について (3)平成25年度 一般会計収入支出補正予算について (4)定款の変更について (5)規程の改正について (6)評議員の選任同意について |
| H25.12.10 | (1)土地・建物および現金の遺贈について (2)平成25年度 一般会計収入支出補正予算について (3)欠員に伴う副会長の選任について (4)評議員の選任同意について |
| H26.1.27 | (1)経理規定の改正について (2)評議員の選任同意について |
| H26.2.7 | (1)会長・副会長の選任について (2)規程の改正について |
| H26.3.24 | (1)平成25年度 一般会計・特別会計収入支出補正予算について (2)平成26年度 事業計画について (3)平成26年度 収入支出予算について (4)定款の変更について (5)規程の制定および改廃について (6)貸付金の償還免除について (7)施設長の任命について |

イ. 評議員会

| 年月日 | 内 容 |
|-----------|---|
| H25.5.24 | (1)平成24年度 事業報告について (2)平成24年度 一般会計・特別会計収入支出決算について (3)平成25年度 一般会計収入支出補正予算について (4)定款の変更について (5)規程の改正について |
| H25.12.10 | (1)土地・建物および現金の遺贈について (2)平成25年度 一般会計収入支出補正予算について (3)理事の補充選任について |
| H26.1.27 | (1)経理規定の改正について (2)理事及び監事の選任について |
| H26.2.7 | (1)理事会報告 (2)規程の改正について |
| H26.3.24 | (1)平成25年度 一般会計・特別会計収入支出補正予算について (2)平成26年度 事業計画について (3)平成26年度 収入支出予算について (4)定款の変更について (5)規程の制定および改廃について (6)貸付金の償還免除について |

ウ. 監事会

| 年月日 | 内 容 |
|----------|---|
| H25.5.17 | (1)平成24年度事業報告について (2)平成25年度一般会計・特別会計収入支出決算について |

2. 会員・会費・寄付等の状況

(1) 会員・会費

※（ ）内は前年度との比較増減

| 区 分 | 対 象 | 件 数 | 金 額 |
|-------|--------------------------------|---------------------|-----------------------------|
| 正 会 員 | 個人 (年会費 500 円以上) | 2,712 人 (126 人減) | 2,428,300 円 (120,600 円減) |
| 特別会員 | 個人 (年会費 3,000 円以上) | 781 人 (276 人減) | 2,589,260 円 (162,740 円減) |
| 団体会員 | 町会自治会、施設団体等 (年会費 5,000 円以上) | 260 件 (5 件増) | 4,976,350 円 (123,300 円減) |
| 計 | | 3,753 件 (397 件減) | 9,993,910 円 (406,640 円減) |

(2) 寄 付

※（ ）内は前年度との比較増減

| 区 分 | 件 数 | 金 額 |
|---------------------|---------------|----------------------------------|
| 一 般 寄 付 | 242 件 (44 件減) | 39,078,639 円 (199,503,242 円減) |
| ボランティア・地域福祉推進センター寄付 | 16 件 (10 件減) | 314,504 円 (73,457 円増) |
| 計 | 258 件 (54 件減) | 39,393,143 円 (199,429,785 円減) |

※一般寄付については、区民からの遺贈 1 件 32,485,663 円が含まれている。

なお、拝受した遺贈分は、今後の需要に対応するため財源調整積立金に積み立てた。

上記の他、家および土地の遺贈を受けている。

(3) 積立金・基金

ア. 積立金

| 名 称 | 積立金額 | 目 的 |
|------------|---------------|--|
| 財源調整積立金 | 208,768,363 円 | 予想できない大きな収入減、あるいは支出増に備え、年度間の財源を調整し、財源の安定を図る。 |
| 運用資金積立金 | 10,000,000 円 | 年度当初において、区の補助金等の収入が確保されるまでの間、法人運営に必要な資金に充てる。 |
| 退職給与引当金積立金 | 134,646,195 円 | 将来的な退職金の支出に備え、退職金の積立を行う。 |
| 計 | 353,414,558 円 | |

イ. 基金

| 名 称 | 基金額 | 目 的 |
|--------------------------|---------------|---|
| ボランティア基金 (昭和 61 年度設置) | 209,389,352 円 | 地域福祉の向上を目指し、民間ボランティア活動の育成助成を目的とする。 |
| 福 祉 基 金 (平成元年度設置) | 259,869,359 円 | 自主財源の確立により事業運営の安定を図るとともに、計画性ある活動の維持・推進を目的とする。 |
| 碓井ミヨシ基金 (平成3年度設置) | 85,218,979 円 | 故・碓井ミヨシ氏の遺志により、高齢者福祉の向上に役立てることを目的とする。 |
| 長尾幸作基金 (平成4年度設置) | 200,000,000 円 | 故・長尾幸作氏の遺志により、低所得者への修学育英資金と一時的な生活困窮者の救済のための法外援護緊急たすけあい事業を目的とする。 |
| 福祉の森の燈火基金 (平成5年度設置) | 10,000,000 円 | 区民の福祉向上、特に高齢者の介護の質的・量的向上に対する助成および育成を目的とする。 |
| 計 | 764,477,690 円 | |

3. 第3次地域福祉活動計画の推進

(1) 「地域福祉活動計画策定・推進評価委員会」の開催

第3次地域福祉活動計画の推進・評価、第4次地域福祉活動計画の策定を目的に策定・推進評価委員会を設置し、平成25年度は4回開催した。

| 開 催 | 年月日 | 内 容 |
|-----|----------|--|
| 第1回 | H25.6.18 | 1. 第3次地域福祉活動計画進捗状況報告・中間報告 ①重点事業における評価（アンケート集計結果を受けて） ②平成24年度第3次地域福祉活動計画実施事業報告 2. 第4次地域福祉活動計画の策定に向けて |

| | | |
|-----|-----------|---|
| | | グループワーク（意見交換） 他 |
| 第2回 | H25.9.30 | 1. 第3次地域福祉活動計画中間報告 2. 第4次地域福祉活動計画に向けて 3. グループワーク 他 |
| 第3回 | H25.11.22 | 1. 第3次地域福祉活動計画進捗状況報告・中間報告 2. 第4次地域福祉活動計画の骨子案について 他 |
| 第4回 | H26.3.14 | 1. 委員会・PT 事業成果と事業目標報告 2. 第4次地域福祉活動計画の策定に向けて 3. 仮称）報告会について |

(2) 「推進部会」

地域福祉活動計画の推進と評価を行うため、社協の各部署職員で構成する部会。事業の進捗状況の把握、各委員会での取り組み状況の把握を行ったほか、第3次地域福祉活動計画の重点的な取り組みである「小地域福祉活動の推進」と、「人材育成の充実」について推進方法等の協議、また、平成27年度を開始年度とする第4次地域福祉活動計画策定に向けた協議を行った。全13回開催。

(3) 各委員会・プロジェクトチームの活動

各部署を越えて計画を推進する必要のある社協の事業は、第2次地域福祉活動計画策定推進のためプロジェクトチーム(PT)を設置し、特に、継続した取り組みが必要なものは委員会組織とした。第3次地域福祉活動計画策定後も、委員会を継続して設置し、計画推進にあたり新たに検討を要するものに関してはプロジェクトチーム(PT)を設置し推進を図った。(P.10 Ⅲ. 委員会・プロジェクトチーム・各部署の事業参照)

相談業務課題調整委員会、広報委員会、実習委員会、安全対策委員会、財源 PT、福祉基金活用検討委員会。

(4) 活動計画推進の評価

重点的な取り組みである「小地域福祉活動の推進」と「人材育成の充実」についての中間評価を行い、計画年度後半の推進に向けて策定・推進評価委員会での意見交換を行った。また、中間評価を受けて小地域福祉活動の推進の強化を図るためにスーパービジョン体制を導入し委員の一人でもある東社協の森純一氏にアドバイス等を頂いた。地域福祉コーディネーターを配置した豊玉・光が丘の2年間の成果を整理し、次年度への取り組みにつなげていく予定である。

4. 苦情解決制度

利用者・相談者からの苦情に対する体制を整え、利用者・相談者の権利を擁護するとともに、事業の改善と信頼確保を図るため、平成15年度から第三者委員による苦情解決制度を設けている。

平成25年度は、苦情受付担当者会議を年4回開催し、各部署で受けた苦情内容の確認や情報共有を行うとともに、過去の苦情傾向の再分析を行い、苦情分類の変更を検討した。また、苦情解決第三者委員及び苦情受付担当者会議を年2回開催し、苦情解決第三者委員に意見を求めるとともに、苦情の傾向を適切に分析できるよう苦情分類の変更を行った。また、苦情解決第三者委員による施設巡回を行い、施設利用者や家族からの相談を受けた。

(1) 事業実績

苦情解決第三者委員・苦情受付担当者会議

| 開催 | 年月日 | 内 容 |
|-----|-----------|------------------------------------|
| 第1回 | H25.5.27 | 平成24年度下半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他 |
| 第2回 | H25.11.18 | 平成25年度上半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他 |

苦情解決第三者委員による福祉施設巡回

| | |
|----------------------|--|
| 白百合福祉作業所 | 利用者家族との懇談1回(H25.9.6) 利用者との個別面談1回(H26.1.22) |
| かたくり福祉作業所 | 利用者との個別面談1回(H25.8.26) 利用者家族との懇談1回(H26.2.10) |
| 豊玉障害者地域生活支援センターきらら | 利用者との個別面談2回 (H25.7.27、H26.2.22) |
| 石神井障害者地域生活支援センターういんぐ | 利用者との個別面談2回 (H25.6.29、H26.3.29) |

(2) 苦情等の内容分類

| | | |
|-------|---------|-----|
| 苦情 | 職員の接遇 | 18件 |
| | 事業の進め方 | 38件 |
| | 社協の事業内容 | 7件 |
| | 制度 | 6件 |
| | 被害・損害 | 1件 |
| | 権利侵害 | 0件 |
| | その他 | 4件 |
| 要望・意見 | 72件 | |
| 社協事業外 | 7件 | |
| 計 | 153件 | |

(3) 苦情対応状況分類

| | |
|---------------------|------|
| 助言 | 1件 |
| 謝罪 | 28件 |
| 説明 | 70件 |
| 紹介・伝達 | 3件 |
| 申し立て受付・他の解決 制度案内 | 0件 |
| その他 | 51件 |
| 計 | 153件 |

II. 重点事業

平成25年度は、以下の取り組みを重点事業に位置づけ、その推進を図った。

1. 練馬区社協全体の取り組み

練馬区社協の全組織をあげて、地域福祉活動計画に基づき、地域福祉の向上に向けた取り組みを行った。

(1) 第3次地域福祉活動計画の重点的な取り組み

第3次地域福祉活動計画の重点的な取り組み項目である「小地域福祉活動の推進」、「人材育成の充実」について、各部署また委員会・プロジェクトチームで取り組んだ。

「小地域福祉活動の推進」においては、モデル地区である豊玉・光が丘両地区に地域福祉コーディネーターを配置し、小地域福祉活動推進に取り組んだ。地域福祉コーディネーターは、継続的に地区の会合やイベントに参加し地域課題の把握と共有に努めた。孤独死防止に向けて住民、行政、関係機関とともに見守りの手引書を作成したほか、清掃をきっかけにお互いを知り、ともに町をきれいにする活動や子育て関係者を集めて連絡会を開催するなど、住民や団体とともに地域課題について、課題の解決に向けた取り組みを進めた。

「人材育成の充実」に向けた取り組みでは、各部署で地域住民向けにボランティア講座や学習会を行うとともに、練馬区と共催して「地域福祉入門セミナー」を開催したほか「地域福祉パワーアップカレッジねりま」に地域活動アドバイザーとして参画した。また豊玉・練馬エリアと西大泉・南大泉エリアの障害福祉サービス提供事業所と情報交換会を行い、課題を共有する機会を作った。

また、区内障害者事業所で組織する、練馬区障害福祉サービス事業者連絡会にも参画し、情報の共有を行った。

練馬区社協の中堅職員研修、新任職員研修を行い、社協職員の育成に努めた。

(2) 練馬障害福祉人材育成・研修センターの開設

障害福祉サービスを担う人材育成と質の高い障害福祉サービスの安定的な提供を図るために、平成25年4月に区から受託し、7月に開所した。初年度は、190か所の事業所の登録を受けた。「学習支援事業」として研修を60回開催、参加事業者数は107事業所、また「情報支援」として研修センター専用のホームページを開設し、障害福祉サービスに関する情報提供や研修申し込みを利用するなど便宜を図った。「連携支援」としては、近隣の事業所が集まる機会を豊玉・練馬地区、西大泉・南大泉地区で開催し、情報交換や課題の共有に努め、連携できる環境整備を行った。

(3) 継続した重点的な取り組み事業

「受託施設・受託事業の安定した運営」、「区民本位のサービスの提供と社会福祉協議会の知名度や好感度の向上」、「相談業務のスキルアップ」に取り組んだ。

指定管理者として受託している白百合福祉作業所、かたくり福祉作業所、豊玉障害者地域生活支援センターきらら、石神井障害者地域生活支援センターういんぐの運営については、就労支援、生活支援、相談支援事業等サービスの質の向上に努めた。障害者地域生活支援センターにおいては、サービス利用計画等を行う「特定相談支援事業」、地域移行支援・地域定着支援を行う「一般相談支援事業」に対応した。

「かたくり福祉作業所」において、個人情報の入った USB を紛失する不祥事が発生した。個人情報保護の点において、手順や管理が遵守されていない点があったため、法人として新たに「情報セキュリティに関する実施手順」を作成した。また、職員一人ひとりに「個人情報保護の基本チェックリスト」を使って、定期的に点検を行い、再発防止に努めるとともに、職員全体に研修を行うなど個人情報の保護と情報セキュリティに関して、法人全体で徹底を図った。特に「かたくり福祉作業所」では危機管理・虐待についての研修を行い、部署内での意識を高めた

また、受託施設の指定管理期間が 25 年度で終了するため、26 年度からの再受託に向けて、プロポーザルに取り組み、26 年から 30 年度までの受託が承認された。

さらに受託施設においては、社協の地域拠点として継続して地域向けにイベント、講座、地域のまつり等を積極的に行い、社協活動の周知に努めた。

練馬区及び東京都社会福祉協議会からの受託事業は、関係機関との連絡会等にも参加するなど連携を図り、着実な事業実施に努めた。

社会福祉協議会の知名度や好感度の向上については、アクセスしやすいホームページのリニューアルを図り、また社協だよりを一部地域に全戸配布を行うなど周知に努めた。

東日本大震災の影響で区内に避難している方へは、情報提供を行い、交流の機会としてサロンを企画、開催した。

2. 総務係

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|-------------------------------|---|--|
| (1) 地域福祉活動への理解と社協の賛同者を増やす取り組み | 広く地域住民に社協事業の周知を図り、地域福祉活動への理解を深める。また、会費・寄付・募金等自主財源の安定的な確保に向けて、住民、民生児童委員、町会・自治会、団体、施設、企業、関係者への積極的な働きかけを行い、賛同者を増やした。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域イベントやメディアへの参加・出演を増やすとともに、広報誌における住民参加型企画の掲載、キャラクターグッズの「ねりコレ」への登録等、キャラクターを活用した練馬区社協の周知活動を充実させた。 民生児童委員改選に伴う新任委員へ、貸付事業に関する詳細資料を作成する等、社協事業の丁寧な周知に努めた。 |
| (2) 小地域福祉活動を意識した取り組み | 幅広い年齢層に福祉活動や地域の情報を伝える工夫を行い、顔の見える関係づくりを図る。また、募金箱の設置や街頭募金への参加を呼びかけ、区内商店街や企業、団体、学校等との連携を強化した。 | <ul style="list-style-type: none"> 募金活動では街頭募金の実施（年 9 回、10 カ所）や募金箱の継続設置協力依頼（95 カ所）等、商店会や団体の協力を得て活動を強化した。 助成金の配分会を各ボランティア・地域福祉推進コーナーエリアごとに回数を増やして行い、地域ごとの団体間の交流や連携作りのきっかけとなるよう場を設定した。（4 カ所、全 6 回）また、助成団体へのヒアリング（10 団体）を積極的に行い、地域団体への支援を強化した。 |
| (3) 福祉の総合相談窓口としての機能の充実 | 福祉の総合的な窓口として、相談者に適切な情報提供を行うために、関係機関との連携や職員の専門性の向上を図るための取り組みを強化し、問題解決に向けた支援を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 各事業で対応困難なケース等について職員会議内でケース検討を行い、解決方法や事業改善に向けて検討を行った。（年 4 回） 職員の専門性を向上するために、積極的に研修会等に参加した。 |

3. 白百合福祉作業所

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| (1) 利用者支援の充実 | ①年間を通して安定した作業体制を確保できるよう努めた。 | ①契約業者と連絡を密にし、作業が途切れないように確保するとともに、 |

| | | |
|---------------|---|--|
| | <p>②利用者および家族が安心して生活できるよう、福祉サービス等の情報提供を行い、関係機関と連携を図った。</p> <p>③利用者一人ひとりが、達成感ややりがいを感じて作業に意欲的に取り組めるよう支援をおこなった。</p> | <p>新規作業に積極的に取り組んだ。(新規契約業者4社)</p> <p>②福祉サービス等の情報提供をおこなうとともに、利用者に関わる関係機関等と連携を図り、途切れない支援を行った。</p> <p>③社会見学会(しらゆり探検隊)やその報告会、グッドワーク講座を実施し、働くことについて皆で考えた。</p> |
| (2) 地域交流の充実 | <p>①利用者がより豊かに地域で生活できるよう、地域のボランティアを受け入れ、障害や施設の理解を深めながら、福祉に関心を持つ人材を増やした。</p> <p>②利用者が地域で多様な活動に参加する機会として、利用者自身によるボランティア活動に取り組んだ。</p> <p>③障害や施設に対する理解や相互の交流を深めるため、地域住民を対象とした学習会を開催した。</p> | <p>①地域の多くの方にボランティアとして関わっていただいた(年間延べ583人)。「ボランティア感謝ウィーク」を実施した。</p> <p>②「しらゆり見守りウォーキング」を開始し、近隣小学校の新一年生の登校見守りと地域清掃活動に取り組んだ。(年間50回)</p> <p>③地域学習会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が講師としての役割を担い小学生や地域住民を対象に地域学習会を行った。 |
| (3) 地域拠点機能の充実 | <p>①社協の地域拠点として、社協事業の広報活動を行った。</p> <p>②地域住民が気軽に参加できる事業や関心のある講座を実施し小地域福祉活動を意識した取組みを推進した。</p> | <p>①新聞回収のチラシなどを活用した情報提供を行った。</p> <p>②組織内連携による講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツ！ボランティア講座」開催。 ・成年後見制度講座開催。 |

4. かたくり福祉作業所

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|-----------------------------|---|---|
| (1) 多機能型施設の安定した運営 | 就労継続支援B型事業、就労移行支援事業の安定した運営の継続に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援職員によるB型利用者を対象とした講座の実施や作業・支援の調整など、相互支援体制の強化を図った。 ・就労移行支援事業での就労までの流れをマニュアル化した。 |
| (2) ニーズの把握とより良い環境の構築 | <p>①利用者・家族のニーズの把握に努め、事業に反映できるよう努めた。</p> <p>②より良いサービス提供のため、チームワークの向上を図った。</p> <p>③福祉に関する情報、知識の獲得により、信頼される環境を整えた。</p> | <p>①利用者アンケートや利用者自治会等から意見を聞き、行事等に反映した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊旅行の目的地の設定 ・施設見学会の実施 等 <p>②必要に応じリーダー会を開催し、情報の共有化を図った。</p> <p>③有効な個別支援会議とするために、各職員の提案による職員研修、勉強会等も行い支援スキルの向上に努めた。また、作業所に講師を招き、研修を行った。</p> |
| (3) 地域の人材の発掘、支援を意識した地域交流の拡大 | <p>①福祉教育への協力を積極的に行い、福祉に関心を持つきっかけづくりを進めた。</p> <p>②地域での交流拡大に努め、小地域福祉活動の推進の下地づくりに努めた。</p> | <p>①小中学校の授業に利用者・職員の派遣を継続した。今年度は、利用者が講師として参加し自らの障害や作業所での仕事について話し、より深い障害者の理解につながった。</p> <p>②地域交流イベントを2つの地域町会</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | | と民生児童委員協議会との協働で実施し、多くの住民の参加により地域とのつながりが深まり広がった（来場者 530 人）。 |
|--|--|--|

5. 豊玉障害者地域生活支援センター きらら

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|----------------------------|--|---|
| (1) 相談支援事業の充実 | <p>基幹相談支援センターの役割を意識して、地域の中核的な役割を担った。</p> <p>① 計画相談支援において、障害者の望む生活の実現に向けてサービス等利用計画の作成、モニタリング等を行った。基本相談支援（一般的な相談支援）においても障害者や家族等への相談支援を行った。</p> <p>② 障害者地域自立支援協議会専門部会において、地域の課題についての具体的な検討・協議を行った。</p> <p>③ 家族会や地域の相談支援事業者等との連携を図り勉強会や研修会を開催した。</p> <p>④ 入院・入所者の地域移行と定着を支援した。地域の障害者の福祉に関する総合的な相談を受けた。</p> | <p>① 計画相談支援実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約による計画作成数：107 件 ・ 処方プラン作成支援数：99 件 <p>基本相談実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話相談：延べ 6,086 件 ・ 面接相談（予約・随時）：延べ 2,993 件 <p>② 障害者地域自立支援協議会専門部会 2 回実施</p> <p>③ 家族会主催の勉強会・交流会等への参加、家族会等との共催の障害年金勉強会の実施 発達障害勉強会 2 回実施 延 27 人 SST 勉強会 5 回 延 133 人</p> <p>④ 地域移行支援事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別支援（面接・同行支援・グループワーク） 34 回実施 ・ 地域移行支援契約：1 件 |
| (2) 福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成 | <p>誰もが住みやすい地域づくりに向け、顔の見える地域交流と関係づくりを行い、支え合いや見守り活動を推進した。</p> <p>① 地域イベントへの参加・協力</p> <p>② 地域貢献活動の検討・実施</p> <p>③ 地域の人材の発掘・育成・支援</p> | <p>① 地域の 6 か所のイベントに参画（商店街振興組合、町会、施設のイベント参加・見学等）：延べ 206 人</p> <p>② 花くらぶ（園芸プログラム）地域貢献活動 51 回、まちづくりや商店会の会議等参加 20 回 「商店会防犯パトロール」毎月 1 回 「街清掃」毎月 1 回 ボランティア受け入れ延べ 344 人</p> <p>③ 福祉サービス従事者対象研修 8 回実施</p> |
| (3) 当事者主体の活動の支援 | <p>① 当事者が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援を行った。</p> <p>② 退院促進事業において、入院者に向けた情報紙を創刊し、季刊紙として年 4 回発行し、地域生活サポーター活動の充実を図った。</p> | <p>① 音楽を語る会、囲碁教室、クリスマス会、外出行事等の実施 延べ 135 人参加</p> <p>② 地域生活サポーター（ピアサポーター）養成講座 毎月開催延べ 163 人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポーター活動者延べ 272 人 ・ 情報紙「びあまっぶ」の発行 年 4 回 1,200 部発行 毎月開催 延べ 109 人参加 |

6. 石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|---------------|--|---|
| (1) 相談支援事業の充実 | <p>障害のある人が自立した日常生活また社会生活を営むことができるよう相談支援事業の充実を図った。</p> <p>① 基本相談支援（一般的な相談支援）を行った。</p> | <p>① 相談実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話相談：延べ 6,841 件 ・ 面接相談（予約・随時）：延べ 1,572 件 <p>② 計画相談契約：71 件 （他セルフプラン作成支援 32 件）</p> |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| | <p>②障害福祉サービス等の利用計画作成（計画相談支援）モニタリング等を行った。</p> <p>③地域生活への移行に向けての支援を行った。（地域移行支援・地域定着支援）</p> | <p>③地域移行・定着支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携 ・「地域移行専門部会」：3回開催 ・関係機関との連絡調整は、会議参加等、随時実施 ・地域移行支援契約：5件 |
| (2)当事者主体の活動支援 | <p>①当事者が主体的にプログラムや活動を企画し運営できるよう支援した。</p> <p>②仲間（ピア）が地域生活を円滑に送れるよう、地域生活サポーター活動を支援した。</p> | <p>①利用者懇談会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月定期的に利用者と話し合う場として、懇談会形式で開催 ・お祭りやプログラム等を実行委員会形式で実施 <p>②施設・病院訪問・同行支援:45回 ※「地域生活サポーター活動支援」はきららに掲載あり</p> |
| (3)福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成 | <p>誰もが住みやすい地域づくりに向け、地域交流と支え合い学び合いの機会を推進した。</p> <p>①地域住民と共に誰もが住みやすい地域づくりに取り組んだ。</p> <p>②地域交流を通じて互いの関係構築を図り、地域での支え合いや見守り活動を推進した。</p> <p>③地域住民の障害への理解を深める活動を通して、地域福祉人材の発掘・育成・支援に取り組んだ。</p> | <p>①②地域交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸スペースを広げ、保健相談所の花壇の手入れをボランティアと共に行った。 ・地域イベント参加（商店街振興組合、町会、地域イベント参加等）：延べ122人参加 <p>③地域福祉人材の発掘・育成・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉講座開催：60人参加 ・精神保健福祉ボランティア講座開催：47人参加（延べ人数） |

7. ボランティア・地域福祉推進センター

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|-----------------------------|--|---|
| (1)地域の課題解決を目指した取り組み | <p>①小地域福祉活動推進のモデル地区において住民主体を意識した上で地域課題を共有、解決できるよう取り組んだ。</p> <p>②住民、団体等と協力し、地域人材の育成に取り組んだ。</p> <p>③ボランティア活動推進のノウハウを活かし地域福祉活動推進に取り組み、住民や団体と協力して地域の課題解決を目指し取り組んだ。</p> | <p>①地域福祉コーディネーターは住民懇談会や関係者連絡会の開催を支援し、住民リーダーとともに取り組めるよう環境の整備を行った。</p> <p>②地域の課題解決に向けた講座等の企画・開催を住民リーダーとともに実施した。</p> <p>③地域会議や活動団体の会議、イベント等に参加し、地域情報や、必要とされる情報提供を行いながら地域の中で関係構築を図った。</p> |
| (2)災害時に備え、地域団体とのネットワーク強化 | <p>①「練馬区災害ボランティアセンター」運営に向けた準備を進めた。</p> <p>②災害発生時に備え、行政・関係機関・地域団体等とのネットワーク構築を図った。</p> <p>③「練馬区災害ボランティアセンター」の機能と役割の周知を図った。</p> | <p>①「練馬区災害ボランティアセンター」の運営に備え、行政や関係機関と協議し、訓練を実施した。</p> <p>②③避難拠点運営連絡会等地域組織・住民との情報交換と連携を図るために地域の会議に参加した。</p> |
| (3)東日本大震災避難者に対する孤立化防止等の取り組み | <p>東京都の孤立化防止事業を受託するとともに、区内在住の避難者に対し、必要な支援や情報提供を行った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・情報紙等を発行し情報提供をした。 ・訪問による個別相談・支援をした。 ・被災者と地域住民が交流する場を企画・実施した。 |

8. 権利擁護センターほっとサポートねりま

| 事業 | 内容 | 実績・効果等 |
|-------------------------------|--|--|
| (1) 成年後見制度の広報周知・利用支援機能の拡充 | 地域住民や関係者と連携し、わかりやすい情報提供を行うと共に、必要な人へ制度が行き渡るよう、周知普及の強化を図った。また、福祉・法律等の専門家や関係機関、地域住民等とのネットワークを強化し、相互に連携、協働する仕組みの充実を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供ツールとして作成した成年後見制度説明のテープとデイジーの貸出用を区内図書館に設置した。 ・ 司法書士会や弁護士会、地域活動団体それぞれとの共催で相談会を実施する等、ネットワークを活用した取組みを行った。 ・ 親族後見人等が気軽に相談できるよう「ねりま後見人ネット」で親族後見人相談室を開設した。 ・ 事例検討を通して、「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」の連携体制と機能の強化を図った。 ・ 関係機関等での研修講師を行い、必要な人に制度の周知普及が図られるよう事例を交えて制度の周知を行った。 |
| (2) 社会貢献型後見人の養成・支援体制の再構築 | 平成26年度の社会貢献型後見人養成事業の実施主体の移行を見据えて、事業内容を検討し、関係機関と連携、調整を行いながら、新たな仕組みを再構築し、養成および後見受任後の活動を支援するための機能の充実を図った。また、後見監督業務の整理を行い、受任体制の充実を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者の意見等も反映させながら、基礎研修を含め、より効果的なカリキュラムの作成を行った。 ・ 26年度からの練馬区の独自養成に向け、区の担当部署と協議・検討し新たな仕組み作りを行った。 ・ 終了経験を踏まえ、より実践に即した後見監督マニュアルの見直し・作成を行った。 ・ 今年度は新たに3件を受任した(26.3.31 現在までの受任延 12件)。円滑な後見業務の推進のために、後見活動時の課題の把握や情報共有の機会として受任者懇談会を開催した。 |
| (3) 福祉サービス利用援助事業推進の充実と周知普及の強化 | 個別相談ケースへの取り組みや実践を通し地域の現状や課題の把握、小地域福祉活動の取組みとの連携を図った。また、必要としている人に事業が行き渡るよう、周知普及の強化を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別ケースの取り組みとして地域住民と共に見守り体制などの検討・実践を行った。 ・ 介護保険関係機関等の勉強会などに講師として参加し、事例を中心に制度の周知を図った。 |

9. 練馬障害福祉人材育成・研修センター

区の**第三期障害福祉計画**の目標である「障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図ること」を目指した「練馬障害福祉人材育成・研修センター」の**事業**を受託した。これまで**社協**が行ってきた障害者施設運営や地域福祉で培ったノウハウを生かし練馬障害福祉人材育成・研修センター**事業**の円滑な運営に努めた。

また、**内部職員向け新任研修を実習委員会と連携して2クール行い、中堅職員研修は2回実施する**など、体系的研修の実施にむけ検討を行った。

Ⅲ. 委員会・プロジェクトチーム・各部署の事業

【委員会・プロジェクトチーム】

練馬区社協内での各部署を越えて推進する必要がある計画・事業は、プロジェクトチーム(PT)を設置し推進を図ってきたが、継続した取り組みが必要なものは委員会組織とし、推進を図った。

1. 相談業務課題調整委員会

練馬区社協が効率的・包括的に相談を受け止め、解決していくために、組織内連携システム構築を目指して下記の事業に取り組んだ。

(1) 「拡大ケース検討会」の定期開催

広く地域の福祉関係者に呼びかけてケース検討会を2回行ない、具体的な事例を通して、関係機関との情報共有・連携の大切さ、課題の捉え方や解決に向けた支援のあり方等を学び、相談支援のスキルアップを図った。

| 日時 | 内容 | 対象者 | 場所 | 参加人数 |
|-------------------------|--------------------------------------|-------------------|--------------------|------|
| H25.8.8 18:30~20:50 | 「家族介護をしている障害のある方への支援～地域生活支援センターの役割～」 | 社協職員、 地域の福祉関係者 | 区役所本庁舎地下多 目的会議室 | 52人 |
| H26.1.17 18:30~20:50 | 「高齢化する利用者家族と本人への支援～軽度認知症の親と障害のある子～」 | 社協職員、 地域の福祉関係者 | 区役所本庁舎地下多 目的会議室 | 55人 |

※スーパーバイザー：神奈川県立保健福祉大学教授、東京ボランティア・市民活動センター所長 山崎美貴子氏

(2) 「障害者の暮らしをともに考える」実行委員会の活動

平成20年度に行なった調査（「親あるうちに障害者の暮らしをともに考える」）から分析された課題に対する取り組みを、引き続き実行委員会において行ない（実行委員会6回開催）、障害者支援関係者に向けた勉強会を下記の通り企画・開催した。

| 日時 | 内容 | 対象者 | 場所 | 参加人数 |
|-------------------------|---|--------------------|-------------------|------|
| H26.1.30 18:30~20:45 | 障害者の性・恋愛について① 講師：社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家 婦人保護施設いずみ寮施設長 横田千代子氏 | 障害者サービス従事者 社協職員 | 区役所本庁舎 20階交流会場 | 55人 |

(3) 「相談解決に役立つ資源マニュアル」の改訂

2014（平成26）年度版を改訂し、各部署等に配付を行なった。

(4) 拡大ケース検討会事例集（平成19年度～平成24年度）の発行

平成19年度から平成24年度までに行なった拡大ケース検討会の事例報告集を作成し、改めて事例検討の必要性を職員1人ひとりに伝えるきっかけとした。

2. 広報委員会

練馬区社協の理念、事業理解のため、練馬区社協の拠点を活かした積極的な広報活動を展開した。

(1) キャラクターを活用した広報活動の積極的な展開

拠点等での主催イベント、外部イベント、テレビ番組（民放・ケーブルテレビ等）にネリーが参加するなど、着ぐるみを積極的活用し、練馬区社協の認知度アップを図った。

また、「練馬やさい大好きハンドタオル」が、練馬区観光協会の練馬にちなんだ商品を紹介する「ねりコレ」の認定商品に選ばれ、社協の周知および販路拡大につながった。

(2) 職員誰もが社協をPRできる仕組みづくり

拠点や地域等で行われるイベントに担当制で各部署から職員を派遣し、積極的に社協PRを行った。（社協主催イベント4回、外部イベントへの参加18回）。また、より実践的な活用のために各種対応マニュアルなどの改訂を行った。

(3) 既存の広報媒体の充実と効果的な活用

ア. 社協だよりで、ネリー誕生5周年を記念した「ネリーぬり絵・似顔絵コンテスト」を開催（ぬり絵153枚、似顔絵26枚）、「練馬★地域のチカラこぶ」の継続掲載など、広報誌の内容の充実を図った。「ネリーぬり絵・似顔絵コンテスト」は、広報誌で拠点での掲示日程等を案内しさらなる周知を図った。「練馬★地域のチカラこぶ」は、拠点の部署職員や広報委員等が地域の団体とのつながりを深めながら取材し、住民の地域活動について広く知らせる機会とした。

イ. 10月号において部数を増やして小地域福祉活動推進のモデル地区で各戸配布を行い、社協だよりの各戸配布の効果の検証を行った。

ウ. ホームページでは、委員会での情報共有・報告を充実させ、即効性のある情報発信を行った。

3. 実習委員会

地域福祉活動計画に基づく「福祉の人材育成」の一環として資格取得等を目指す学生を受け入れた。また、実習を円滑に効果的に実施し受け入れ体制を強化することを目的として、部署間の調整と実習内容の検討を行った。

(1) 実習効果を高める取り組み

ア. 中間グループワークを引き続き実施し、実習生の不安や疑問の整理を行うとともに、実習生の希望に応じ、可能な限りでプログラムの追加等を行った。

イ. 「練馬区社会福祉協議会 実習段階別プログラム（社会福祉士・精神保健福祉士編）」を作成し、現在提供している実習プログラムの実習段階に応じた整理を行った。

(2) 実習生受け入れ体制の強化

ア. 実習指導者講習会の受講をすすめ、7名の職員が受講した。

イ. 養成校の実習報告検討会（9校）に参加し養成校との連携強化に努めた。

(3) 実習生の受け入れ

ア. 社会福祉相談援助実習 15人

イ. 精神保健福祉援助実習 3人

ウ. 見学実習等 5校 8回 103人

エ. 介護等体験 7人

オ. 地域看護実習等 4人

(4) 新任職員向け内部研修

練馬区社協への理解をより深めるとともに、職員同士の連携強化を目的として、新任職員（主に入職2年未満）に対し、練馬障害福祉人材育成・研修センターと連携して研修を行った。（平成25年度：12人）部署間の調整と研修内容の検討、マニュアルの改訂を行った。

4. 安全対策委員会

災害時の練馬区災害ボランティアセンター開設に向けた組織的な対応の検討や大規模災害対策対応マニュアルの整備及び社協内の情報共有を進めるため検討を行った。

(1) マニュアル・ミニマニュアルの整備と対応

大規模災害対策対応マニュアル/練馬区災害ボランティアセンター立ち上げマニュアル（実務編）については、マニュアルの精査に着手した。練馬区等と協議が必要と思われる部分については、委員会内で意見交換をした。研修会からの意見をもとにBCP（事業継続計画）の策定に着手した。

ミニマニュアルについては、連絡先の追加等改訂した。

(2) 職員向け研修の開催

| 日時 | 内容 | 対象者 | 場所 | 参加人数 |
|------------------------|---|------|--------------------|------|
| H25.8.2 18:30~20:45 | 「いざという時に慌てないために」～災害V C立ち上げ訓練の報告と各部署での取り組み を共有する～ | 社協職員 | 区役所本庁舎 20階 交流会場 | 45人 |
| H26.1.9 18:30~20:45 | 「災害時における社協職員の役割について」 ～ワークショップで共に考え、ともに学ぶ～ 講師:危機管理勉強会齋藤塾 塾長 齋藤貴氏 | 社協職員 | 区役所本庁舎 20階 交流会場 | 50人 |

(3) 練馬区災害ボランティアセンター開設訓練の実施

練馬区福祉部経営課と練馬区社協との合同で行う練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を前回の検証をふまえ、より効率的に実施した。訓練参加職員から感想や意見を集約した。開設手順の確認、練馬文化センター内の活用場所や備品の確認を実際に予定される会場で行った。また、その内容を職員向け研修において報告し、共有を図った。

(4) 各部署災害用備品の確認と整備

各部署で備蓄してある災害用備品リスト一覧を作成し、全体で確認・共有した。

(5) 地域とのつながりを意識した取り組みを検討する

各部署事業の中で、地域の災害対策に関わるイベントや会議に参加した。

5. 財源PT

計画的・安定的に財源を確保していくための方策を検討し、社協全体で財源獲得に向けた取り組みを強化した。また、「第二次財源PT 活動報告書」を作成し財源PTのこれからの課題を整理した。

(1) 職員向け情報誌の発行「みなもと通信」の発行

職員に財源に関する情報紙「みなもと通信」を3回発行し、職員全体で練馬区社協の財政状況や課題等を共有した。

(2) 会員会費制度の目的と課題に関する報告書の発行

平成24年1月にPTが設置されてからの取り組みの成果や、会員会費制度の目的を確認したことなどを報告書にまとめ、課題を整理した。

(3) 「みなもとアクション」の考案と実施

社協の認知度・地域福祉への理解と参加の促進につなげるため、職員一人ひとりがアクションを起こす「みなもとアクション」を提案し、各部署で実施した。

(4) 募金箱の設置

各部署において協力の呼びかけを行い、新たに設置協力を得た。

6. 福祉基金活用検討委員会

平成24年度に大口寄付金を受けたことにより、次世代を担う中堅職員を中心に構成し、基金の活用の検討を行った。基金の活用として①小地域福祉活動の推進のための地域福祉コーディネーターの増員、②地域で暮らし続けるための障害者向け生活体験所の創設、③安心して暮らし続けるための保証人制度の創設の3つを提案した。今後は第4次地域福祉活動計画での具体化に向け、推進部会等で引き続き検討を行うこととし委員会は終了とした。

【経営管理課】

法人運営機能の充実及び指定管理施設の安定的な運営を目指した事業に取り組んだ。

【総務係】

福祉の総合的な相談の窓口、高齢者や障害のある方へのサービス提供をはじめとし、練馬区社協を円滑に運営できるように法人運営全般の業務を行った。

1. 広報・情報提供事業

(1) 広報誌『社協だより』の発行

| No. | 発行月 | 発行部数 | 配布先 | 掲載内容 |
|-----|-----|---------|---|---|
| 145 | 7月 | 27,000部 | 社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、行政機関他 | ①練馬障害福祉人材育成・研修センター開設案内②平成25年度事業計画・予算③平成24年度事業報告・決算④地域福祉団体紹介⑤寄付者紹介他 |
| 146 | 10月 | 58,000部 | 社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他 ※発行部数を増やして一部地域に各戸配布した。 | ①赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金協力依頼②小地域福祉活動とコーディネーター活動紹介③各種イベント案内④「ネリー」ぬり絵・似顔絵コンテスト案内⑤地域福祉団体紹介⑥助成団体紹介・助成事業案内⑦寄付者紹介他 |
| 147 | 3月 | 27,000部 | 社協会員、町会自治会、民生児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他 | ①震災後の社協の取り組み報告②共同募金協力お礼・報告③「ネリー」ぬり絵・似顔絵コンテスト受賞作品発表④地域福祉団体紹介⑤寄付者紹介 |

(2) 区広報誌『ねりま区報』による情報提供

| 発行日 | 掲載内容 |
|----------|-------------------------------------|
| H25.6.11 | 在宅サービス事業介護講座案内 |
| H25.7.21 | 練馬区社協事業紹介、会員募集 |
| H25.9.1 | 助成事業説明会の案内 |
| H25.10.1 | 赤い羽根共同募金協力依頼 |
| H25.11.1 | 在宅サービス事業在宅講演会案内 |
| H25.12.1 | 歳末たすけあい運動募金協力依頼、歳末たすけあい配分助成事業申請団体募集 |
| H26.1.21 | 在宅サービス事業調理講習案内 |
| H26.3.1 | 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金実績報告 |

※その他、福祉作業所でのイベント、NPO 研修、ボランティア講座等の開催について情報提供。

(3) ホームページを通じての情報提供

練馬区社協ホームページを随時更新し、福祉作業所でのイベント、研修・講座、地域のお祭り等の開催、募金活動の協力依頼・報告、各部署広報誌、民間助成金情報、職員募集等について情報提供を行った。

(4) オリジナルキャラクターの活用

練馬区社協への理解を深めるために、オリジナルキャラクター「ネリー」を各種広報誌等に掲載するとともに、オリジナルグッズの作成・販売・配布を行った。

(5) 各種イベントへの参加

地域で行われるイベントや他団体主催のイベントに参加し、練馬区社協事業の普及とPRを行った。

| 年月日 | イベント名 |
|-----------|---------------------|
| H25.5.19 | 練馬ファミリーまつり |
| H25.7.6 | 「社会を明るくする運動」フェスティバル |
| H25.10.20 | 練馬まつり |
| H25.10.20 | 大泉西・南地区祭 |

(6) 各種メディアへの出演

各種メディアからの出演依頼に応じて出演し、練馬区社協事業の普及とPRを行った。

| 年月日 | メディア名 |
|---------------|--------------------|
| H25.12.22 | TBS テレビ「アッコにおまかせ！」 |
| H26.1.16~1.31 | 練馬区情報番組ねりまほっとライン |

2. 連絡調整事業

(1) 連絡調整

ア. 民生児童委員協議会への出席

民生児童委員協議会の正副会長会（毎月1回、8月・1月を除く計10回）及び、20地区の民生児童委員協議会（各地区毎月1回、8月・1月を除く計200回）に出席し、社協からの連絡・依頼・報告・情報提供を行った。

イ. 関係行政機関・施設・団体等との連絡調整

必要に応じて随時、情報交換・調整等を行い、連携を図った。

3. 相談援助事業

(1) 相談件数実績 7,952件（平成26年3月31日現在）

福祉の総合的な窓口を目指し、相談者への適切な情報提供、関係機関との連携、職員の専門性向上に向け職員間で共有をはかった。相談者は主に各種事業の新規・継続相談を希望する区民のほか、実習生の受け入れについて大学・専門学校等からの問い合わせも多く寄せられた。また、各事業について民生児童委員や町会連合会、福祉事務所・ハローワーク等の関係機関と連絡調整を行った。相談内容の内訳としては例年通り貸付事業の相談が最も多く、全体の49%を占めた。

ア. 相談方法 (単位：件)

| 相談方法 | 電話 | 来所 | Eメール他 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 相談件数 | 5,985 | 1,880 | 87 | 7,952 |

イ. 相談内容

| 相談内容 | 相談の内訳 | 件数 |
|---------|--|-------|
| 地域福祉事業 | チェアキャブ、募金、寄付、会費、広報誌、助成金など | 1,976 |
| 在宅サービス | 在宅サービス、ショートステイなど | 1,119 |
| 貸付事業 | 生活福祉資金、総合支援資金、臨時特例つなぎ資金、緊急小口資金、不動産担保型生活資金、生活安定応援事業、法外援護緊急たすけあい資金など | 3,911 |
| 協力依頼 | 名義使用、企画協力、実習生の受入れなど | 160 |
| 情報提供 | 他部署事業や社協以外の行政・民間サービス等についての問合せなど | 233 |
| 心配事、その他 | 他部署へのつなぐ電話、心配事相談など | 553 |
| 合計 | | 7,952 |

4. 募金活動

(1) 歳末たすけあい運動募金

町会連合会・民生児童委員協議会・社会福祉協議会の三者が共催し、その他関係諸団体および区民の協力に基づき、共同募金運動の一環として、地域福祉活動の充実と福祉のまちづくり推進を目的に実施した。

ア. 主催 東京都共同募金会

イ. 共催団体 練馬区町会連合会、練馬区民生児童委員協議会、練馬区社会福祉協議会

ウ. 実施時期 平成 25 年 12 月（1 ヶ月間）

エ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 14,741,364 円（前年度 15,312,361 円）

b. 募金件数 261 件（内訳：町会・自治会 132 件、団体 19 件、個人 46 件、民生児童委員 12 件、その他 1 件、募金箱 36 件、街頭募金 15 か所）

(イ) 配分内容

a. 小学校新入学児童祝品贈呈事業 1,716,855 円

福祉ニーズを持つ小学校新入学児童を対象に入学祝い品としてランドランドセルを贈呈した。（対象者 80 名）

b. 平成 26 年度地域福祉活動費 12,168,509 円

平成 25 年度に集められた寄付金を平成 26 年度の地域福祉活動費として配分する。

（内訳）福祉団体助成事業 4,700,000 円、NPO・ボランティア活動推進事業 3,000,000 円、広報調査費等 3,018,509 円、法外援護緊急たすけあい事業 500,000 円、フェアキャブ事業 200,000 円、小地域活動事業 300,000 円、成年後見制度支援事業 150,000 円、在宅サービス交流・研修事業 150,000 円、調査・研究・相談事業 150,000 円

c. 事務費 856,000 円

募金封筒やポスター作成費用など、募金活動に関わる事務費として活用した。

(ウ) 街頭募金 246,359 円（前年度 232,984 円）

a. 実施日 12 月 2 日、6 日、13 日、19 日

b. 実施場所 練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、江古田駅、光が丘駅

c. 協力団体 11 団体

練馬家族会、更生保護女性会、大陽スルズブリック（株）、光が丘地区連合協議会、光が丘興産、えごのみ、練馬区水泳連盟、友和会、ねりま子育てネットワーク、シンプルライフ、NPO 法人これから

(エ) 募金箱の設置 60,400 円

区内公共施設など 36 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

(2) 赤い羽根共同募金

東京都共同募金会の協力組織として、町会連合会・民生児童委員協議会・練馬区社会福祉協議会の三者で共同募金練馬地区協力会を構成し、募金活動（各戸募金・街頭募金）を実施した。

ア. 主催 東京都共同募金会

イ. 実施主体 練馬地区協力会

ウ. 実施時期 平成 25 年 10 月～12 月（3 ヶ月間）

エ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 9,597,343 円（前年度 9,685,409 円）

b. 募金件数 267 件（内訳：町会・自治会 122 件、団体 3 件、個人 13 件、民生児童委員 8 件、募金箱 113 件、街頭募金 8 か所）

(イ) 配分内容

a. 東京都共同募金会納付金 9,597,343 円

東京都共同募金会へ募金額全額を納付後、都内の民間福祉施設等に配分された。練馬区内の福祉施設への配分については、「練馬地区配分推せん委員会」における審査・推せんに基づき配分された。

b. 小地域活動費 573,120 円

町会・自治会の事業に活用し、地域の福祉活動を推進するために、募金額の 8% を限度に

- 配分した。(申請件数 52 件)
- (ウ) 街頭募金 241,347 円 (前年度 294,057 円)
- a. 実施日 10月1日、4日、11日、21日、28日
 - b. 実施場所 練馬駅、中村橋駅、石神井公園駅、大泉学園駅、武蔵関駅、光が丘駅
 - c. 協力団体 8団体
練馬家族会、練馬区身体障害者福祉協会、大陽スルスル®リング(株)、光が丘地区連合協議会、オレンジの会、更生保護女性会、練馬断酒会、シンプルライフ
- (エ) 募金箱の設置 203,104 円
区内公共施設など 113 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

(3) 義援金

東日本大震災義援金 91,652 円 3月31日現在 (前年度 258,026 円)
※中央共同募金会を通して被災者への義援金として活用される。

5. 地域福祉事業

(1) チェアキャブ運行事業〔練馬区補助事業〕

- 区内在住の車いす利用者の外出・社会参加等を促進するために、3台のリフト付車両を運行した。
- ア. 自家用有償旅客運送登録(種別:福祉有償運送)の有効期間:平成25年6月22日から平成28年6月21日まで
- イ. 利用登録会員数 126人(うち平成25年度新規登録会員数12人)
- (ア) 利用登録会員の状況 (単位:人)

| | 身障手帳 | 介護認定 | 重 複 |
|-----|-------|-------|----------|
| 内 訳 | 1級 76 | 介1 7 | 介1身1 4 |
| | 2級 21 | 介2 18 | 介2身1 7 |
| | 3級 3 | 介3 19 | 介3身1 3 |
| | 4級 5 | 介4 20 | 介4身1 9 |
| | 5級 2 | 介5 20 | 介5身1 11 |
| | | | その他重複 31 |
| 合 計 | 107 | 84 | 65 |

ウ. 運行実績

(ア) 利用件数 (単位:件)

| 区 分 | 予約申込 | 利 用 | キャンセル | 利用不能 |
|-----|------|-----|-------|------|
| 件 数 | 1125 | 933 | 57 | 135 |

※「キャンセル」は、利用者の都合により運行を中止したもの。

(イ) 利用内容 (単位:件)

| 区分 | 利用 | 利用目的 | | 運行方法 | | 運行範囲 | | |
|----|-----|------|-----|------|-----|------|-----|----|
| | | 通院 | その他 | 往復 | 片道 | 区内 | 都内 | 都外 |
| 件数 | 933 | 658 | 275 | 327 | 606 | 260 | 648 | 25 |

エ. 福祉有償運送運転者講習会

- (ア) 講習の種類
- a. 福祉有償運送運転者講習
 - b. セダン等運転者講習
- (イ) 実施回数

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
|-------|--------|--------|-----------|
| 実施日 | 6月1・2日 | 9月7・8日 | 11月16・17日 |
| 修了者人数 | 9人 | 12人 | 8人 |

(2) 助成援護事業

- 地域の民間福祉団施設・団体が行う様々な活動を積極的に支援するため、以下の事業を行なった。
- ア. 助成事業
- (ア) 喫茶コーナー『我夢舎楽』運営委員会へ運営費助成〔練馬区補助事業〕
- a. 助成金額 2,278,080 円
- (イ) 助成事業
- a. 歳末たすけあい配分助成事業〔歳末たすけあい運動募金地域福祉活動費活用事業〕
 - (a) 助成総額 4,890,000 円

(b) 申請事業数 44 事業 (助成決定 43 事業、内 1 事業は助成見送り)

<助成団体内訳>

(単位：円)

| 施設・団体名 | 助成金額 | 施設・団体名 | 助成金額 |
|--------------------------|---------|----------------------|---------|
| 子どものための音楽療法サークル「音の輪」 | 160,000 | お茶の間ネット | 90,000 |
| | | 音楽工房のあ | 50,000 |
| 若年認知症ねりまの会 MARINE | 140,000 | 練馬健康と生きがい語る会(健生会) | 150,000 |
| ちゅうりっぷの会(日本ダウン症協会東京練馬支部) | 40,000 | 白い箱の会 | 80,000 |
| 練馬区視覚障害者福祉協会 | 80,000 | スポーツクラブホワイエ上石神井 | 90,000 |
| 練馬区身体障害者福祉協会 | 40,000 | 成年後見推進ネットこれから | 50,000 |
| 練馬断酒会 | 80,000 | 地域福祉おたすけ隊 | 130,000 |
| 練馬精神障害者家族会 | 60,000 | 点訳・音声訳集団一歩の会 | 80,000 |
| 練馬認知症地域支援「オレンジの会」 | 10,000 | ねりえいサークル | 140,000 |
| 練馬パーキンソン病友の会 | 80,000 | 練馬区水泳連盟 | 70,000 |
| えごのみ | 90,000 | 練馬区保護司会 | 70,000 |
| すのうべる | 70,000 | 練馬区要約筆記サークル さくら会 | 60,000 |
| べるはうす | 30,000 | びすけっと | 80,000 |
| つくりっこの家クラブハウス | 90,000 | 南田中のまちを考える会 | 70,000 |
| 松の実事業所 | 140,000 | むすび | 160,000 |
| 共同保育所ごたごた荘 | 110,000 | リブ女性ハウス | 70,000 |
| 石神井・冒険遊びの会 | 200,000 | 練馬区障害者通所施設合同運動会実行委員会 | 300,000 |
| 立野冒険遊びの会 | 160,000 | 練馬認知症支援ネットワークの会 | 60,000 |
| 東京コミュニティミッドワイフ活動推進協議会 | 160,000 | 練馬健康連絡会 | 70,000 |
| ねりま子育てネットワーク | 120,000 | 練馬手をつなぐ親の会 | 300,000 |
| 保育サービスぼてと | 200,000 | ねりま事業所 | |
| 大泉風の会 | 160,000 | 豊玉西町会 | |
| 大泉地域の医療と福祉を考える会 | 200,000 | ねりま笑店街実行委員会 | 300,000 |

b. 歳末たすけあい運動推進委員会における平成 26 年度助成事業配分審査会の開催
平成 26 年度歳末たすけあい配分助成事業の申請を受け、審査を行った。

(a) 審査日時 平成 26 年 2 月 21 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

(b) 審査内容

| 事業名 | 申請事業 | 申請金額 | 助成事業 | 助成金額 |
|----------|-------|-------------|-------|-------------|
| 福祉団体助成事業 | 45 事業 | 6,020,000 円 | 44 事業 | 4,550,000 円 |

c. 赤い羽根配分助成事業

(a) 助成総額 6,340,000 円

(b) 申請事業数 47 事業

<助成団体内訳>

| 施設・団体名 | 助成金額 | 施設・団体名 | 助成金額 |
|-----------------|---------|--------------------------|---------|
| 点チャレクラブ | 30,000 | 幼児教室とことこ | 270,000 |
| 点訳・音声訳集団一歩の会 | 200,000 | ちゅうりっぷの会(日本ダウン症協会東京練馬支部) | 160,000 |
| 練馬区聴覚障害者協会 | 140,000 | 練馬リハビリ友の会 | 140,000 |
| 手話サークル練馬こぶし会 | 140,000 | すのうべる | 180,000 |
| 龍鳳 たんぽぽ | 270,000 | べるはうす | 180,000 |
| 総合型地域スポーツクラブ平和台 | 90,000 | えごのみ | 180,000 |
| かめの子教室 | 40,000 | あっとほーむ | 70,000 |
| 発達支援研究所スプラウト | 110,000 | ねりま事業所 | 270,000 |
| 共同保育所ごたごた荘 | 300,000 | 練馬視覚障害者福祉協会 | 200,000 |
| ありんこぼてと | 80,000 | ひかりの会 | 130,000 |

| | | | |
|----------------------|---------|--------------|---------|
| リブ女性ハウス | 270,000 | 松の実事業所 | 270,000 |
| 練馬第二寮 | 50,000 | ねりじょはうす Luna | 270,000 |
| 練馬つばさ荘 | 30,000 | いずみ保育園 | 70,000 |
| あさひ寮 | 40,000 | 楽膳倶楽部 | 150,000 |
| 子どものための音楽療法サークル「音の輪」 | 50,000 | 笑和の家 | 100,000 |
| ゆうゆうぼてと | 20,000 | グループホームこ住も | 200,000 |
| あっぷるぼてと | 40,000 | ふるーれ | 140,000 |
| 光が丘まちづくりフォーラム | 50,000 | グループホーム石神井台 | 90,000 |
| めぶきの会 | 80,000 | ねりま第二事業所 | 160,000 |
| 我夢舎楽 | 100,000 | シンプルライフ | 60,000 |
| 練馬第一寮 | 80,000 | 大泉にじのいる保育園 | 240,000 |
| 誠寮 | 90,000 | むすび | 110,000 |
| つくりっこの家クラブハウス | 270,000 | 地域福祉おたすけ隊 | 40,000 |
| 発達支援室あかねっこ春日町教室 | 90,000 | | |

d. 東京都共同募金会練馬地区配分推せん委員会における平成 26 年度赤い羽根配分助成事業配分推せん審査会の開催

平成 26 年度赤い羽根配分助成事業の申請を受け、内容を審査し東京都共同募金会に推せんした。

(a) 審査日時 平成 25 年 12 月 24 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

e. 助成事業説明会の開催

平成 26 年度助成事業について、区内地域団体や施設を対象に説明会を開催した。

(a) 開催日時 平成 25 年 9 月 12 日、平成 25 年 9 月 19 日

イ. 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

平成 20 年度に練馬区社協を通じて申請・貸与された物品等について、貸与期間終了(5 年)に伴い無償譲渡(3 件)を行なった。また、財団へ申請する NPO 法人に対し 1 件の推薦状作成を行なった。

| 施設名 | 備品名等 | 申請金額 | 自己負担額 | 事業費計 |
|---------|------|-----------|-----------|-------------|
| Hot Job | 軽車両 | 930,000 円 | 310,000 円 | 1,240,000 円 |

ウ. 名義使用承認

施設・団体が行う講演会・イベント等の広報物等に練馬区社協の名義を使用することに対して申請を受け付け、その趣旨と内容を勘案した上で承認を行い、事業の広報活動等に協力した。

(ア) 協賛名義(職員の派遣・直接的な協力なし) 申請件数 20 件 承認件数 20 件

| 主催団体名 | 内容 |
|-------------------------|----------------------------------|
| よかっぺいばらき | 交流促進事業「笑顔の居場所づくり」 |
| 練馬健康連絡会 | 第 8 回春の健康フェスティバル |
| ねりま光が丘地域力活性化プロジェクト実行委員会 | ねりま光が丘 Cherry-Blossom Festa 2013 |
| 大人のシャンソン会 | 第 6 回 生徒発表・音楽会 |
| 光が丘 IMA (株式会社 新都市ライフ) | 光が丘 IMA フラワーチャリティ |
| 東京土建一般労働組合 練馬支部 | 第 36 回住宅デー |
| 練馬区身体障害者福祉協会 | 震災記録ドキュメント上映会 |
| 保育サービスぼてと | 第 7 回おいで おいで あそぼー『ぼてとまつり』 |
| 練馬区歌謡祭実行委員会 | 第 3 回練馬区歌謡祭チャリティーコンサート |
| 練馬区母子寡婦福祉連合会 | 第 57 回練馬区母子寡婦福祉大会 |
| 首都圏建設産業ユニオン練馬支部 | 第 36 回住宅デー |
| ママのイキイキ応援プログラム@練馬 | 講座『ママイキ 199 期@練馬』 |
| MJC 実行委員会 | MJC 第 11 回チャリティコンサート |
| あかねの会 | 第 16 回あかねの会 心の鐘コンサート |
| 練馬区水泳連盟 | 第 16 回ノーマライゼーション水泳フェスティバル |
| 練馬区視覚障害者福祉協会 | モンゴルの歴史とホームー |
| 練馬精神障害者家族会 | 第 3 回勉強会 |
| 練馬精神障害者家族会 | 第 4 回勉強会 |

| | |
|------------|---------------|
| 練馬手をつなぐ親の会 | 第 30 回納涼福祉盆踊り |
| 練馬手をつなぐ親の会 | 楽しいクリスマス会 |

(イ) 後援名義(職員の派遣あり) 申請件数 12 件 承認件数 12 件

| 主催団体名 | 内 容 |
|-------------------------|------------------------|
| 練馬明るい社会づくりの会 | 第 17 回練馬ファミリーまつり |
| 練馬区障害者通所施設 合同運動会実行委員会 | 第 35 回練馬区障害者通所施設合同運動会 |
| 練馬認知症支援ネットワークの会 | 認知症フォーラム |
| 石神井公園商店街振興組合 | 第 13 回チルコロ石神井 |
| 石神井公園商店街振興組合 | 第 14 回チルコロ石神井 |
| 障害者フェスティバル実行委員会 | 2013 年度 障害者フェスティバル |
| ねりま笑店街実行委員会 | 第 3 回ねりま笑店街 |
| 東京石泉ライオンズクラブ | 福祉音楽祭 in ねりま |
| 成年後見推進ネットこれから | 講演会『地域で推進、高齢者を支える任意後見』 |
| 「地域をつくる」上映会 IN ねりま実行委員会 | 映画上映、トークセッション |
| 光が丘 J.CITY アート展実行委員会 | 光が丘 J.CITY アート展 |
| ねりま子育てネットワーク | 第 7 回ねりま子育てメッセ |

(ウ) 共催名義(主催者と社協が共同して開催)

| 主催団体名 | 内 容 |
|-------------------|--|
| 光が丘地区連合協議会 | そっと見守ろう私たちのまちの高齢者 |
| 練馬区 | 地域福祉入門セミナー |
| 成年後見推進ネットこれから | 成年後見と権利擁護の相談会 |
| 光が丘福祉園 | ボランティア講座 ・第 1 回光が丘福祉園を知ろう! ・第 2 回ボランティア説明会 |
| 石神井台敬老館 | ボランティア講座 ・石神井台敬老館ボランティア講座(全 2 回) |
| 武蔵大学 | ボランティア講座 |
| 福祉ボランティア体験企画 一心多助 | 福祉ボランティアってどんな? |
| 光が丘子ども家庭支援センター | ボランティア講座 ・光が丘びよびよ 第 1 回見学会 ・光が丘びよびよ 第 2 回ボランティア説明会 |

エ. 赤い羽根運動募金 A 配分・民間財団助成事業申請のための社協推薦

民間施設・団体が、赤い羽根運動募金 A 配分・各種財団助成金を申請する際必要となる社協の推薦意見書を作成し、当該施設・団体の事業運営のための財源確保を支援した。

(ア) 赤い羽根運動募金 A 配分 2 件

(イ) 一般財団法人 松翁会 3 件

(ウ) 公益社団法人出光文化福祉財団 1 件

(3) 在宅サービス事業〔練馬区補助事業〕

ア. 協力員の登録状況(平成 25 年 3 月 31 日現在)

| 男 性 | 女 性 | 合 計 |
|------|-------|-------|
| 12 人 | 136 人 | 148 人 |

※平成 25 年度中の新規登録者 10 人

(昨年度 7 人)

イ. 家事・介護援助サービス実績

| 事業名 | 内 容 | 実施規模 | 人数 |
|----------|---|----------|----------|
| 新規相談者数 | 職員が電話や窓口で新規に相談、訪問等を行った。 | 80 件 | |
| 家事援助サービス | 協力員が掃除、洗濯、買い物等の家事援助を行った。 (1 時間 700 円/1,000 円) | 2,887 時間 | 利用者 70 人 |
| 介護援助サービス | 食事、排泄、入浴等の介護援助および認知症高齢者の介護援助を行った。(1 時間 1,000 円/1,300 円) | 896 時間 | 利用者 16 人 |
| サービス併用利用 | 家事援助サービス・介護援助サービスを併用利用 | | 利用者 5 人 |
| 計 | | 3,783 時間 | 91 人 |

※サービス提供回数…2,312 回

ウ. 在宅サービス関連事業

| 事業名 | 内容 | 対象施設 | 対象・参加人員等 |
|-----------------|-------------------------------|------|--------------------------|
| 有料老人ホーム短期入所サービス | 一時的な宿泊施設として、短期有料老人ホームを割引斡旋した。 | 18施設 | 登録者 20人 利用者 1人 延 122泊 |

エ. 協力員の研修等

| 事業名 | 内容 | 参加者 |
|--------------|--|--|
| 介護実技講習 | 協力員・区民を対象に、『これだけは押さえておきたい、介護の基本の「キ』』と題して、日本赤十字社から生活支援講習指導員を招き、介護技術の向上を図った。 | 協力員 9人、区民 9人 |
| 日帰り研修 | 協力員の福祉に関する知識の拡充と交流を目的とし、東京ビックサイトで行われた、国際福祉機器展を見学した。その後協力員交流会を行い、意見交換を行った。 | 協力員 20人 |
| 地域福祉講演会 | 世田谷区社会福祉事業団特別養護老人ホーム、芦花ホームの常勤医師である石飛幸三氏を招き、広く区民に関心のあるテーマ（平穏死について）で講演会を行った。 | 参加者 193人 |
| 調理講習会 交流会 | 地域のボランティアグループ「食のサポーターねりま」の協力のもと、調理講習会「わかわか かむかむ元気ご飯」を2回実施した。 | 2/14 協力員 6人、区民 10人 2/24 協力員 8人、区民 11人 |

オ. 通信等

| 事業名 | 内容 | 実施規模 | 対象・参加人員等 |
|-----------|--------------------------------------|------|----------|
| すまいる通信の発行 | 研修の内容・日程を通知し、協力員の活動や利用者とのふれあい等を周知した。 | 4回 | 各回 650部 |

(4) 実習生受入れ

社会福祉士実習、精神保健福祉士実習、見学実習等の社協組織としての受入れ事務を総括し、円滑な実習受け入れに努めた。

6. 各種資金の貸付及び償還事務

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的な自立を図ることを目的とした資金の貸付と必要な相談支援を行った。

平成 25 年度中では、生活福祉資金は例年通り教育支援資金の相談が多く 6 割強を占めた。その他生活保護世帯のエアコン購入費用や国民年金後納分の貸付、障害者世帯の自動車購入費用等の貸付、低家賃住宅への転居費用の貸付等を行った。離職等を理由に生活に困難を抱えた世帯を対象とする総合支援資金は、相談自体はあるものの平成 21 年をピークに貸付決定件数は年々減少傾向にある。学習塾の費用や高校・大学等の受験料の貸付を行う受験生チャレンジ支援貸付は年々貸付件数が増加しており、制度の認知度が上がってきていることがうかがえる。

(1) 生活福祉資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

低所得者世帯・障害者世帯・高齢者世帯の自立支援資金として、民生児童委員の調査・協力を得て、相談・貸付・償還事務を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 83 件（うち全額辞退者 8 名）※昨年度 90 件

(イ) 貸付決定金額 94,055,370 円（全額辞退者含む）※昨年度 94,608,619 円

| 資金種類 | 件数 | 貸付決定額 |
|--------|------|--------------|
| 教育支援資金 | 61 件 | 84,477,000 円 |
| 福祉資金 | 20 件 | 9,378,370 円 |
| 緊急小口資金 | 2 件 | 200,000 円 |
| 合計 | 83 件 | 94,055,370 円 |

イ. 償還実績

(ア) 償還率 80.85%（現年度）

(イ) 償還完了件数 51 件（平成 25 年度末債権数 1,094 件）

ウ. 生活福祉資金調査委員会の開催

| 年月日 | 内容 |
|----------|---|
| H25.7.5 | ①平成 24 年度実績報告 ②生活福祉資金以外に取り扱う資金について |
| H25.2.25 | ①各貸付制度と調査委員会の役割について ②訴訟対象者選定後の結果について ③生活福祉資金償還猶予について ④生活困窮者を対象としたモデル事業について |

(2) 離職者支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業により生計の維持が困難となった世帯に対して、再就職までの生活資金貸付を行う制度の償還事務を行った。(平成 21 年 9 月末で離職者支援資金貸付事業は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 67.02% (現年度)

(イ) 償還完了件数 4 件 (平成 25 年度末債権数 68 件)

(3) 総合支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業等、日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのための継続的な相談支援(就労支援、家計指導等)を必要とし、貸付を行うことにより自立が見込まれる世帯に対しての生活資金等貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 3 件

(イ) 貸付決定金額 1,674,340 円

| 資金種類 | 件数 | 貸付決定額 |
|---------|-----|-------------|
| 住宅入居費 | 0 件 | 0 円 |
| 一時生活再建費 | 0 件 | 0 円 |
| 生活支援費 | 3 件 | 1,674,340 円 |
| 合計 | 3 件 | 1,674,340 円 |

イ. 償還実績

(ア) 償還率 65.49% (現年度)

(イ) 償還完了件数 7 件 (平成 25 年度末債権数 250 件)

(4) 生活復興支援資金

東日本大震災に伴い、生活福祉資金(福祉資金福祉費)の特例貸付がはじまり、震災により被災した低所得世帯に当面の生活に必要な経費等の貸付相談を行ったが、平成 25 年度は貸付決定がなかった。

(5) 子育て世帯への優遇貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

離職者支援資金または総合支援資金生活支援費の申請者で、世帯内に扶養している子どもがいる世帯に対しての、生活費の上乗せ、または修学に必要な費用の貸付制度に関する償還事務を行った。

(平成 22 年 3 月末で貸付事業は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 31.77% (現年度)

(6) 臨時特例つなぎ資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

住宅喪失の離職者で、公的給付制度又は公的貸付制度の申請が受理されており、かつ当該給付等までの生活に困窮している世帯に対しての生活資金貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成 25 年度においては、貸付決定はなかった。また、年度当初、平成 25 年 3 月までの時限事業となっていたが、平成 26 年度も実施予定となっている。

(7) 不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

現在居住している自己所有の不動産(土地・建物)に、将来にわたって住み続けることを希望する高齢者世帯に対し、その不動産を担保に生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成 25 年度は全世帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。また、必要に応じ「ほっとサポートねりま」と連携を結び、後見人等の案内を行った。

ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 3 件

イ. 償還実績

(ア) 償還完了件数 1 件 (平成 25 年度末債権数 20 件)

(8) 要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

要保護状態の高齢者世帯に対し、現在居住している自己所有の不動産(土地・建物)を担保として生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成 25 年度は新規の貸付決定件数が 4 件、承継が 2 件あった。また、全世帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア. 償還実績

(ア) 貸付決定件数 4 件

(イ) 償還完了件数 1 件 (平成 25 年度末債権数 12 件)

(9) 生活安定応援事業〔練馬区からの受託事業〕

一定所得以下の世帯の子供への支援を目的として、学習塾等の費用や、高校や大学等の受験費用の貸付を無利子で行った。平成 21 年度に東京都の緊急対策の一環として始まった制度の一つであるが、継続して制度の運用を行った。

ア. 受験生チャレンジ支援貸付事業：学習塾の費用や受験料の無利子貸付

(ア) 学習塾等受講料貸付金 貸付決定件数 194 件 貸付金額 3,6864,100 円

(イ) 受験料貸付金 貸付決定件数 163 件 貸付金額 8,590,000 円

(10) 私立高等学校等入学資金貸付事業〔練馬区補助事業〕

生活保護世帯あるいはこれに準ずる生活困難な世帯が、他の同種の公的資金を借り受けてもなお資金が不足する場合に、入学金等を貸付する制度として、相談・償還事務を行ったが、貸付実績はなかった。

ア. 償還実績

(ア) 償還率 31.15%

(イ) 償還完了件数 1 件 (平成 25 年度末債権数 13 件)

(11) 長尾修学育英資金貸付事業

所得の少ない世帯を対象として、大学・短期大学入学に際して必要となる入学金等の貸付に関する償還事務を行った。(平成 18 年 3 月末で貸付は終了)

ア. 償還実績

(ア) 償還率 8.04%

(イ) 償還完了件数 1 件 (平成 25 年度末債権数 9 件)

(12) 法外援護緊急たすけあい事業

ア. 小口資金貸付

災害や臨時の出費等による一時的な生活困窮者に対し、5 万円を限度とした貸付相談を行った。

(ア) 貸付決定件数 3 件

(イ) 償還完了件数 4 件 (平成 25 年度末債権数 38 件)

(ウ) 償還金支払免除の適用

練馬区社会福祉協議会定款第 16 条(2)に基づき平成 26 年 3 月 24 日議決

死亡または所在不明等による償還金支払い免除 3 件

イ. 資金の交付

住所不定者等に当座の食費、知人・友人宅及び救護所等へ赴く交通費等を支給した。

(ア) 各総合福祉事務所へ事務を委託 交付金合計 1,733,232 円

| 区 分 | 件 数 | 区 分 | 件 数 |
|-------------|------|------------|-------|
| 練馬総合福祉事務所 | 1033 | 光が丘総合福祉事務所 | 317 |
| 石神井総合福祉事務所 | 282 | 大泉総合福祉事務所 | 285 |
| 4 総合福祉事務所合計 | | | 1,917 |

(13) 社会復帰支援資金貸付事業

保護観察の対象となっている方に対し、社会復帰をする上で必要な資金に関する貸付相談を行なったが、平成 25 年度は貸付実績がなかった。

ア. 勉強会の開催

(ア) 保護司会との勉強会 1 回

(14) 関係機関との連携

ア. 会議への参加

(ア) 福祉事務所との連絡調整会議 2 回

相互の情報提供・連絡調整を図るため、福祉事務所主催の連絡調整会議へ積極的に参加した。

7. 講師派遣

成年後見制度やボランティア活動の説明や、障害者地域生活支援センターが行っている計画作成や、SST(ソーシャルスキルトレーニング)について等、練馬区社協各部署の知識や技術等の専門性を生かし、関係機関、団体、学校等へ講師として職員の派遣のとりまとめを行った(34 件)。

【白百合福祉作業所】

事業種別：基準該当就労継続支援B型事業

一般企業で働くことが困難な主に知的障害のある方を対象に、自立と社会経済活動への参加を促進するために働く場を提供し、作業および生活の支援を行い、障害者福祉の増進を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

1. 利用者の状況 定員 40 人、現員 34 人

(1) 性別・年齢

| 項目 | 男性 | 女性 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|
| 人数 | 19人 | 15人 | 34人 |
| 平均年齢 | 36歳 | 43歳 | 39歳 |

(2) 入退所状況

| | |
|------|----|
| 入退所者 | 0人 |
|------|----|

2. 作業実績

(1) 工賃支払実績

| 区分 | 年額 | 平均月額 |
|------------|------------|--------------|
| 総収入額 | 4,112,040円 | 〈平均〉342,670円 |
| 一人あたり平均支給額 | 120,942円 | 10,078円 |

※一人あたりの平均月額は、25年度支払工賃総額÷支払対象者数（年間延実働人員数 408人）による。

(2) 作業種目別収入

| 項目 | 年額 | 平均月額 |
|--------------|------------|----------|
| 紙器組立 | 1,502,445円 | 125,203円 |
| 割箸袋入れ | 465,759円 | 38,813円 |
| 紙器組立・封入 | 101,876円 | 8,490円 |
| 寿司用箸セット | 122,877円 | 10,240円 |
| 受託販売（梅干） | 602,593円 | 50,216円 |
| 公園清掃 | 349,257円 | 29,104円 |
| 古紙回収 | 248,004円 | 20,667円 |
| アルミ缶回収 | 19,475円 | 1,623円 |
| さをり織り（自主生産） | 221,350円 | 18,446円 |
| 手すきハガキ（自主生産） | 42,800円 | 3,566円 |
| その他 | 497,304円 | 41,442円 |
| 25年度消費税預かり金額 | △61,700円 | △5,142円 |
| 計 | 4,112,040円 | 342,670円 |

3. 就労と社会生活への参加・地域の福祉拠点としての役割

(1) 個別支援

利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望を聞き取り個別支援計画を作成した。個別支援計画に基づいて、作業所として柔軟なサービス提供や支援を心がけた。あわせて前期後期に各人の個別支援計画の見直しを行いながら、1年間を通して利用者が充実した作業所生活を送ることができるよう心がけた。

(2) 作業支援（福祉的就労支援）

ア. 作業内容

(ア) 受注作業

| 作業種目 | 作業状況 |
|---------|--|
| 寿司用箸セット | 宅配寿司、宅配釜飯用セット作り等を行った。作業工程に流れ作業を導入したり、自助具を使用する等、利用者の特性に応じた作業提供が行えた。 |
| 紙器製作 | 安定した入荷量であった。作業工程や種類が多く、多くの利用者が関わることができた。 |
| 割箸袋入れ | 一年を通して、作業が切れることなく安定して作業を継続することができた。 |

(イ) 屋外作業

| | |
|------|--|
| 古紙回収 | 区役所、図書館、近隣の住宅・団地（950世帯）、などからの回収を年間延べ87回行った。地域住民から多くの協力があり、利用者も意欲的に取り組むことができた。1年間で総重量40,510kgの古紙を提供いただいた。 |
|------|--|

| | |
|--------|---|
| アルミ缶回収 | 近隣の住宅・団地を中心に回収を行った。利用者家族からの協力も多く、1年間で340kgの空き缶を提供いただいた。 |
| 公園清掃 | 練馬区立泉こぶし公園の清掃作業を週2回行った。 |
| ピアレス清掃 | 練馬区立石神井公園区民交流センター内のトイレ清掃を月に1回行った。 |

(ウ) 自主生産

昨年度に引き続き、販売会等に積極的に参加することができた。地域交流に取り組んでいることで、販売の場を紹介していただき、販売の機会を得ることができた。また以前に購入していただいた方からの発注が引き続き多く見られた。

| | |
|--------|--|
| さをり織り | 7人の利用者で取り組み、ボランティアの協力のもと製品に仕上げた。色の選択、組み合わせは利用者自らが言い、個性的で色彩豊かな作品となり従来品以外の注文も受けた。また、販売会に参加し、直接お客様とやり取りすることで創作意欲にもつながった。 |
| 手すきハガキ | 2人の利用者が取り組み、それぞれが得意な工程を受け持ち、協力して仕上げることもできた。ほぼ毎日取り組むことで、大きな注文にも対応することができた。無地やスタンプで模様をつけたハガキ、ボランティアや利用者家族の協力で絵付きハガキを作成し販売した。 |

(エ) 受託販売

「紀州南高梅」の梅干し販売を受託し、利用者作画のイラスト入りラベルを貼り、リサイクルショップ・各種販売会等での販売を行った。

a. 自主製品販売会・バザー等参加状況：参加25回、利用者延べ15人・職員延べ28人

イ. 工賃の支給・評定

3ヶ月ごとに評定会議を開催し、評定基準に基づき利用者個人の作業能力評定値を決定し、工賃を支給した。

(3) 就労支援

かたくり福祉作業所就労移行支援事業担当の職員を講師に迎え、『しごとをするいみをかんがえる』をテーマに「グッドワーク講座」を開催した。はたらくことについてみんなで考え、はたらくことへの意欲を高める機会を設けた。

(4) 生活支援

ア. 行事

| 行事名 | 実施日 | 場所・内容 |
|--------------|---------|---|
| グループ活動 | 5～6月 | ジブリ美術館、所沢航空発祥記念公園、浅草散策、元町中華街散策、トヨタ・アムラックス、ちひろ美術館での見学、体験を行った。 |
| オアシスマつり | 5/12 | 地域とのつながりを深めるためのイベントを行った。利用者とボランティアで協力し模擬店、オープンカフェなどの出店を行った。初めて日曜日の開催だったが、天気も良く300人近くの来場者があった。 |
| 障害者通所施設合同運動会 | 6/1 | 区内通所施設が練馬区立南町小学校に集い開催した。 |
| 宿泊旅行 | 9/19～20 | 大洗・つくば方面に出かけ、大洗水族館の見学とポティロンの森での体験を行った。 |
| 白百合まつり | (10/26) | 白百合福祉作業所にて施設公開をはじめ、アトラクション、模擬店、などの実施を予定していたが、台風の接近により開催を中止した。 |
| 四所交流会 | 11/8 | 光が丘体育館において、ダンスやゲームで交流し、作業所ごとの出し物の発表などを行った。 |
| オアシスのつどい | 12/20 | 利用者、ボランティアで交流会を行う。食事会、ゲームや手話ダンス発表を通じて交流を深めた。 |
| 障害者フェスティバル | 12/7 | 光が丘区民センター及び周辺にて舞台発表と販売会を行った。 |
| 新年顔合わせ会 | 1/7 | 「今年の抱負」の発表や、レクリエーション活動を行った。 |
| 31年感謝のつどい | 12/28 | 利用者・家族・ボランティアが集い、改修工事を機に31年の歩みを振り返り、移転等に向けて新たに気持ちをひとつにできるような交流会を行った。 |

イ. クラブ活動（第1・第3水曜日／午後2時30分～午後3時30分）

利用者の希望をもとにクラブを構成し、ボランティアの参加や、前期・後期で活動内容を変えることにより、多彩な活動が体験でき、楽しんで活動を行うことが出来た。（カラオケ・手話ダンス・新聞づくり・ちぎり絵・折り紙・ポウリング・水泳・卓球など）

ウ. みんなの会（年4回：5/29、8/28、11/13、2/26）

利用者から選出された役員が中心となりみんなの会を実施した。活動の役割分担や所内でのマナーなど利用者から提出された課題について話し合いの場を持ち、意見の交換などを行なった。

エ. 生活講座（はなまる講座）（年4回：4/24、7/24、10/30、1/29）

利用者一人ひとりが主体的に働くこと・楽しむことを支援するため、生活に必要な事柄について学び・考え・知る機会として講座を開催した。

議題：「防災について」「熱中症について・日直当番について」「**身だしなみ**・トイレの使い方（男女別に行う）」「冬に気を付ける病気」等

オ. 利用者余暇支援・利用時間の延長

（ア）休日余暇支援事業（みんなのつどい）

登録した利用者（白百合福祉作業所 16 人、かたくり福祉作業所 34 人）を対象に、毎月第3土曜日に作業所において、レクリエーション活動等を行った。**季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、多くのボランティアの協力を得て演奏や演劇等披露していただき、余暇の充実を図った。楽しみの時間を共有することで、地域住民との交流の機会ともなった。**
年間計 11 回開催、利用者参加延べ 285 人（うち白百合福祉作業所利用者延べ 80 人）

（イ）施設利用時間の延長

家族の所用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。**延べ 47 回実施**

カ. 社会見学会（しらゆり探検隊）（年1回）

地域の公共施設や関連施設を見学し、仕事の様子を調べて、報告会を行った。（西武バス上石神井営業所・西武鉄道石神井公園駅・石神井警察署・ワークショップ石神井・しらゆり荘）

キ. 家族との連携

（ア）家族会：年 10 回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明、報告や意見交換を行った。（*家族会延べ参加人数 209 人）

（イ）施設見学：11/15 ライフパートナーこぶし、練馬区立大泉障害者地域生活支援センターさくら見学 16 人参加

（ウ）勉強会：7/19「今から知っておく成年後見制度パート2」（**権利擁護センター**） 16 人参加

（5）地域交流

ア. 施設公開、イベントの企画・実施、地域イベントへの参加

（ア）地域交流イベントの開催

a. オアシスマつり（5/12）来場者約 300 人 ボランティア 30 人

障害者の理解と地域とのつながりを広げられるよう、利用者と普段活動しているボランティアが参加して行った。石神井小学校との学習会の展示や自主製品のハガキを使っただけでがみ教室を行った。

b. オアシスのつどい（12/20）参加者：ボランティア 10 人・利用者 34 人

日頃作業所に協力していただいているボランティアを招待し、利用者・職員とともに交流を図る機会としてイベントを開催した。利用者が手話ダンスを披露したり、食事会、ゲームをおこなった。今年度は平日開催にしたことで多くの利用者が参加することができ、有意義な交流の場となった。

c. 施設公開（12/20）

作業所の活動を紹介し、作業体験をする機会として開催した。

作業公開・自主製品販売・リサイクルショップ・カフェコーナーを設けた。来所をきっかけに、その後作業ボランティアに参加する方も増えた。

（イ）地域商店街振興組合や町会主催のイベントに参加

a. 灯籠流しの夕べ（8/3）

b. チルコロ石神井まつり（11/10、3/30）

（ウ）石神井小学校との交流

2年生の「この町大すき！石じい大はっけん」の授業の一環として訪問を受け入れた。その後行われた**小学校の**発表会に招待され、職員と利用者で小学校に伺い交流を図った。

（エ）グループ外食（4月、7月、9月、11月）

地域の飲食店を利用し、外食を楽しみ、地域の方々とふれあい、施設理解を深めた。

（オ）ボランティア感謝ウィーク（10/21～10/25）

作業ボランティアに、感謝の気持ちを伝える機会として「ありがとう感謝ウィーク」を利用者と企画した。利用者が主体となり、メダルや招待状、「ありがとうの手紙」を作成してボランティアに手渡した。

イ. 地域貢献活動

(ア) リサイクル事業

a. 新聞回収 (各1回/月)

回収先：近隣の住宅・団地、区内図書館、練馬区役所(2回)、石神井庁舎、豊玉障害者地域生活支援センターきらら

b. アルミ缶回収 近隣住宅・団地 (各1回/月)

近隣の住宅・団地の協力を得て古紙・アルミ缶回収を行なった。高齢等により古紙を階段下までおろすことが負担になる方に対しては、個別回収を行った。地域に作業所の様子を知ってもらうために、回収日を知らせるチラシには作業所の近況報告を載せた。また、裏面にはお祭りやイベント、リサイクルショップの告知、ボランティア募集記事、自主製品や梅干し販売の情報を載せた。

c. リサイクルショップの開催 (毎月第2・第4木曜日)

地域住民の商品提供・協力を得て、環境リサイクル運動推進のためのリサイクルショップを開設した。利用者と地域住民との交流の場ともなった。(年間計19回開催)定期的に来店する区民もおり、地域住民への認知度も広まりつつある。

(イ) 駅前清掃活動：年間15回参加 (利用者延べ32人、職員延べ15人)

池淵町会婦人部、練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、石神井公園駅前清掃活動に参加した。利用者は地域のためにできるボランティア活動としての意識を持ち、いきいきと取り組んでいた。

(ウ) クリーンウォーク：年間1回参加 (4/28 利用者・家族延べ6人、職員延べ2人)

練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、地域の環境美化のため清掃活動を行った。

ウ. 広報活動

施設広報紙「しらゆり通信」の発行、チラシ・パンフレット、練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載、掲示板の活用等を通して施設PRや社協の事業紹介を行った。

エ. 施設・障害の理解促進、地域の人材発掘

ボランティア・見学者の受け入れ(受け入れ数：ボランティア583人、見学・体験155人)、散髪ボランティア(年間5回、延べ15人)・手話ダンスボランティア(年間9回、延べ35人)・作業ボランティア(延べ432人)・行事協力ボランティア(延べ83人)を定期的に受け入れた。活動の一つとして、いきいき体操ボランティア(延べ18人)も定着し、行事や外食などにも一緒に参加してもらい、交流が深まった。また、中村中学校生徒(3人)大泉学園中学校生徒(4人)の体験ボランティアを受け入れて、福祉教育への積極的な協力を行った。さらに、施設見学・体験を希望する住民、学生、関係機関職員等を随時受け入れ、施設理解を深めることに努めた。

オ. 組織運営

(ア) 運営協議会の開催 (年2回開催)

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換・協議を行った。施設情報の提供や意見交換を行う中で地域関係者とのつながりを深めることができた。

カ. 白百合カレッジの開催

地域住民や小学生を対象として、障害への理解を深めてもらうために、学習会や作業所の見学会、体験の受け入れなどを行った。

(ア) 地域学習会 (年2回)

a. 第1回地域学習会 (7・9・10・11月 全10回)

「ともに生きるまちづくり」として石神井小学校4年生を対象とした学習会を行った。利用者が小学校へ出向いて講師役として作業の紹介をした。また、小学生が作業所に作業の見学をし、その後体験学習として「作業体験」「クリーンアップ活動体験」「手話ダンス体験」を実施した。小学生からのお礼として学芸会鑑賞に招待され、交流を図ることもできた。

b. 第2回地域学習会 (2/5 参加者10人)

「Let's ボランティア講座」地域住民の方でこれからボランティアを始めたい方々を対象に、作業の見学・体験、利用者からボランティアとの関わりの話、現在ボランティアを行っている方の話、ボランティアコーナー職員からは「ボランティアってなに？」の話をしてもらった。ボランティア活動を身近に感じてもらうことが出来、活動につなげることができた。

(イ) 夏休み**作業体験教室** (8月2回 親子参加含む 29人)

小・中学生を対象に自主製品のさをり織りと手すきハガキの体験の機会を提供した。親子参加も積極的に受け入れ、交流の機会にもなった。

(ウ) 体験学習の受入

福祉に関心のある大学生や専門学校生を対象に、夏休みを利用して、作業所での体験をしてもらった。障害への理解を深めてもらうとともに、福祉人材の育成に取り組んだ。

4. 健康・安全管理

(1) 健康管理・健康活動・保健衛生

ア. 健康管理

| 項目 | 内容 | 実施日 | 受診・受講人数 |
|-------|-----------------------|------|---------|
| 健康診断 | 聴心、尿検査、血液検査、腹囲(40歳以上) | 4/5 | 17人 |
| 内科検診 | 血圧測定、心肺音聴取等 | 毎月1回 | — |
| 歯科検診 | う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査 | 4/4 | 28人 |
| 眼科検診 | 眼底検査 | 4/10 | 29人 |
| 耳鼻科検診 | 耳、鼻、咽頭検査 | 5/30 | 26人 |
| 胸部X-P | 胸部X-P | 4/22 | 20 |
| 身長測定 | 毎月1回 年12回 | 4/3 | — |
| 健康講座 | 生活習慣病と内服薬について | 2/20 | 58人 |
| 体重測定 | 毎月1回 年12回 | | |

(2) 危機管理・安全対策

ア. 防災計画の見直し・修正・確認

安全対策委員会主催の「BCP」(事業継続計画)研修をもとに、発災当日夜までの対応を見直し、BCPに沿って防災計画の修正を行った。

イ. 避難訓練(月1回)

地震または火災を想定して実施。また、避難訓練の見直し、検討を行った。

ウ. 災害時引渡し訓練(10/1)

震災想定避難の後、引渡し訓練を行った。家族向けに「災害時伝言ダイヤル」体験を実施。

エ. 防災講習会の開催(10/1)

「心に灯りをともす会」による防災講習会を行った。

オ. 備蓄品の点検・確認等

大震災に備え、家具転倒防止、備蓄品の点検、補充を行った。

カ. 防災ハンドブックの作成(5月)

「災害時ハンドブック」の更新を行った。利用者・家族・職員に配布した。

5. 施設運営・利用者の権利の擁護

(1) 職員研修・育成

ア. 職員研修

支援の充実、職員の資質向上を目指し、研修を受講した。(外部研修参加 36回、参加職員延べ73人)

イ. 練馬区立福祉作業所合同研修会の開催(12/20)

区立福祉作業所5所の共催により職員研修会を実施した。実施にあたっては、民間福祉作業所にも積極的に参加を呼びかけ、交流ならびに情報交換の場となるよう図った。

(2) 相談・苦情対応

ア. 利用者からの相談・苦情をいつでも受け付けられる体制を整え、要望等には誠実かつ迅速に対応するよう努めた。

イ. 苦情解決第三者委員との懇談会：年2回実施。(家族対象9月・利用者対象1月)

家族や利用者から施設への要望や苦情等の聞き取りを行った。

(3) 実習生の受け入れ

ア. 入所実習：1人(他作業所より転所希望)

イ. 資格取得実習：社会福祉士15人、精神保健福祉士3人

ウ. 体験実習：特別支援学校高等部1年生2人、2年生1人

(4) 施設評価・調査

利用者・家族を対象に「利用者アンケート」を実施し、満足度調査を通して施設サービスの改善点や課題を明らかにしその改善に取り組んだ。

【かたくり福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業・就労移行支援事業

◇就労継続支援B型事業

心身に障害があるために一般企業で働くことが困難な人を対象に、作業施設と仕事を提供し、生活および作業の支援を通して自立を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

◇就労移行支援事業

一般企業で働くことを希望する障害者に対し、一般就労につなげるために、施設において作業の提供等、必要な支援を行うことを目的として取り組んだ。

*就労継続支援B型事業と就労移行支援事業で共通のものは（共通）の表示をしている。

1. 利用者状況（共通）

定員 73 人（B型 63 人・移行 10 人）現員 57 人（B型 56 人・移行 1 人）

(1) 性別・年齢

| 項目 | 男性 | 女性 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|
| 人数 | 40人 | 17人 | 57人 |
| 平均年齢 | 33歳 | 37歳 | 35歳 |

(2) 入退所状況

| | | | |
|----|----|-----------------|----------------|
| 入所 | 1人 | 高校卒業 その他 | 1人 0人 |
| 退所 | 5人 | 転所 就労 その他 | 4人 1人 0人 |

2. 作業実績

(1) 工賃支払実績

（就労継続支援B型事業）

| 区分 | 年額 | 平均月額 |
|------------|------------|----------|
| 総収入額 | 6,333,254円 | 527,772円 |
| 消費税精算金 | 48,791円 | |
| 一人あたり平均支給額 | 111,972円 | 9,331円 |

（就労移行支援事業）

| 区分 | 年額 | 平均月額 |
|------------|----------|---------|
| 総収入額 | 454,640円 | 37,887円 |
| 消費税精算金 | 7,932円 | |
| 一人あたり平均支給額 | 231,288円 | 19,274円 |

*一人あたりの平均月額は、25年度支払工賃総額（総収入額+消費税精算額）÷支払対象者数（B型：684人
移行：24人）による

(2) 作業種目別収入

（就労継続支援B型事業）

| 項目 | 年額 | 平均月額 |
|--------------|------------|----------|
| 割り箸袋入れ(弁当用) | 932,204円 | 77,684円 |
| チラシ折り | 257,229円 | 21,436円 |
| 付録のセット作り | 143,951円 | 11,996円 |
| 自主生産(祝い箸) | 411,713円 | 34,310円 |
| 日用品のセット作業 | 1,493,786円 | 124,483円 |
| DVD検品作業 | 213,570円 | 17,798円 |
| ダイレクトメールの封入 | 2,035,970円 | 169,665円 |
| お菓子袋詰め | 386,938円 | 32,245円 |
| その他 | 602,284円 | 50,191円 |
| 25年度消費税預かり金額 | △95,600円 | △7,967円 |
| 計 | 6,382,045円 | 531,837円 |

*自主製品材料費 166,218 円
(就労移行支援事業)

| 項 目 | 年 額 | 平 均 月 額 |
|---------------|-----------|----------|
| 割り箸袋入れ(弁当用) | 3,750 円 | 313 円 |
| 日用品のセット作業 | 101,124 円 | 8,427 円 |
| ダイレクトメールの封入 | 17,482 円 | 1,457 円 |
| 公園清掃 | 108,865 円 | 9,072 円 |
| お菓子袋詰め | 26,976 円 | 2,248 円 |
| その他 | 211,975 円 | 17,665 円 |
| 25 年度消費税預かり金額 | △7,600 円 | △633 円 |
| 計 | 462,572 円 | 37,887 円 |

3. 支援状況

(1) 就労継続支援B型事業

ア. 個別支援

- (ア) 各利用者の状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら、個別支援計画を作成した。また、年に3回定期的に支援内容の見直しを行った。
- (イ) 定期的に二者面談、三者面談、個別支援会議、グループ会議などを行い、支援内容を確認、検討した。
- (ウ) 連絡帳、家族会の開催、個別面談を通じて家庭とも連携し、支援の充実を図った。
 - a. 家族会(月1回)
 - b. 個別面談(年1回および必要に応じて随時)
 - c. グループ懇談(5月・12月)

(エ) 行政機関、医療機関、就労支援機関等との連携を持ち、利用者へのより良い支援と情報提供に努めた。

イ. 作業支援

利用者が働く意欲と能力を高められるように就労や生産の機会を提供し、社会参加を促進した。

(ア) 個別支援の充実

利用者一人ひとりの作業能力の把握および個別支援計画に沿って、利用者が達成感を持ち、意欲や自信につながるよう支援した。

(イ) 工賃の支給、評価

- a. 作業で得た収益は作業評価表に基づき、利用者一人ひとりの点数を定め工賃を支給した。
- b. 3ヶ月ごとに評価会議を開催し、評価基準に基づき作業能力評価値を決定した。
- c. 各グループで毎月、利用者とともに工賃の話し合いを行い、利用者自らが受注作業の内容を把握することで、働く意欲につなげた。

(ウ) 工賃額の維持、作業開拓

- a. 作業工程の分析・改善を行い、生産性の向上を図った。
- b. 工賃額の維持のため受注作業の把握を細かく行い、作業が滞らないように調整した。

(エ) 作業内容

a. 受託事業

継続的な受託事業により、利用者の作業能力の向上や作業範囲の広がりにつながった。

- (a) 割り箸の鞘入れ
- (b) 雑誌付録のセット作り
- (c) 日用品のセット作り
- (d) ダイレクトメールの封入
- (e) お菓子の袋詰め

b. 自主製品生産事業

アイデアを活かした自主生産に取り組み、製品を販売会等で販売した。地域とのつながりから、新たな購入者の拡大につながった。また、来年度に向けた新商品の開発を検討した。

- (a) 祝い箸
- (b) 黒文字
- (c) ティッシュボックス
- (d) ポチ袋
- (e) のし袋
- (f) クリップ 等

ウ. 就労支援

利用者会「青空会」において、就労移行支援事業の職員を講師とした「就労について」の勉強会を行った。後日希望者に対し、就労移行支援事業の見学・生活支援講座の体験等を実施し、働くことへの意欲向上につながった。

エ. 生活支援

利用者が、主体者として所内生活の自主管理、行事の自主参加等を目指すことができるように支援した。また、利用者の意見や要望が施設運営に反映できるように努めるとともに、利用者に興味のあるプログラムの提供等を通して、利用者の生活技術の向上につながるよう支援を行った。

(ア) 青空会（利用者会） 月1回 第4木曜日 午後3時～午後3時30分

利用者会の中から前期・後期6人の委員を選出し、前日に委員会を開催して議題を検討した。今年度は、利用者の参加意識を高めるために、議題を書いてある紙を配布した。主な内容として、施設内のマナーや設備の使用法、行事などについて話し合った。委員会での検討内容は、各作業班の話し合いの中にも取り入れ、利用者が話し合いに参加できる機会を増やすことで、利用者自身が主体的に運営するという意識が持てるように支援を行った。送別会・忘年会などの行事内容は、青空会委員が中心となって企画した。また、地域交流イベントではフリーマーケットを開催した。

a. 議事内容

(a) 青空会委員の選出、行事説明、行事の係選出、行事の感想など

(b) 所内生活について（行事や余暇活動についての提案、トイレ・ロッカーでのマナー、掃除道具の片付けについて、健康管理・保健衛生について等）

(c) 就労関連情報、苦情解決など

(イ) クラブ活動 前期:第1・3木曜日 後期:第1・3金曜日 午後2時30分～午後3時30分

クラブ活動を月2回行った。前期には興味や関心を引き出す機会として、通常クラブに加えて特別クラブを設定した。また、前期・後期に拡大クラブを設け、地域の体育館を利用したプログラムや白子川地下調整池工事現場に家族も一緒に見学するなど、地域の施設を利用して充実を図った。通常クラブでは、ボランティアの協力により、紙芝居を楽しんだ。

a. 前期

音楽、スポーツ、レクリエーション、特別クラブ（折り紙）、拡大クラブ（カラオケボックス・区立体育館・白子川探検、しおり作り）

b. 後期

音楽、スポーツ、レクリエーション、フェスティバル、マラソン、拡大クラブ（カラオケボックス・区立体育館・広報センター見学・ぱたぱたちょうちん作り）

(ウ) 利用者の役割

a. 編集委員

広報紙「しゃぼんだま」についての内容検討・カット・印刷・折り作業などを職員とともにに行った。3人選出。

b. 行事担当

各行事について、企画や運営に関する役割を担った。

c. 清掃当番

所内・運動場を全員で清掃し、自分たちが利用する施設に対して美化の意識をもった。3ヶ月ごとに清掃場所の変更を行った。

(エ) 行事

| 行事名 | 実施日 | 場所・内容 |
|---------------|------------------|--|
| レクリエーション活動 | 4/12 | レクリエーションを通し利用者・家族・ボランティア・職員の交流を深めた。 |
| 練馬区障害者施設合同運動会 | 6/1 | 南町小学校で、区内通所施設が集まり開催された。 |
| グループ活動 | 5～6月 | 9グループの少人数に分かれて、様々な体験をした。すみだ水族館、原鉄道模型博物館、長谷川町子美術館、ポーリング、横浜散策等 |
| 宿泊旅行 | 9/5～6 9/12～13 | 草津温泉方面と東京ディズニーランド方面の2箇所を設定し、利用者の希望による選択制とした。 |
| かたくり祭り | 10/19 | 施設公開、作業体験、アトラクション、模擬店、バザー等を行った。 |

| | | |
|-----------|-------|--|
| 四 所 交 流 会 | 11/8 | 4作業所（白百合、北町、大泉、かたくり）が集まり、スポーツやレクリエーションで交流を深めた。 |
| 忘 年 会 | 12/27 | 利用者によるレクリエーションを楽しんだ。 |
| 納 め 会 | 3/31 | 1年間の業績発表・ボランティアさんへの感謝企画・感想発表、送別会を行った。 |

※その他 任意参加行事として「障害者スポーツ大会」「障害者フェスティバル」「福祉マラソン」に希望者が参加した。

(オ) 施設利用時間の延長

家族の所用、急用等の事情に合わせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。
利用件数 延べ 11 件

(2) 就労移行支援事業

ア. 個別支援

利用者の状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら個別支援計画を作成し、個々の課題に対し、必要な支援を行った。また、家族とも連携し、支援の充実に努めた。

(ア) 家族会（年 1 回）4 月

(イ) 個別支援策定会議（年 4 回および必要に応じて随時）

イ. 作業支援

受注作業、自主製品作製・販売、公園清掃等を通し、就労に必要な挨拶・返事・報告・質問等のスキルが獲得できるよう個別の目標を立て支援を行った。

(ア) 作業内容

- a. ダイレクトメール…封入・封緘・ラベル貼り・区分け・結束機、丁合機の操作など
- b. 日用品セット…箱折り・箱の組み立て・封入・テープとめ・セット
- c. 公園清掃…北大泉くればし公園の園内清掃、トイレ清掃を行う。
- d. パソコン入力…エクセルなどのパソコン入力の練習を行う。
- e. 自主製品作製・販売…各販売会や出張所での自主製品の販売を通し接客などの訓練を行う。

ウ. 就労支援

利用者の希望や適性に依り関係機関と連携をしながら、企業実習、求人登録や申請など必要な手続きの補助や支援を行った。

(ア) 就労者 1 人…特例子会社

(イ) 企業見学 2 回…都内の特例子会社の見学会を開催。

(ウ) 企業実習 2 人(延べ) …特例子会社、一般企業などの実習を行った。

(エ) 採用実習 1 人(延べ) …特例子会社にて行った。

エ. 生活支援

社会ルールやマナーなど社会生活に必要な技術や知識を身につけられるよう、生活支援講座を計画的に実施した。(全 36 回)

(ア) 生活支援講座（主な内容）

| 講座名 | 回数 | 内容等 |
|--------|------|--|
| 働く | 11 回 | 働く上で必要なスキルと仕事の「報告・連絡・相談」等の講座や、人と接するときの態度や距離感などの対人スキルを身につけられるよう、ロールプレイなども行った。 |
| 生活 | 8 回 | 健康管理や身だしなみなどについて、働く上で必要な生活面におけるマナーやルールを学ぶための講座を行った。 |
| 社会 | 5 回 | 事前講習で学んだことを公共の場で体験し、社会生活に必要なスキルを身につけてもらう機会として行った。 |
| グループ活動 | 6 回 | 楽しみながら視野を広げるとともに、社会経験を豊かにすることを目的に、利用者が希望する施設や体験できる場所へグループで出かけた。でかけるにあたっては、利用者間で場所や行程の話し合いを行い、計画を立て実施した。 実施後、振り返り、壁新聞の作成を行った。 場所：1 回目 東京ディズニーシー 2 回目 お台場 |
| 調理実習 | 2 回 | 自立生活のため調理や安全な調理道具の使い方、衛生について学んだ。 |
| 余暇 | 2 回 | 公共の場におけるマナーを学ぶこと、外出活動で必要な情報収集の方法について講座を行った。また、療育手帳の活用方法を知り、余暇において活動の幅を広げる体験も行った。 外出：1 回目 国立科学美術館 国立西洋美術館 2 回目 しらゆり荘 映画鑑賞 |

| | | |
|------|----|---|
| 防災訓練 | 1回 | 区立就労移行支援事業所と共同で、区の職員による「防災について」の講座を行った。 |
|------|----|---|

(イ) 行事

| 行事名 | 目的・内容 | 実施日 |
|--------|--|-------|
| かたくり祭り | 地域住民と交流を図る機会とする。また、社協拠点としての周知を行い、PRする。 | 10/20 |

4. 健康管理・保健衛生（共通）

| 項目 | 内容 | 実施日 | 受診人数 |
|---------|------------------|------|------|
| 健康診断 | 胸部 X-P | 9/2 | 43人 |
| 健康診断 | 尿検査、血液検査 | 10/4 | 44人 |
| 内科検診 | 血圧測定、心肺音聴取等 | 毎月1回 | — |
| 歯科 | う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査 | 5/30 | 54人 |
| 眼科 | 眼底検査 | 4/24 | 57人 |
| 耳鼻科検診 | 耳、鼻、咽頭検査 | 6/11 | 49人 |
| 歯磨き指導 | 歯科衛生士による指導 | 7/1 | 24人 |
| 体重測定 | | 毎月1回 | — |
| 災害時服薬管理 | 災害時用に薬の保管を行う。 | 年2回 | |

5. 地域交流および人材育成（共通）

(1) 地域交流イベント（6/22） 来場者 約 530人

練馬区社協の拠点として、地域に開かれ、また気軽に立ち寄ることのできる作業所を目指し、さまざまな地域交流事業を行った。

- ア. 地域住民による10区画のフリーマーケット
- イ. 町会による写真展示、水ヨーヨーつり
- ウ. 民生児童委員協議会による高齢者相談会
- エ. 権利擁護センター相談会
- オ. カフェ、野点、炊き込みご飯、焼きそば、カキ氷、綿あめなどの模擬店
- カ. 自主製品販売、他施設販売
- キ. 地域中学校演奏会

(2) かたくり祭り（10/19） 来場者 約 350人

利用者への理解を深め、開かれた作業所を目指すため、利用者も参加する地域交流行事を行った。

- ア. 作業公開
- イ. 模擬店
- ウ. アトラクション
- エ. バザー
- オ. 自主製品販売 等

(3) 施設公開

イベントやお祭りとは違う日常の作業の様子の見学を通し、利用者や作業所への理解を深める機会とした。

- ア. 5/24 参加9人
- イ. 1/21 参加10人

(4) 施設見学・体験 夏休み特別企画「かたくり探検ツアー」（7/22～8/23）

区内小中高校生が、夏休み期間に作業所を見学・体験をすることで利用者や作業所への理解を深める機会とし実施した。参加者 13人

(5) 地域イベントへの参加

- ア. 大泉町三丁目町会主催の子どもまつりに協力（10/5）
- イ. 大泉北泉町会主催の防災訓練に参加（10/29、1/19）
- ウ. 大泉町づくりネットワークの大泉学園通り落ち葉掃きへ参加（12/5）
- エ. テイクケア・かたかごの花クリスマス会に参加（12/16）

(6) ボランティア・見学者の受け入れ

定期的な作業、クラブなどでの折り紙指導、行事手伝いなど、多くのボランティアを受け入れた。

また中学生の体験ボランティアの受け入れも行った。「ボランティア懇親会」の開催（11/29）や年度末の納め会では感謝状を進呈した。

- ア. 受け入れボランティア（延べ370人）
- イ. 職業体験 大泉北中学校（14人）
- ウ. 見学 旭出学園特別支援学校、大泉第一小学校、板橋特別支援学校、その他（個人の方等）

(7) 都立大泉桜高等学校奉仕体験授業の受け入れ

近隣の都立大泉桜高等学校が実施する「奉仕」の時間の授業で生徒の受け入れを行った。

- ア. 前期 5月～7月毎週木曜 午後1時30分～ 2人
- イ. 後期 11月～2月毎週木曜 午後1時30分～ 2人

(8) 休日余暇支援事業（みんなのつどい）

登録した利用者（かたくり福祉作業所 34人、白百合福祉作業所 16人）を対象に、毎月第3土曜日にボランティアも参加してレクリエーション活動を行った。ボランティアによる紙芝居や朗読劇等を披露や、ひな人形づくりや七夕飾りなど季節にあわせた工作を行った。利用者の余暇活動の幅を広げると同時に、地域の方や作業所間での交流を図ることができた。

※年間計11回開催（1回は大雪のため中止）、利用者参加延べ285人
（なかたくり福祉作業所利用者205人）

(9) 市民講座の開催

小地域福祉活動の一環として、かたくり福祉作業所で地域住民を対象とした講座を開催した。

ア. 3月9日（日）10:00～12:00

「かたくり福祉作業所を知ろう！～障害がある人と共に地域で暮らしていくには～」6人参加

(10) 講師の派遣

地域の小中高等学校や団体の依頼を受け、「福祉の仕事」「知的障害とは？」の話をするため職員を派遣した。今年度は職員とともに利用者も講師として参加した。

ア. 練馬区立大泉学園小学校 2年生町探検 施設見学会・講座（7/10）

イ. 西大泉敬老館 ボランティア講座（9/20）

ウ. 大泉桜高等学校 1年生奉仕の授業「ボランティアを始めるには」（11/14）

エ. 練馬区立大泉第一小学校 6年生総合学習授業（1/15、1/28）

オ. 練馬区立大泉北中学校 職業講話「福祉作業所の仕事について」（2/20）

(11) かたくり福祉作業所運営協議会の開催（年2回開催）

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換、協議を行った。

(12) 広報活動

施設広報紙「しゃぼんだま」の発行、練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載、掲示板の活用を通して施設PRや事業紹介を行った。

(13) 施設緑化

「練馬みどりの機構」、地域のボランティアと一緒に定期的に地域の公園の花壇やかたくり内の花壇の手入れを行った。

6. 家族および関係機関との連携

(1) 家族との連携

ア. 家族会（B型）

年12回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明や報告、意見交換を行った。また家族会主催で「ねりま高松事業所」の見学会を行った。

イ. グループ懇談会（B型）

年2回（5月、12月）班の担当職員と家族で、グループ内での日常の作業内容やそれぞれの利用者の様子などを知らせ、質問、意見の交換を行った。

ウ. 精神科相談

年4回 利用者の精神面や生活の安定のための相談のきっかけ作りとして実施した。

エ. 苦情解決第三者委員との懇談会（共通）

年1回実施（2/10）。職員は入らず、第三者委員と家族のみで行い、施設への要望や苦情等の聞き取りを行った。

(2) 関係機関との連携

必要に応じて、福祉事務所、医療機関、障害者地域生活支援センター、就労支援団体、地域団体等と連携を取りながら利用者支援を行った。

7. 安全対策

(1) 避難訓練・総合防災訓練：毎月1回実施

ア. 地震想定：放送または職員の声かけにて地震発生を知らせ、机下などに避難、その後運動場に

て点呼訓練し終了 B型・移行：(5月、7月、12月、2月)

イ. 火災想定：非常放送にて火災の発生を知らせ、指示する避難口より避難、その後駐車場にて点呼訓練を行い避難場所(北大泉野球場)へ移動し終了(移行は駐車場にて終了) B型・移行：(6月、8月、1月、3月)

ウ. 震災想定：地震の後火災が発生したという想定で行った。B型・移行：(4月、9月、10月、11月)

(2) 滑り台訓練 (B型)：年1回実施

避難滑り台の訓練を、各想定 of 避難訓練と同時に行った。

(3) 災害時引き取り訓練 (共通)：年1回実施 (11/1)

震災想定 of 避難訓練後、避難場所の「大泉第一小学校」にて、家族への引き渡し訓練を行った。

(4) 交通安全指導 (B型)：年1回 (7/3)

「正しく交通安全を理解して、正しく道路を歩く」をテーマに実施。かたくり福祉作業所の周辺をビデオ撮影したものを視聴したあと、横断、側方通過の体験を行った。

(5) 防災講座の開催 (共通) (11/1)

練馬区震災対策担当課防災カレッジ担当係の方に講師をお願いし「災害に備える～練馬区で想定される地震被害とその対策～」についてと災害時用援護者名簿登録制度等についての講座を開催した。また、家族向けに災害伝言ダイヤル・web の情報提供も行った。

(6) 災害緊急メールの登録 (共通)

大規模災害時に、あらかじめ登録してあるメールアドレスに対しに情報を送信するため、利用者・家族に緊急メールの登録を促した。避難訓練後、訓練メールの送返信訓練も行った。

(7) 防災備蓄の整備 (共通)

大規模災害に備え、利用者、職員分のブランケット、アルファ米 (1日分)、飲料水等備蓄品の点検・補充を行った。

(8) BCP (事業継続計画) 作成

1月の安全対策委員会主催の「BCP」研修をもとに、かたくり福祉作業所における発災当日夜までの「BCP」の作成に取り組んだ。

8. 実習生・研修生の受入れ (研修事業)

(1) 「教育職員免許法特例における介護等体験事業」研修生の受入れ：13人

(2) 資格取得実習 (社会福祉士、精神保健福祉士 等)：18人

(3) 入所実習・体験実習：8人 (B型：5人 移行：3人)

9. 研修

(1) 職員研修

支援の充実、職員の資質向上を目指し、研修に参加した (研修参加 62回)。また、今年度は作業所に講師を招き、多くの職員が参加し同じテーマで意見や課題を共有する機会を持った。

2/17(月) 講師：東洋大学社会学部社会福祉学科 教授 高山直樹氏

テーマ：「グレーゾーン」を考える

内容：利用者支援において虐待につながる可能性がある、不適切な関わりのグレーの部分に気づき、共有し、支援の質の向上につなげていく。

(2) 練馬区立福祉作業所合同研修会の開催 (12/20)

練馬区立福祉作業所5所の共催事業として職員研修会を開催。民間作業所にも参加を呼びかけ、交流を深めた。(かたくり福祉作業所参加者 12人)

【豊玉障害者地域生活支援センター きらら】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センター I 型事業」

「サービス等利用計画」作成の取り組みを通し、障害がある方たちや、その家族が地域で孤立せず安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。

1. 登録者の状況

利用者一人ひとりに必要な地域生活の情報提供をするために、利用申請登録制としている。今年度

も、利用者状況の変化に対応するために登録更新を重点的に行った。今年度の新規登録者は、40代が一番多いが、20代・30代の登録も多くなっている。また、40代以上の利用者が顕著に増加している。60歳以上（70代含む）が47人となっており、利用者の高齢化が課題となっている。地区別では、豊玉保健相談所管轄が半数近い人数となっている。うつ病等気分障害や知的障害、広汎性発達障害者等の登録増加、重複の障害者の増加傾向がある。

(1) 性別

| | 男性 | 女性 | 総計 |
|-----------|------|------|------|
| 登録者総数 | 276人 | 242人 | 518人 |
| H25年度登録者数 | 20人 | 19人 | 39人 |

(2) 年齢別

| 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 不明 | 総計 |
|-----|-----|------|------|------|-------|----|------|
| 1人 | 37人 | 132人 | 191人 | 110人 | 47人 | 0 | 518人 |

(3) 地区別（保健相談所担当地区別）

| 豊玉 | 大泉 | 石神井 | 光が丘 | 北町 | 関町 | 区外 | 総計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 228人 | 41人 | 83人 | 62人 | 31人 | 14人 | 59人 | 518人 |

2. 相談支援事業

障害者総合支援法第5条 17項に規定する相談支援事業を行った。

(1) 地域の障害者の福祉に関する相談

生活上の相談、病気のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・火・木・金曜日の午前9時～午後8時
土・日曜日の正午～午後8時

《面接相談》 随時：火・金・土・日曜日の正午～午後7時
予約：火曜日の午前、木曜日の午前と午後4時～午後7時、月曜日

ア. 相談件数 (単位：件)

| 相談の種類 | 電話相談（1日平均） | 面接（1日平均） | 総数 |
|-------|--------------|--------------|-------|
| 25年度 | 6,086 (20.9) | 2,993 (10.3) | 9,079 |
| 24年度 | 5,563 (19.3) | 2,313 (8.0) | 7,876 |

イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計で「不安解消・情緒安定」は52%で最も多く、次に「福祉サービス」が18%、「家族関係・人間関係」に関する相談が7%という順であった。

今年度は「福祉サービス」に関する相談が、24年度の12%から18%へ増加した。計画相談支援、地域移行支援での訪問等により外出する職員が増えたため、職員間の連携強化を目的にミーティングを開所前後に実施し、情報の共有・支援の方向性の統一化を図った。

(ア) 電話相談

電話相談は、「不安解消・情緒安定」が59%と最も多い。計画相談、地域移行、地域定着に関する相談が増えたことを受け、「福祉サービス」に関する相談が24年度の12%から16%に増えた。

(イ) 面接相談

年間の予約面接・訪問相談件数は386件、随時相談は2,607件であった。随時相談はオープンスペース開所中に対応した。オープンスペースに常時職員を配置し、利用者から職員に相談しやすい雰囲気作りを努めた。社会資源の見学やプログラムにおける同行支援が前年度47件から67件に増加した。また、訪問による相談も前年度8件から、386件と大幅に増加したが、これには計画相談支援が本格化したことが理由として考えられる。

相談内容は「不安の解消・情緒安定」が42%、「福祉サービス」が17%、「家族関係・人間関係」が10%であった。

ウ) 関係機関との連携

今年度は、計画相談支援、地域移行支援についての相談が増え、電話や面接等での関係機関との連携が前年度487件から、1,430件と大幅に増えた。関係機関の種別では、サービス等利用計画に関わる関係機関（保健相談所、総合福祉事務所、レインボーワーク、作業所、ヘルパー事業所等）からの相談が多かった。

(2) 指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し、連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

を充実させた。また、関係機関が開催する連絡会議等に参加し、連携を図った。

ア. 主催会議

精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

| 名称 | 内容・構成メンバー | 回数 |
|----------------|--|------|
| 地域自立支援協議会・専門部会 | <p>〈内容〉 高齢期を迎える障害者と家族への支援の検討、意見交換等</p> <p>〈構成メンバー〉 区内の精神科病院、障害福祉サービス事業者、家族会、練馬区総合福祉事務所、保健相談所、障害者施策推進課、練馬区社会福祉協議会</p> | 2回開催 |

イ. 関係機関が主催する連絡会議等への参加

関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

| 名称 | 内容 |
|---|---|
| 地域生活支援センター所長会・障害者地域自立支援協議会・練馬区退院促進検討会・練馬区精神保健ブロック担当連絡会・練馬区障害者就労支援ネットワーク会議・練馬区障害福祉サービス事業者連絡会 | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関とのネットワーク化 指定障害者福祉サービス事業者等とお互いに顔が見え、情報共有できる関係を築けるよう努めた。 |

3. 指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第51条20項に規定する計画相談支援事業を行った。

障害福祉サービス利用者が、よりよい地域生活が営めるように、障害福祉サービス等の申請に係る支給決定前に、サービス等利用計画案を作成し、支給決定後に、サービス事業者等との連絡調整を行い、サービス等利用計画の作成を行った。

| 内容 | 具体的な取り組み | 件数 |
|------------------------|-------------------------------|------|
| 計画相談契約者 | 適切なサービス等利用計画の作成 | 107件 |
| 計画作成支援 (セルフプラン作成支援) | 適切なサービス等利用計画を自ら立案できるよう支援 | 99件 |
| サービス提供事業所等との連携 | 計画作成及び実行にあたり、事業所等関係機関との調整を行う。 | 720件 |

4. 指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第51条の19第1項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

| 内容 | 具体的な取り組み | 件数、人数 |
|-----------------------|--|-------|
| 地域移行支援計画 | 適正な地域移行支援計画の作成 | 1件 |
| 地域のサービス事業者など、社会資源との連携 | 地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。 入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域との交流を図った。 | 1件 |
| 精神科病院との連携 | 主に社会復帰病棟を訪問し、入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域移行を促す。 ソーシャルワーカーと連携をとり、入院者の地域移行の支援を行った。 | 1件 |

5. 地域活動支援センターI型事業

障害者総合支援法第77条第1項第4号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区立障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

(1) 障害者の社会との交流の促進

地域の商店会や町会等のイベントに参画・協力し、地域住民と障害者の交流を図った。また、障害者の参加により地域活性化にも貢献し、きららを地域の方に知ってもらおう機会となったことで活動の場が広がった。

- ア. つつじ祭り (4/29・28人)
- イ. セタ祭 (6月～7月・30人)
- ウ. ねりま笑店街・キッズニヤ (7/6・23人)
- エ. 納涼祭 (7/19・31人、7/20・32人)
- オ. 大鳥神社フリマ&奉納舞台 石薬師祭 (7/28・13人)

カ. 西の市（一の西 11/3・34 人、二の西 11/27・15 人）

(2) 住民ボランティアとの協働

ア. 障害に対する理解を深めるため、地域住民との交流を図り、福祉のまちづくりを目指した。

(ア) 地域のイベント・お祭りへの参加 ※上記5. (1) 参照

イ. 当事者への生活支援、就労支援、地域交流、組織化などの事業に、ボランティアを受け入れた。

(ア) 活動状況 延べ人数：344 人 日数：159 日

(イ) 活動内容：オープンスペースの運営支援、パソコン開放におけるパソコンの指導および利用者との交流、昼食会の準備、献立作り・調理および利用者との交流、食事、茶道体験の支援、地域交流におけるイベント等の支援、園芸プログラム（花くらぶ）、男性料理教室の支援、体操プログラムにおける指導および利用者との交流、SST への参加、出張きららでの講演案内、トライアル・ゼミ、**囲碁教室**での講師など。

(ウ) ボランティア交流会の実施

「ボランティア感謝の集い」を実施し、きららで行われている様々なボランティア活動をお互いに知り合う機会を作りボランティア同士および当事者との交流を図った。(3/10・33 人)

(3) 実習生の受け入れ

精神保健福祉士、社会福祉士養成機関等の実習生や看護師等の実習を受け入れ、障害のある方の地域生活や具体的な支援の場を知り学ぶ機会を作った。

(ア) 受け入れ状況

- a. 資格取得実習（社会福祉士） 15 人 （精神保健福祉士） 3 人
b. 看護師実習 2 人 施設体験 1 大学

(4) 障害に対する理解の促進を図るための普及啓発

| 発行物・イベント等 | 内容 | |
|---------------------------|--|----------------------------|
| 障害者地域生活支援センターきららだより「たけのこ」 | 月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告 | 毎月 2,200 部発行 関係機関・希望者配布 |
| きららパンフレット | きららの利用について/きららの概要 | 随時発行 |
| 練馬区社協ホームページ | きららパンフレット/きららだより「たけのこ」 | 毎月掲載 |
| きらら主催イベントのチラシ | 精神保健福祉従業者向け研修プログラム（就労グループ、就労準備グループ、就労実習等）周知 | 随時発行 |
| 障害年金講座の開催 | テーマ「障害年金の基礎知識」 ※NPO 法人練馬精神障害者家族会、一般社団法人年金トータルサポート・コスモとの共催（当事者・家族対象） | 2/9 38 人参加 |

(5) 障害者の自立した日常生活を支援するためのプログラム

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供、生活の質を高める援助等を行うためのプログラムを開催し、豊かな生活を送れるよう支援した。

| 名称 | 内容・時間帯 | 延べ参加人数 |
|----------------|---|---------|
| オープンスペース | 仲間と話をしながら、安心して居られるスペース。オープンスペースの利用から生活面、就労面等様々な相談にもつながっている。 火・金・土・日曜日 正午～午後 7 時 | 6,872 人 |
| パソコン教室 | パソコンの操作を学ぶことで向上心が高める役割を果たした。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。 第 1・2・3 火曜日 午後 1 時～午後 5 時 / 4 クラス（初心者クラス・初級クラス A・B、復習クラス）を設定した。 | 476 人 |
| パソコン開放 | パソコン教室の時間以外にもパソコンを使用する機会を設け、パソコンへの興味関心を深めた。パソコンのわからないところを指導するためにボランティアが入った。第 2・4 土曜日 午後 2 時～午後 4 時 | 193 人 |
| 昼食会 | 多くの人とともに昼食をとる機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが季節に合わせた料理を作り、片づけをそれぞれが行った。 第 3 金曜日の 正午～ | 175 人 |
| 昼食会 (カレーの会) | 多くの人とともに昼食をとる機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが料理を作り、片づけはそれぞれが行った。 第 2 金曜日の 正午～ | 275 人 |
| 茶道体験 | 日常的に体験する機会のない和の静寂な世界を体験する機会を提供した。表千家講師伊藤宗郁先生がボランティアで指導した。 第 3 土曜日 午後 2 時～ | 86 人 |

| | | |
|---------------------|--|------|
| スポーツ | 身体を動かしたいという要望により、利用者同志の親睦、健康増進を促した。卓球・ストレッチ・練馬いきいき体操等。定期的に運動したいという要望が多く月1回実施した。 第1土曜日午後1時30分～ | 207人 |
| 花くらぶ | ボランティアときららメンバーが、近所の公園や公共施設の花壇の花を育てたり手入れを行った。練馬区みどり推進課・練馬みどりの機構と協働。 毎週火曜日午後2時～午後4時 | 780人 |
| レディースデイ | 女性だけで女性特有の話をする機会を設けた。料理教室、女性の身体の変化について知るなど、女性メンバーの希望により様々な内容を行った。 | 32人 |
| SST（ソーシャルスキルトレーニング） | 日常生活のコミュニケーションスキルを高める練習を行う。ウォーミングアップの技法から展開し、個別の課題に取り組んだ。今年度は個別課題の聞き取りを重点的に行い、実生活の中でより役立つ練習が出来るよう取り組んだ。 第1・2・3金曜日午後2時～午後4時 | 465人 |
| 出張きらら in 光が丘 | 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナーと連携し、地域のボランティアに協力していただき、光が丘公園散策、フラダンス教室、野鳥観察等を行った。 | 34人 |
| 就労準備グループ トライアルゼミ | 就労の意欲・能力があってもその機会に恵まれないメンバーに対し、就労のためのスキルや知識、情報を共有し、就労するための気持ちづくりをするグループワークを行った。練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と共催。企業見学も行った。第4金曜日午後2時～午後4時 | 125人 |
| 就労体験 | 具体的な就労の場で働くことを体験する機会を提供した。 体験先：光が丘LIVIN、練馬デイサービスセンター。 | 38人 |
| 男性料理教室 | 単身でお住まいの方や、料理に慣れていない男性向けに簡単に美味しく、気軽に作れる料理と一緒に作って食事をした。講師は、練馬いきいき体操でお世話になっているボランティアの方（栄養士）。 | 34人 |
| りりーふぼーと | 就労している方が、情報交換をする会。仕事の悩みや不安、元気になるためのひと工夫など、同じように働く人が普段感じていることなどを話したりした。隔月第3土曜日 練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と共催。 | 27人 |
| クリスマス会 | ゲーム大会や利用者の歌等の出し物を楽しみながら歓談した。 年1回のこの会を楽しみにしているメンバーも多く、当事者会が主催し、実行委員会形式で開催した。 | 30人 |
| 大掃除 | きららオープンスペースの大掃除をメンバー有志とともにいった。年末恒例となっており、掃除の後には歓談しながら一年の無事を確認した。 | 12人 |

イ、当事者の支援・組織化

当事者、家族、専門職の支援と組織化を図った。

| 名称 | 内容 | 成果 |
|--------------|--|--|
| 囲碁教室 | 元日本福祉囲碁協会の会長を講師に迎え囲碁教室を行った。健全会の方も参加し、合同で講義を受けた。毎月1回開催。 | 当事者が相互に理解し支援し合える場を設けた。気軽に良く様々な活動を行えるようにするため、実行委員会形式を採用。各会の委員を中心に計画、実施した。音楽を語る会では、実行委員長が司会を務め、メンバーが持参したCDやきららのパソコンを使用して音楽を聴いた後、参加者の音楽についての思いを語り、大変好評であった。 |
| クリスマス会 | ケーキやお菓子を食べながらゲームやメンバーの歌等による楽しいひと時を過ごした。実行委員形式で開催。 | |
| 音楽を語る会 | 当事者の会で実行委員を募り、自分の好きな音楽の思い出や音楽を通じた経験等を分かち合う時間を持つ。不定期で開催。 | |
| 外出（東京スカイツリー） | 外出の機会が減りがちな冬場に、話題の場所へ出掛けた。東京スカイツリーでは、展望台に上り、東京の景色を眺めながら、利用者・職員と交流を深めた。 | |

6. 地域移行支援事業

(1) 精神障害者退院促進支援事業

地域で生活することを望む精神障害の入院患者に対して、医療機関、福祉関係機関と連携して円滑に退院できる仕組みを構築し、地域保健、福祉の向上を図った。※ういんぐと協働で実施

| | 名称 | 内容・時間帯 | 支援状況 |
|------|-----------------------|---|------------------|
| 個別支援 | 面接 ケア会議 | 個別に支援計画を立て、作業所・グループホーム見学、不動産屋まわり同行等の支援を行った。ケア会議を開催し、退院に向けて個別に関係者が取り組みを検討した。 | 計6回支援 延べ30人 |
| | 同行支援（社会資源の見学・視察・手続き等） | 地域生活をイメージ化するために、社会資源を訪問し、見学する機会を持った。また、利用者と交流し、活用方法を知る機会とした。 | 計11回支援 延べ149人 |

| | | | |
|---------|---|--|---------------------------------------|
| | 病棟でのグループワーク、プログラム参画 | 区内の3病院（大泉・陽和・慈雲堂内科病院）と連携し、病棟訪問・交流・グループワークを行った。グループワークでの社会資源紹介では、地域生活サポーターが製作した作業所マップ「作業所に行こう！」を紹介・発表も行った。 | 計 17 回グループワーク参画、交流延べ 331 人 |
| 関係機関調整 | 説明会等（病棟内、病院、作業所、グループホーム、福祉事務所、保健所等） | 慈雲堂病院にて地域生活サポーターの活動等の説明を行った。 | 計 1 回 |
| | 連絡調整・打合せ | 病棟での取組みについて、病棟関係者と検討、打合せを行った。病院関係者と病棟訪問、交流に関する打合せを行った。 陽和病院 計 2 回 慈雲堂病院 計 12 回 大泉病院 計 7 回 | 計 21 回 |
| 関係機関会議 | ①広域退院促進コーディネーター事業所連絡会（いっぼの会） ②練馬区退院促進連絡会 | 都内の退院促進コーディネーター事業所が集まり、意見交換・協議を行い、退院支援を進めるための情報交換と共有を行った。 | ① 計 11 回参加 ② 計 1 回参加 |
| 当事者活動支援 | 地域生活サポーター養成講座 | 当事者が地域生活サポーターとして地域生活の先輩として入院患者の退院を応援する意義を学び合い、地域生活での工夫を出し合った。地域生活サポーターが自分の体験を通して的確なアドバイスをすることで、入院患者が退院を現実に近いものとしてイメージすることができ、サポーター自身の力にもなった。 | 毎月開催 延べ 163 人参加 |
| | サポーター通信「ぴあまっぴ」作り | 地域生活サポーターの活動や地域の情報等を載せた通信紙、「ぴあまっぴ」作りを行い創刊した。毎月編集会議を行い、年 4 回発刊し、3 病院の入院患者や精神保健関係者等に配布した。 | 毎月開催・延べ 109 人参加 年 4 回 1,200 部配布 |
| | 地域生活サポーター活動（当事者の講演や説明会など） | 退院促進事業の地域生活サポーターが当事者・関係者に向けた講演や説明会を行い今後の活動につなげるとともに。当事者活動の紹介や情報交換、当事者・関係機関等の交流の場とすることを目的に参加した。また、同行等の地域移行支援において当事者支援も行った。 | 計 6 回 |
| 見学受入 | 病院の退院促進グループ | 他機関の退院促進グループに関わっている当事者が、退院後の地域生活の質を高めるための居場所や余暇活動の場として、きららとういんぐを積極的に活用できるように見学を受け入れた。 陽和病院よりきらら来訪 2 回 大泉・慈雲堂内科病院よりういんぐ来訪 2 回 | 計 4 回 |

7. その他

(1) 基盤整備

豊玉障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方について検討するため、「運営委員会」や「利用者懇談会」を開催した。

| 名称 | 内容・時間帯 |
|--------|--|
| 運営委員会 | 精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2 か月に 1 回、意見を出し合い、きららの運営についてスタッフとともに検討した。計 6 回 |
| 利用者懇談会 | 利用者同士が話し合う場であるとともに、きららへの要望を聞き取る機会とした。 計 12 回 延 246 人 |

(2) 人材育成職員研修

ア. 対人援助に必要な研修に参加した。計 43 回

イ. 福祉従事者に向けた勉強会を開催した。

| 名称 | 内容・日時 | 延べ参加人数 |
|-------------|--|--------|
| 成人の発達障害の勉強会 | 講師：こころのクリニック石神井 院長 木村優一氏 開催日：7/22・2/10 午後 5 時 30 分～ 講義や事例を通して、成人の発達障害者の支援について関係者とともに学んだ。 ※石神井障害者地域生活支援センターういんぐとの共催 | 27 人 |
| SST 勉強会 | 第 1 回目（5/25）第 4 回目（1/25）は、同朋大学准教授および SST 普及協会認定講師の吉田みゆき先生を講師に迎え、『誰でも参加できる SST』を、当事者・家族・支援者向けに体験、学ぶ勉強会を開催した。第 2 回目（9/22）は、同講師による支援者向け「SST リーダー養成研修」を行った。第 3 回目（11/14）第 5 回目（3/13）は SST 勉強会を実施しているもしくは、実施を検討している医療・福祉関係者とともに勉強会を行った。 | 133 人 |

※『誰でも参加できるSST』は、NPO法人練馬精神障害者家族会・石神井障害者地域生活支援センターういんぐとの共催

(3) 地域密着型連携支援事業

練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに豊玉・練馬近隣地域という小地域のエリアで障害福祉サービス提供事業所 9 事業所と情報交換会を行い、事業所のニーズを踏まえた地域に密着した研修を開催した。

ア. 情報交換会の開催

各事業所の現状・抱える課題等についての情報交換、研修会の企画・振り返り等の内容で 4 回開催した。

イ. 研修会：事業所のニーズを捉えた研修を 2 回実施した。

| 日程 | 場所 | 参加人数 | 内容 |
|-----------|--------------------|------|--|
| H25.10.15 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら | 18人 | 「総合支援法を含めた障害者の現状について」 模擬事例検討「高齢の母親と精神障害者の息子の二人暮らしのこれからを考える」 |
| H26.2.18 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら | 11人 | 「地域の社会資源を活用した資源を考える～身体障害、知的障害、高齢者の事例から～」 |

※詳細は、練馬障害福祉人材育成・研修センター 1 (4) ア参照

(4) 職員（講師）派遣

ア. 各種講座への講師派遣

講師派遣依頼にも積極的に応じることで、障害への理解・啓発を図るとともに、人材育成への協力と自主財源の獲得に努めた。今年度はサービス等利用計画の説明を積極的に行った。

講師派遣：延べ 9 回（武蔵野大学/「障害者地域生活支援センターの事業説明と障害理解について」他）

イ. 関係機関の会議への参加

練馬区やきららのよりよいサービス向上につなげるため、都や区内の精神保健福祉関係等の会議に参加しての情報交換、情報の共有化に努めた。（練馬区就労促進協会・就労支援ネットワーク会議/「障害者のある方の就労についての各関係機関の望ましい連携について」他）

(5) 危機管理・安全対策

所内の安全点検を定期的に行うとともに、大規模災害に備え、ヘルメット・ブランケット・飲料水・食品等備蓄品の点検・整備等を行った。

例年実施している保健相談所との合同の防災訓練の他、避難訓練を 12 月に実施した。卓球プログラム中に「震度 6 の地震が発生」との想定のもとに、地域の避難拠点までの移動も含めた避難訓練を行った。また、1 月の安全対策委員会主催の「BCP」（事業継続計画）研修をもとに、きららにおける発災当日夜までの「BCP」の作成に取り組んだ。

【石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センター I 型」

障害がある方たちや、その家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるよう一緒に考え、支援することを目的とする。

1. 登録者の状況

利用者一人ひとりに必要な地域生活の情報提供をするために、利用申請登録制度を取っている。今年度の登録者は、開所年度に次ぐ登録者の多い年度となった。昨年度から男女比では女性の新規登録者が多くなっており、今年度も同様の傾向が継続している。年齢別では 40 代が最も多く、続いて 30 代が多かった。地区別では、石神井保健相談所管轄が半数以上を占めている。

(1) 性別

| | 男性 | 女性 | 総計 |
|-----------|------|------|------|
| 登録者総数 | 241人 | 202人 | 443人 |
| H25年度登録者数 | 41人 | 48人 | 89人 |

(2) 年齢別

| 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代以上 | 不明 | 総計 |
|-----|-----|------|------|-----|-------|----|------|
| 1人 | 36人 | 105人 | 161人 | 87人 | 46人 | 7人 | 443人 |

(3) 地区別（保健相談所担当地区別）

| | | | | | | | |
|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|------|
| 豊玉 | 大泉 | 石神井 | 光が丘 | 北町 | 関町 | 区外 | 総計 |
| 40人 | 62人 | 224人 | 15人 | 4人 | 54人 | 44人 | 443人 |

2. 相談支援事業

障害者総合支援法第5条 17 項に規定する相談支援事業を行った。

(1) 地域の障害者の福祉に関する相談

生活上の相談、病気のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・水・木・金曜日の午前9時～午後8時
土・日曜日の正午～午後8時

《面接相談》 随時：月・水・土・日曜日の正午～午後7時

予約：水曜日の午前、木曜日の午前と午後4時～午後7時、金曜日

ア. 相談件数

(単位：件)

| 相談の種類 | 電話相談（1日平均） | 面接（1日平均） | 総数 |
|-------|--------------|-------------|-------|
| 25年度 | 6,841 (23.6) | 1,572 (5.4) | 8,413 |
| 24年度 | 7,072 (24.8) | 1,287 (4.7) | 8,359 |

イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計では「不安解消・情緒安定」の内容が50%で最も多く、次に「福祉サービス」に関する相談が29%、「家族関係・人間関係」に関する相談が5%という順であった。今年度は、「福祉サービス」に関する相談が、24年度の21%から29%へ大きく増加した。その他には「家族や人間関係」の相談、「就労の相談」と続き、前年度と同様の傾向が続いている。

(ア) 電話相談

- a. 「不安解消・情緒安定」の内容が最も多く、「福祉サービスの利用」に関する相談が続き、「家族・人間関係」に関する相談の順であった。
- b. 利用者アンケートから、電話相談が利用できるのういんぐを利用しやすいとの回答もあり、相談者の話を傾聴すると共に、相談内容に応じて適切な機関へ繋げることができるよう、相談者が安心できる対応を心がけた。

(イ) 面接相談

年間の予約面接・訪問相談件数および随時相談は 1,572 件であった。随時相談は主にオープンスペースに常に職員を配置し、利用者から職員に相談することができるよう環境整備に努めた。また、訪問による相談も前年度3件から、今年度は 246 件と大幅に増加した。このことは、計画相談支援が本格化したことが理由と考えられる。

(ウ) 関係機関との連携

相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。

電話や面接等で連携を計 1,363 件行い、支援の充実に努めた。前年度と比較し、1,120 件増加しており、件数としては約5倍の増加となった。

(2) 指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し、連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整を図り、関係機関が開催する連絡会議等に参加し連携を深めた。

| 名称 | 内容・構成メンバー | |
|----------------|--|------|
| 地域移行専門部会 | 地域自立支援協議会の専門部会を開催し、精神科病院の入院者・施設入所の障害者の地域移行・定着支援の課題について協議した。 | 3回開催 |
| 障害者地域自立支援協議会 | 障害者の自立した日常生活または社会生活を営むことができる地域生活を構築するため、障害保健福祉関係機関等が連携し、情報の共有および協働を図るための方策を協議する場に参加した。 | 3回参加 |
| 地域精神保健福祉関係者連絡会 | 関町地区と石神井地区における精神保健福祉関係者のネットワークづくりと円滑な連携を図るための連絡会に参加した。 | 6回参加 |

3. 指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第51条20項に規定する計画相談支援事業を行った。

障害福祉サービス利用者がよりよい地域生活が営めるように、障害福祉サービス等の申請に係る支給決定前にサービス等利用計画案を作成し、支給決定後にサービス事業者等との連絡調整を行い、

サービス等の利用計画の作成を行った。

| 内容 | 具体的な取り組み | 件数 |
|------------------------|-------------------------------|------|
| 計画相談契約者 | 適切なサービス等利用計画の作成 | 71件 |
| 計画作成支援 (セルフプラン作成支援) | 適切なサービス等利用計画を自ら立案できるよう支援 | 32件 |
| サービス提供事業所等との連携 | 計画作成及び実行にあたり、事業所等関係機関との調整を行う。 | 824件 |

4. 指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第51条の19第1項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

| 内容 | 具体的な取り組み | 件数、人数 |
|-----------------------|--|-------|
| 地域移行支援計画 | 適正な地域移行支援計画の作成 | 5件 |
| 地域のサービス事業者など、社会資源との連携 | 地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。 入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域との交流を図った。 | 5件 |
| 精神科病院との連携 | 主に社会復帰病棟を訪問し、入院者や医療関係者に地域情報を提供し、地域移行を促す。 ソーシャルワーカーと連携をとり、入院者の地域移行の支援を行った。 | 5件 |
| 退院者 | ういんぐによる地域移行支援計画作成と実施を受け、退院した人数 | 2人 |

5. 地域活動支援センターI型事業

障害者総合支援法第77条第1項第4号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

(1) 障害者の社会との交流の促進

地域の商店会、町会等のイベントに参画、または協力し、地域住民と障害者の交流を図った。また、障害者の参加により、地域活性化にも貢献し、ういんぐを地域の方に知ってもらう機会となり、で活動の場が広がった。

ア. オアシスマつり参加 (5/12、12人)

イ. 石神町会婦人部文化展参加 (4/18~21 出展者9人)

ウ. 「チルコロ石神井」(11/10・3/30、延べ(計)74人)

エ. 「白百合まつり」(台風の影響により中止)

(2) 関係機関との連携

ア. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。

電話や面接等で連携、計539件

イ. 地域の関係機関が主催する会議やイベントに参加することにより、関係機関相互の連携構築に努めた。

「石神町会婦人部定例会・新年会」参加、「民生・児童委員協議会」参加、石神町会防災訓練参加、「石神町会夜回り」参加、白百合福祉作業所「オアシスマつり」参加。

(3) 住民ボランティアとの協働

ア. 障害者に対する理解を深めるため、地域住民との交流を図り、福祉のまちづくりを目指した。

(ア) 精神保健福祉ボランティア講座開催。7人参加(実数)

内容：地域の方を対象に、①ういんぐメンバーとボランティアを講師に講義した。②ういんぐでのボランティア体験(きれいにし隊!・出張ういんぐ・歩き隊)と③グループワークの実施

成果：精神保健福祉の啓発とともに、ボランティア体験を通して当事者との自然な関わりを創出したことでボランティアの役割について理解を深めた。

また、その後の活動につなぐことができた。

(イ) 地域のイベント・お祭りへの参加 ※上記5.(1)参照

イ. 当事者への生活支援、就労支援、地域交流、組織化などの事業に、積極的にボランティアを受け入れた。

(ア) 活動状況 延人数：169人、日数：118日

(イ) 活動内容：「出張ういんぐ」のおやつ作り・外出企画の同行・ヨガ講師・手話講座の講師・手品や演奏・ゲームに参加、「オープンスペース」での話し相手・茶道講師・「きれいにし隊!」

の参加をした。

(4) 実習生の受入れ

ア. 社会福祉士・精神保健福祉士・保健師養成機関等の実習生や見学者を受け入れ、職員の支援と施設の機能及び当事者の活動を伝える役割を担った。

(ア) 受け入れ状況

- a. 資格取得実習（社会福祉士）15人 （精神保健福祉士）3人
- b. 施設体験実習（保健師）6人

(5) 障害に対する理解の促進を図るための普及啓発

| 発行物・イベント等 | 内 容 | |
|-------------------------------|--|--------------------------|
| 石神井障害者地域生活支援センターういんぐだより「すずらん」 | 月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告 | 毎月2,300部発行 関係機関・希望者配布 |
| ういんぐパンフレット | ういんぐの利用について/ういんぐの概要 | 随時発行 |
| ういんぐ主催イベントのチラシ | 講座、パソコン教室、茶道体験、出張ういんぐ、就労プログラム等の周知 | 随時発行 |
| 練馬区社協ホームページ | ういんぐパンフレット/ういんぐだより「すずらん」 | 毎月掲載 |
| 出張ういんぐ開催（大泉、関町） | 区内2所のボランティア・地域福祉推進コーナー（大泉、関町）でテーマを企画し開催した。 | 毎月各1回（2所） |
| 精神保健福祉講座の開催 | テーマ「こころの天気予報」 ～元気なところで暮らすコツ！～ 講師：山澤涼子（大泉病院 精神科医） | 7/23 60人参加 |
| 精神保健福祉ボランティア講座 | ※上記（3）ア（ア）参照 | |
| 地域住民との協働 | 石神町会婦人部定例会、石神町会新年会・防災訓練等に参加。石神町会婦人部文化展参加。チルコロ石神井参加、チルコロ石神井定例出店者会議参加。 | |

(6) 障害者の自立した日常生活を支援するためのプログラム

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供、生活の質を高める援助等を行うためのプログラムを開催し、豊かな生活を送れるよう支援した。

| 名称 | 内容・時間帯 | 人数（延べ） |
|-------------------------|--|------------------------------|
| オープンスペース | 仲間と話しをしたり、安心して居られるスペース。オープンスペースの利用でういんぐに来所することが、相談につながるきっかけになった。 月・水・土・日曜日 正午～午後7時 | 4,985人 |
| パソコンにふれてみよう | パソコンの操作を学ぶことで向上心が高める役割を果たした。専門のインストラクターが一対一に合ったパソコンの技術を指導した。第2・3・4水曜日午後1時～午後5時/4クラス（初心者・初級A・B・復習）を設定 | 449人 |
| 出張ういんぐ（大泉、関町） | 大泉、関町2か所のボランティア・地域福祉推進コーナー（VC）を拠点とし、ういんぐ以外の場所で地域交流の場を展開する。☆第2金曜日・関町VC、第4金曜日・大泉VC（午後1時～午後3時） | 236人 （内、大泉112人 関町124人） |
| きれいにし隊！ | ういんぐ室内や保健相談所周辺地域を利用者とボランティア・スタッフが一緒にきれいにするプログラム。清掃の他、練馬みどりの機構との協働による園芸活動も行った。毎週水曜日（午後2時～午後3時） | 752人 |
| 茶道体験してみませんか？ | 日常的に体験する機会のない、和の静かな世界を体験する機会を提供した。ボランティアである表千家の先生より茶道のお点前の指導を受けた。第3月曜日（午後2時～午後3時） | 120人 |
| 歩き隊！ | 地域生活をする中で、運動する機会を提供するとともに、社会資源を積極的に利用し、利用者やボランティア、スタッフが交流できる機会を持った。月に1回開催 | 103人 |
| IMR（リカバリーと病気の自己管理プログラム） | Illness Management and Recovery（リカバリーと病気の自己管理プログラム）の頭文字で、精神障害者のリカバリーに効果があるとされる複数の支援方法を組み合わせ、総合的に提供できるように開発されたプログラム。このプログラムを提供することによって、当事者が自分の力でリカバリーの道を歩んでいくことを支援した。一定期間の間、毎週土曜日午後3時30分～午後5時に実施。 | 234人 |
| 夕食会（持ち寄り・調理） | メンバー、ボランティア、民生児童委員、スタッフなどで協力しながら調理をし、会話をしながら食事をする。月1回開催 | 270人 |
| 就労プログラム | ハローワーク池袋と協力し、障害者雇用で仕事をしている人の話を聞いたり、現場訪問をする等、仕事に対するイメージを作れるようにサポートする。就労への意欲を高める。 | 125人 |
| 国際交流 | メンバーの意見を収集しながら、NPO法人練馬区障害者福祉推進機構と共同で、国際交流に関するイベントをういんぐにて開催 ①『サウジアラビア』 9月14日・②『インド』 3月9日 （NPO法人練馬区障害者福祉推進機構 「ひとねっと」共催） | 38人 |

| | | |
|----------------------|--|------|
| 季節を感じるプログラム | 利用者懇談会での意見から始まったプログラム。 ・8月かき氷 | 16人 |
| サイコドラマ (夢見るカメレオン) | サイコドラマを通じて演技する参加者同士が抱えている問題などについて、ドラマの中で共感を持つ。偶数月は講師を招き、奇数月はスタッフとメンバーが「夢見るカメレオン」と名付けて実施☆ | 129人 |
| 映画会 | 上映作品のタイトル等をメンバーと検討しながら、当会の準備を行い、実施した。☆1ヶ月に1回開催 | 104人 |
| 障害年金勉強会 | 障害年金について気軽に相談する機会と、障害年金の周知を目的として、社会保険労務士の方を講師に招き、支援者向けの勉強会を行った。3/7開催 | 19人 |
| ういんぐ避難訓練 | 震災が起きたときに安全に避難できるよう、震度5強以上の地震を仮定してメンバー・スタッフとともに避難訓練をした。3/30 | 13人 |
| なでしこ会 | 女性同士で安心して話をしたり、楽しんだりする機会を作る。 また、プログラムを通してういんぐを利用しやすくなるようにする。 | 45人 |
| 創作の日 | 利用者各自の趣味などを活かすために、皆が集まって活動した。文化展共同作品であるネリー看板を作成。 | 98人 |
| 卓球 | 身体を動かしたいという要望から、卓球プログラムを開始した。利用者の親睦、健康増進を目的とする。 | 137人 |
| クリスマス会 | メンバー中心の実行委員を結成し、当会の準備を行い、実施した。 ☆単発企画 | 34人 |

イ. 当事者の支援・組織化

(ア) 当事者、家族、専門職の支援と組織化を図った。

| 名称 | 内容・成果 |
|----------------------------|---|
| 高次脳機能障害者と家族のつどい 「つぼみの会」 | <ul style="list-style-type: none"> 平成22年1月より高次脳機能障害者と家族が集まる場を作った。自分や家族の状況を話し合うなど、情報交換をする場になっている。同じ病気や障害を経験している人や家族同士が、安心して話せる場になっている。 学習会として「成年後見について」、地域住民や支援者を対象に「高次脳機能障害者の理解と対応について」の講座を行った。 |

(イ) 当事者の活動等を、当事者・家族・関係機関等に紹介するための発表会、情報交換や交流を行った。※きららと協働で実施。詳細はきららの6(1)参照

6. 地域移行支援事業

(1) 精神障害者退院促進支援事業

※きららと協働で実施。詳細はきららの6(1)参照。

7. その他

(1) 基盤整備

石神井障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方について検討するため、「運営委員会」や「利用者懇談会」を開催した。

| 名称 | 内容・時間帯 |
|--------|---|
| 運営委員会 | 精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2か月に1回、意見を出し合い、ういんぐの運営についてスタッフとともに検討した。 |
| 利用者懇談会 | 利用者同士が話し合う場であるとともに、ういんぐへの要望を聞き取る機会とした。 毎月1回 土曜日の午後1時30分～午後2時30分 延べ167人参加 |

(2) 人材育成

職員は、情報共有の場である会議や専門性を高める研修に参加し、より良いサービスに繋げた。あわせて職員の講師派遣事業にも積極的に取り組んだ。

ア. 対人援助に必要な研修に参加した。延べ計51回

イ. 福祉従事者に向けた勉強会を開催した。

| 名称 | 内容・日時 | 延べ参加人数 |
|-------------|--|--------|
| IMR 勉強会 | 講師：ルーテル学院大学 福島喜代子教授 開催日：7月18日 IMR についての基礎的学習と、スーパーバイズとしてういんぐでの IMR についての指導方法について学んだ。 | 4人 |
| 成人の発達障害の勉強会 | 講師：こころのクリニック石神井 院長 木村優一氏 開催日：2/10 午後5時30分～ 講義や事例を通して、成人の発達障害者の支援について関係者と共に学んだ。 (きららと共催) | 14人 |

| | | |
|------------|---|-----|
| 誰でも SST 開催 | 第1回(5/25)第3回(1/25)は、講師に同朋大学准教授および SST 普及協会認定講師の吉田みゆき氏を迎え「誰でも参加できる SST」を、当事者、家族、支援者向けに体験・学ぶ勉強会を開催した。(きららと共催) | 73人 |
|------------|---|-----|

(3) 職員(講師)派遣

練馬区やういんぐのよりよいサービス向上につなげるため、都や区内の精神保健福祉関係等の会議に参加しての情報交換、情報の共有化に努めた。また、講師派遣依頼にも積極的に応じることで、障害への理解・啓発を図るとともに、人材育成への協力と自主財源の獲得に努めた。

ア. 各種講座への講師派遣

講師派遣：延べ6回(城西国際大学、練馬障害福祉人材育成・研修センター・石神井保健相談所・陽和病院・東京都立中部総合精神保健福祉センター)

イ. 東京都練馬障害者支援ホーム苦情解決第三者委員派遣：延べ6回

東京都練馬障害者支援ホームより派遣依頼を受け、苦情解決第三者委員として1名派遣した。

(4) 危機管理・安全対策防災(備蓄品の整備・避難訓練等)

町会防災訓練への参加、石神井保健相談所と共同の防災訓練の実施、利用者と定期的な避難訓練とともに、実際に想定した不定期での避難訓練を実施した。また、利用者の防災に関する意識調査(アンケート)や女性の視点で防災について話し合う機会を設けるなど、防災に対する意識啓発に取り組んだ。また、1月の安全対策委員会主催の「BCP」(事業継続計画)研修をもとに、ういんぐにおける発災当日夜までの「BCP」の作成に取り組んだ。

【地域福祉課】

活動計画の重点的な取り組みである地域福祉を推進するため拡大再編された「ボランティア・地域福祉推進センター」と高齢の方や障害を持つ方の地域生活をサポートする「権利擁護センター」、障害福祉サービスに係る人材育成体制及び研修体系を整える「練馬障害福祉人材育成・研修センター」の事業運営を統括し、より質の高いサービス提供を目指し各事業に取り組んだ。

【ボランティア・地域福祉推進センター】

高齢者や子ども、障害者など誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域福祉を推進していく基盤作りに努めた。ボランティアや市民活動の相談、情報提供、研修会の開催などを行い、地域や社会における課題に対し、地域住民がその解決に取り組めるよう支援を行った。重点事業である小地域福祉活動の推進においてはモデル地区にて地域福祉コーディネーターが地域に積極的に出向き、地域住民と関係構築に努めた。地域課題に対し地域で共有し解決していけるよう懇談会や連絡会等の集まりの場を設定し解決に向け取り組んだ。

1. ボランティア・市民活動推進

(1) 相談およびコーディネート事業

ア. ボランティア・市民活動相談

「ボランティアしたい」「ボランティアに応援してほしい」「NPO について知りたい」など、ボランティア・NPO に関する相談に対応した。また、様々な個別の相談に対して、課題の整理・解決等に向けて関係機関や団体、関係者との連携を図った。センター、各コーナーの相談内容としては、センターはNPO関連相談や行政・関係機関からの情報提供、光が丘コーナーは収集活動や特技を活かしたボランティアの相談や外国人からのボランティア相談、大泉コーナーは高齢者や障害者施設からのボランティア相談や学校からの授業依頼、施設からの講座企画相談、関町コーナーは精神障害者や知的障害者からの生活相談等において、それぞれの地域性が表れている。

(単位：件)

| 相談内容 | ボランティア・地域福祉推進センター | 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー | 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー | 関町ボランティア・地域福祉推進コーナー | 総数 |
|-----------|-------------------|----------------------|---------------------|---------------------|-------|
| ボランティアしたい | 232 | 427 | 348 | 147 | 1,154 |
| ボランティアほしい | 205 | 290 | 262 | 151 | 908 |
| NPO 関係 | 196 | 91 | 134 | 56 | 477 |
| 情報提供 | 419 | 237 | 422 | 108 | 1,186 |
| 協力依頼 | 209 | 90 | 206 | 120 | 625 |
| その他 | 180 | 411 | 217 | 524 | 1,332 |
| 総数 | 1,441 | 1,546 | 1,589 | 1,106 | 5,682 |

※「その他」の内容は、主に生活相談や要望などの相談。

ボランティア・地域福祉推進センター、各コーナー（光が丘・大泉・関町）に寄せられた住民の活動相談に関して、センター・コーナー会議等で定期的に相談内容を把握し、確認及び情報の共有化を図るために、ケース検討会議を行った。また、ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会に状況を報告した。

イ. 相談記録データ蓄積

センター、各コーナーの相談記録を蓄積し、相談記録データの整理を行った。現状分析までには至らなかったが、相談の傾向よりNPO講座を企画し、開催に至った。

(2) ネットワーク構築

地域の団体、施設、関係機関との日常的な連携・協力を図り、各種会議へ参加した。

定期的に各団体の会議に出席することで最新の情報を得るとともに、練馬区社協で把握している情報を団体等に提供し、連携を図った。

ア. 地域の団体、施設、関係機関との日常的な連携・協力を図り、各種会議に参加した。

| 会議名 | 開催 | 内容 |
|-----------------------------------|-----|--|
| ねりま子育てネットワーク | 随時 | 区内の子育て支援を行うグループや子育て中の親によるネットワーク |
| 大泉つなぐ会 | 月1回 | 練馬区が実施した「地域福祉計画」策定のための地域懇談会から継続している地域住民、福祉団体スタッフの会 |
| しあわせ福祉ネット・関 | 月1回 | 安心して暮らせるまちづくりを目的に活動する団体・個人・関係機関によるゆるやかなネットワーク |
| ほのぼの館関・運営連絡会 | 月1回 | 相談情報ひろば運営団体との情報交換会(カザバ-として参加) |
| 関町児童館運営委員会 | 隔月 | 地域に開かれた児童館づくりをすすめるための情報、意見交換会 |
| 関中学校評議会 | 年3回 | 地域や社会に開かれた学校づくりを推進するための情報、意見交換会 |
| 練馬区 NPO 活動支援センター運営協議会 | 月1回 | 地域振興課を含む運営団体 5 団体の情報交換会 |
| 高次脳機能障害関係者連絡会 | 隔月 | 当事者、家族、関係機関等による情報交換会 |
| 練馬区区民協働推進会議 | 随時 | 練馬区民との協働指針に基づき、区民と区との協働を一層進めるための具体的な仕組みづくりの会（委員として参加） |
| 地域密着型連携支援事業 | 隔月 | 南大泉、西大泉の障害福祉サービス事業所等の情報交換 |
| 光が丘区民センター施設連絡会 | 年3回 | 光が丘区民センター施設運営団体の情報交換 |
| 「第3回東京石泉ライオンズクラブ福祉音楽祭 in ねりま」企画会議 | 随時 | 東京石泉ライオンズクラブ主催で福祉音楽祭を開催するにあたっての企画・運営の協力（H25.4.26 開催） |
| 練馬区障害者地域自立支援協議会相談支援部会 | 年2回 | 地域における相談支援ネットワークの推進と相談支援体制の整備に関する協議会（委員として参加） |
| 区市町村社協におけるBCPガイドライン策定編集委員会 | 随時 | 研修と訓練の成果をふまえ、各区市町村社協で作成したBCP等を体系的に整理し、ガイドラインとして策定（委員として参加） |
| 暴力・虐待を生まない社会づくり検討委員会 | 年4回 | 暴力・虐待の発生要因の分析等を通して地域や福祉施設による取り組みや手法について検討する会（委員として参加） |

※モデル地区に関しては3.（1）アに掲載

イ. 地域の精神保健連絡会、地域ケア会議など、各種会議へ参加した。

| 会議名 | 開催 | 内容 |
|--------------|----|--|
| 精神保健福祉関係者連絡会 | 随時 | 豊玉、光が丘、石神井、関保健相談所を中心とした情報交換会 |
| 地域ケア会議 | 随時 | 練馬、光が丘、大泉、石神井、関町地域を中心とした高齢者のケアについての情報交換会 |
| ミニ地域ケア会議 | 随時 | 各支所単位で行う、地域の高齢者のケアについての情報交換会 |

ウ. 地域ごとやテーマ別などで必要とされるネットワークの調整を図った。

| 日時 | 会議名（テーマ） | 会場 | 参加人数 |
|-----------|----------------------------|----------------|--------------|
| H25.5.22 | 第6回相談情報ひろば情報交換会 | 食遊 | 7 団体 |
| H25.7.23 | 第7回相談情報ひろば情報交換会 | きずなサロン | 5 団体 |
| H25.9.25 | 第8回相談情報ひろば情報交換会 | おちゃ福 | 6 団体 |
| H25.10.18 | 第1回大泉地域高齢者施設ボランティア担当者情報交換会 | 大泉学園デイサービスセンター | 6 団体 |
| H26.2.1 | 地域活動団体交流会 主催：練馬区福祉部経営課 | 文化交流ひろば | 36 団体 来場者 |

| | | | |
|----------|----------------------------|---------------|-----|
| | ボランティア・地域福祉推進センター | | 82名 |
| H26.2.19 | 第9回相談情報ひろば情報交換会 | あおぞら広場 | 6団体 |
| H26.2.21 | 第2回大泉地域高齢者施設ボランティア担当者情報交換会 | 東大泉デイサービスセンター | 7団体 |

※モデル地区に関しては3.(1)ウに掲載

(3) 市民活動団体・学校・企業・関係機関等へのサポート

ア. 学校の福祉教育への取り組み、関係機関の企画などへの協力や講師派遣等を行った。

| 日時 | 学校・施設・団体名 | 講座・授業名・内容 |
|-----------|-------------------|--|
| H25.5.9 | 都立大泉桜高校 | 奉仕授業「ボランティア入門」 |
| H25.5.30 | 東京都社会福祉協議会 | 新任職員研修 |
| H25.6.5 | 練馬区健康部健康推進課健康づくり係 | 練馬区運動リーダー育成講座受講生向け講座「ボランティアについて」 |
| H25.6.17 | 東京学芸大学附属国際中等教育学校 | 国際教養の授業「社協の説明・地域でできるボランティア活動の紹介」 |
| H25.11.14 | 都立大泉桜高校 | 奉仕授業「ボランティアを始めるためには」 |
| H25.11.15 | 練馬区健康部 豊玉保健相談所 | 生活習慣病予防室～セカンドライフを楽しむための健康マップ講座「ボランティアを始めるには」 |

イ. ボランティア・NPO 団体に対する各種の助成情報の提供、紹介を行った。

情報誌「ぼけっと」などを通じて、各種の助成金情報を提供した。また、ボランティアグループやNPO 法人から相談があった場合には、それぞれの団体に合った助成金の情報を提供し、必要がある場合には推薦コメントの記入や申請書の記入に関するのアドバイスを行った。

(ア) 推薦3件

ウ. ボランティア活動中の事故によるケガなどに対応する「傷害保険」と活動の対象者などが法律上の賠償責任を負った場合に補償する「賠償責任保険」がセットされたボランティア関連保険の受付・手続きを行った。また、施設や団体などが行事を主催する際に加入する行事保険の手続きを行った。被災地へのボランティア活動のための天災プランも多く受け付けた。3月には保険会社の担当者を招いてボランティア保険・行事保険に関する説明会を開催した。なお、これらの保険は保険者である東京都社会福祉協議会と加入事務契約を結んでいる。

(ア) ボランティア保険加入者数 5,391人(天災プラン589人)

(イ) 行事保険加入件数 1,560件

(4) 情報発信

ボランティア・市民活動情報誌『ぼけっと』を発行し、ボランティア・市民活動の周知・啓発に努めた。

ア. 年12回(毎月)発行

イ. 発行部数 約5,000部(A4判8ページ)

ウ. 情報の整理や内容の検討を行い、より見やすいようにリニューアルに向け取り組んだ。

(5) 災害時に備えた取り組み

ア. 「練馬区災害ボランティアセンター」運営に備え、行政・関係機関・地域団体等と連携し訓練を実施した。

| 事業名 | 開催 | 内容 |
|----------------------------|----|---|
| 練馬文化センター視察 | 2回 | 練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて練馬区経営課経営係と社会福祉協議会で練馬文化センターの視察を行った。 |
| 研修等への参加 | 3回 | 東京ボランティア・市民活動センター主催の「災害ボランティア・コーディネーター養成講座」等の研修や「災害ボランティアセンターのあり方」情報交換会に参加。 |
| 練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて打合せ | 4回 | 練馬区災害ボランティアセンター開設、運営に向けて経営課経営係と検討を行った。 |
| 練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練説明会 | 1回 | 練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練に向け参加職員対象に説明会を行った。参加者20名。 |
| 練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 | 1回 | 練馬区災害ボランティアセンター開設予定場所である練馬文化センターにて練馬区福祉部経営課と合同で1月10日に訓練を行った。参加職員等49名。 |

イ. 災害発生時に備え、行政・関係機関・地域団体等とのネットワーク構築を図った。

| 事業名 | 開催 | 内容 |
|--------------|----|---|
| 防災訓練や連絡会等に参加 | 6回 | 避難拠点連絡会や防災訓練等に参加し、住民・行政との連携や「練馬区災害ボランティアセンター」の周知を行った。 |

ウ. 災害ボランティアセンターの役割について周知

会議、講座、民生児童委員協議会などで災害ボランティアセンターについての役割などを伝え周知を図った。

2. 練馬区NPO活動支援センター事業〔練馬区からの受託事業〕

平成18年10月1日に開設した「練馬区NPO活動支援センター」は、複数の団体で事業を運営するネットワーク形式で実施している（25年度は4団体受託）。今年度、ボランティア・地域福祉推進センターは相談事業、講座・イベント事業を受託した。12月には評価委員会で今年度の取り組みの報告を行った。

(1) 相談事業

(単位：件)

| 対応内容 | 一般相談 専門相談 | ボランティア 募集 | 会場利用 相談 | 機材利用 相談 | 広報掲載の 相談 | 相談合計 |
|------|--------------|--------------|------------|------------|-------------|------|
| 件数 | 168 | 29 | 67 | 73 | 140 | 477 |

(2) 講座・イベント事業

ア. NPOに関する基礎的な研修、NPOを対象とした実践的な研修を実施した。

| 日時 | テーマ | 講師 | 会場 | 参加人数 |
|-----------|--------------------------------|---|------------------|------|
| H25.7.3 | NPO立ち上げ前に聞きたい話 基礎編① | 関口宏聡氏（NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会常務理事） | 本庁舎地下多 目的会議室 | 67人 |
| H25.7.11 | NPO法人設立経験者に聞きたい話 基礎編② | 池本泰子氏（NPO法人保育サービスぽてと代表） 小泉晴子氏（NPO法人成年後見推進ネットこれから代表） 小山田剛氏（NPO法人みんなのいちば代表） | 練馬区立勤労 福祉会館2階 | 30人 |
| H25.8.27 | 地元の事例から学ぶ！人がどんどん集まる団体のチカラ | 山浦成子氏（ねりま子育てネットワーク代表） 坂口和隆氏（NPO法人日本NPOセンター事務局次長） | 本庁舎19階 会議室 | 36人 |
| H25.10.1 | 近隣NPOの事例から学ぶ、その委託、上手にいかしていますか？ | 鹿住貴之氏（NPO法人JUON NETWORK 事務局長） 杉澤幹生氏（NPO法人杉並アヤックスサッカークラブ理事長） | 本庁舎20階 交流会場 | 15人 |
| H25.11.15 | NPOの実践事例から学ぶプロボノで スイスイ課題解決 | 嵯峨生馬氏（NPO法人サービスグラント代表理事） NPO法人キズキ 他 | 本庁舎19階 交流会場 | 24人 |
| H25.11.27 | NPOマーケティングとファンドレイジング | 長浜洋二氏（NPOマーケティング研究所代表） | 本庁舎20階 交流会場 | 45人 |

イ. NPOの発展・区民への啓発等を目的としたNPOに関するイベントを実施した。

| 日時 | テーマ | パネリスト | 会場 | 参加人数 |
|----------|----------------------------------|--|-------------------------|------|
| H25.12.6 | NPOスペシャルトーク 悩み解決！人材育成「ヒトを育てる」 | 石川治江氏（NPO法人ケア・センターやわらぎ代表） | 本庁舎20階 交流会場 | 29人 |
| H26.2.22 | トークセッション NPOに聞く！「わかもの支援の今」 | 武田信子氏（武蔵大学人文学部教授） 佐藤真一郎氏（ねりま若者サポートステーション所長） 磯田浩司氏（NPO法人good代表） | 石神井公園区 民交流セン ター2階 | 51人 |
| H26.3.10 | NPO交流会 「人が集まる場作りの工夫」 | まちの縁がわ楽多舎 練馬ママ漫画ルームよんこま 絆家シェアハウス | 武蔵大学 | 16人 |

(3) 運営団体間の連携

受託団体の連携を図るために「NPO活動支援センター運営協議会」に参加し、事業報告および情報交換や協議を行った。（計12回参加）

(4) その他

ア. NPO 交流会（年3回実施）

NPO 同士が課題を共有し交流を深めるための交流会を各受託団体が開催し、運営に参加した。

イ. 地区祭でのPR（光が丘、大泉、関町の各地区祭へのコーナー参加による協力）

ウ. 第4ブロックNPO 担当者の懇談会参加

3. 地域福祉活動推進

(1) 小地域活動推進事業

第3次地域福祉活動計画の重点的な取り組みとして、豊玉と光が丘のモデル地区で小地域福祉活動の推進に取り組んだ。

ア. 地域に出向く

地域の会議等に参加し、小地域福祉活動の取り組みを周知しながら、地域の状況や課題を把握し、住民や地域団体とともに活動への取り組みを行った。

(ア) 豊玉地区

| 名称 | 開催 | 内容 |
|-------------------------|-----|--|
| 民生委員・児童委員協議会(豊玉地区) | 月1回 | 福祉事務所が主催する民生委員・児童委員の定例会議 |
| オレンジの会 | 月1回 | 認知症地域支援の会 |
| 練馬こども笑店街実行委員会 | 月1回 | 練馬駅南口の商店街で開催しているイベントを通し、地域の子育て支援・地域の活性化・親睦を図る会 |
| 練馬駅南地区子どもが育つまちづくりプロジェクト | 月1回 | 地域に開かれた子育て環境づくりを考える会 |
| 練馬駅南地区まちづくり憲章を推進する会 | 隔月 | 練馬駅南口地区の商店会や町会などが参加し、まちの将来像について協議する定例会議 |
| ミニ地域ケア会議 | 年4回 | 高齢者相談センター豊玉支所主催の高齢者支援に関わるケア会議 |
| よろず会議 | 隔月 | 高齢者相談センター豊玉支所、高齢者センターとの情報共有、意見交換の定例会 |
| チョット一緒に話そう会 | 隔月 | 高齢者センターでの出張相談窓口 |
| 地域福祉コーディネーターによる出張相談窓口 | 月1回 | たまり場での出張相談窓口 |

(イ) 光が丘地区

| 名称 | 開催 | 内容 |
|--|-----|--|
| 民生委員・児童委員協議会(光が丘地区) | 月1回 | 福祉事務所が主催する民生委員・児童委員の定例会議 |
| 光が丘地区連合協議会 幹事会 | 随時 | 光が丘地区の自治会、管理組合、区民防災組織（全52団体）の役員が集まる定例会議 |
| 光が丘第3アパート自治会 高齢者対策委員会 | 月1回 | 自治会の取り組みについて意見交換をおこなう定例会議 |
| 光が丘第3アパート自治会 ひまわりサロン世話人会 ボランティア会 | 月1回 | サロン運営に関わる世話人（5人）の運営会議 サロン運営に関わるボランティアの定例会議 |
| 光が丘第3アパート自治会 見守りボランティア会 | 随時 | 見守り活動を担うボランティア同士の情報交換会 |
| ミニ地域ケア会議 | 年4回 | 高齢者相談センター光が丘支所および高松支所主催の高齢者支援に関わるケア会議 |
| 光の架け橋 | 月1回 | 高齢者相談センター光が丘支所・高松支所、高齢者センター、高齢者支援のNPO や事業所等との情報共有、意見交換の定例会 |
| 地域福祉おたすけ隊 | 月1回 | 光が丘・高松・旭町・土支田地区の地域福祉を考える会から継続している地域住民の会 |

イ. 個別課題への取り組み

(ア) 豊玉地区

他団体への訪問や、高齢者センターやたまり場で出張相談窓口を開設して個別相談を受け、必要な情報を提供、関係機関につなぐなど解決に向けた支援を行った。

(イ) 光が丘地区

サロンや相談情報ひろばへの訪問、自治会会議等で個別相談を受け、必要な情報を提供、関係機関につなぐなど解決に向けた支援を行った。

ウ. 地域課題への取り組み

懇談会や連絡会等、地域の関係者が集まる場をつくり、地域で課題を共有し住民リーダーを中心に課題解決に向けた取り組みを行った。

(ア) 豊玉地区

| 日時 | 名称 | 内容 | 参加人数 |
|-----------------|---|--|-------------|
| H25.4.22 | H25 年度第 1 回豊玉地区関係団体懇談会 | 地域課題に関わる情報共有や意見交換 参加者：民生児童委員、町会、商店会、地域活動団体、行政、関係機関 | 14 人 |
| H25.8.月～ 月1回 | ねりま・きれいにし隊 | 商店会の清掃活動 参加者：商店会、地域活動団体、学生、関係機関 | 延べ 131 人 |
| H25.10.8 | 講座 第 1 弾 みんなで学びましょう・認知症について ～認知症サポーター養成講座～ | 認知症についての理解を深める 対象：高齢者センター利用者 | 38 人 |
| H25.12.12 | H25 年度第 2 回豊玉地区関係団体懇談会 | 1 年間の活動報告と今後地域で取り組んでいきたいことなどを共有し意見交換 参加者：民生児童委員、町会、商店会、地域活動団体、行政、関係機関 | 21 人 |
| H26.2.13 | 勉強会 第 2 弾 みんなで学びましょう・認知症について ～認知症になっても安心して暮らすために～ | 10 月の認知症講座参加者の声を受け、認知症講座の第 2 弾を開催 対象：高齢者センター利用者 | 30 人 |
| H26.3.6 | 豊玉地区子育て支援関係団体懇談会 | 地域での子育ての現状について情報共有 参加者：民生児童委員、子育て支援団体、行政 | 6 人 |

- 豊玉地区関係団体懇談会で出された地域課題から、商店会での清掃活動団体の結成に協力し、地域の学生やエコ活動をしている地域活動団体を商店会につないだ。
- 豊玉地区関係団体懇談会で子育ての課題が出され、子育てに関わる個別相談が寄せられることも受けて、「子育て支援関係団体懇談会」を開催し子育て部会の立ち上げを行った。
- 高齢者センターでの出張相談窓口で寄せられた声から、高齢者センター利用者を対象とした認知症講座を提案した。課題に関心をもっていたセンター利用者を企画メンバーとして、利用者の利用者による講座の開催に協力し、認知症地域支援の会をつないだ。センターを利用する仲間が主体となって講座を開催したことで、センター利用者の問題意識が高まり、定期的な講座開催へとつながっている。

(イ) 光が丘地区

| 日時 | 名称 | 内容 | 参加人数 |
|---------------------------------|---|--|--------------|
| H25.4.11 | 勉強会 「孤立化の現状と地域のつながり」 | 地域における孤立の現状を共有し、地域のしくみづくりのための勉強会 対象：光が丘地区連合協議会 (孤立化° ヲヾ 外チム) | 5 人 |
| H25.6.16 | 講演会 「～団地の新しい取組事例から学ぶ～ 見守りと防災の拠点づくり」 | 対象：自治会関係者、民生児童委員、地域住民 講師：立川市けやき台団地 自治会役員 | 80 人 |
| H25.6.6 ～6.7 | 宿泊研修 「孤立化の現状と地域連携」 | 孤立死の現状と地域の対応に関する意見交換と研修会 対象：光が丘地区連合協議会の役員 | 15 人 |
| H25.7 月 ～H26.2 月 (11 回開催) | 「おせっかいなまち・光が丘～孤立死ゼロをめざして～」小冊子作成委員会 | 小冊子作成、編集の委員会 参加者：自治会関係者、民生児童委員、行政関係機関、警察・消防(全 18 名) | 18 人 (/回) |
| H25.8.2 | 講座 「認知症サポーター講座」 | 認知症についての理解を深める 対象：生協の配達員、地域住民 | 84 人 |
| H25.10.31 | 第 1 回 光が丘見守り連絡会 | 生協による見守り活動報告および見守り訪問員の活動報告と意見交換 対象：民生児童委員、見守り訪問員、自治会関係者、地域住民 | 40 人 |
| H26.2.8 | 光が丘 5 丁目自治会サロン 健康チェックと健康に関わる勉強会 | 保健生協の協力による血圧や骨密度等の測定と骨に関わる健康講座 参加者：地域住民 | 23 人 |

| | | | |
|----------------|-----------------------------------|--|-----------|
| H26.2.12 | 民生児童委員と保健相談所の意見交換会 | 保健師と民生児童委員の情報共有と意見交換 参加者：保健師、民生児童委員 | 29人 |
| H26.2.22 | 光が丘7丁目3自治会合同防災訓練 | 防災倉庫の確認と防災マニュアルの紹介 参加者：地域住民 | 26人 |
| H26.2.22 | 光が丘6丁目管理組合 成年後見勉強会 | 成年後見制度の利の説明と活用事例 参加者：地域住民 講師：NPO 法人のぞみ会 協力：日本大学(落語研究会) | 33人 |
| H26.3.30 | 講演会 「おせっかいなまち・光が丘～孤立死ゼロをめざして～」 | 孤立の現状と地域のつながりについて 対象：地域住民 講師：NPO法人高齢社会をよくする女性の会 (樋口恵子氏) | 102人 |
| H25.4月～ 月1回 | 男性介護者のつどい「一笑会」 | 家族介護に関する情報共有と情報交換 参加者：家族を介護する男性の介護者 | 延べ 93人 |

- 東京都生活共同組合連合会や東京都保健生協が取り組んでいる「福祉のまちづくり・練馬」連携
光が丘地区における見守りのしくみづくりを行い7月から活動を開始し、第1回見守り連絡
会で活動報告を行った。
- 「おせっかいなまち・光が丘～孤立死ゼロをめざして～」(小冊子)作成
昨年度開催した「孤立化しない・させない関係者連絡会」で話し合われた内容が形となって実
現した。自治会関係者によるプロジェクトチームの結成、勉強会や宿泊研修等を事前におこない、
自治会関係者、民生児童委員、警察・消防、行政関係機関の18名からなる委員会で議論を重ね、
3月に完成、光が丘地区の約12,000世帯に全戸配布を行った。
本取り組みについては、11月、練馬区企画部企画課主催のシンポジウム「ゆるやかにつな
ろう～地域の新しい支え合いのカタチ～」で、事例として発表した。

エ. 住民リーダーへの支援

地域課題の解決に向けて住民が主体的に取り組んでいけるよう、住民リーダーの支援を行った。

(ア) 豊玉地区

商店会での清掃活動に関して、商店会役員と話し合いながら活動方法や広報等を一緒に考え、
活動を支援した。また、地域活動者から商店会でのたまり場の立ち上げ相談を受け、他区のサロ
ンへの視察を提案して同行し、企画・立ち上げ支援を行った。

(イ) 光が丘地区

自治会の会合への参加や自治会役員との話し合いの場を個別に設けて役員の相談に乗りなが
ら自治会活動の活性化を支援した。また、サロンで行うプログラムや勉強会の企画に協力する等、
サロンの運営を支援した。

3月に完成した小冊子「おせっかいなまち・光が丘～孤立死ゼロをめざして～」を活用した勉
強会やつどいの企画、開催について、自治会関係者や民生児童委員への支援を来年度も引き続き
行っていく。

4. 人材育成

(1) 研修・講座等の企画・実施・協力

ア. ボランティア講座

住民を対象に、ボランティアについて基本的な理解をすすめる、活動のきっかけとなる講座を主
催、または関係機関への協力を行った。

| 日時 | テーマ | 主催者(会場) | 参加人数 |
|------------------------|--------------------------------|--------------------------|-------|
| H25.7.9 H25.7.23 | 第1回光が丘福祉園を知ろう!第2回ボラ ンティア説明会 | 光が丘福祉園 | 延べ25人 |
| H25.7.29 H25.10.28 | 石神井台敬老館 ボランティア講座(全2回) | 石神井台敬老館 | 延べ40人 |
| H25.9.20 H25.10.1 | 西大泉敬老館 ボランティア講座(全2回) | 西大泉敬老館 | 延べ20人 |
| H25.11.2 11.8、11.16 | 精神保健福祉 ボランティア講座(全3回) | 石神井障害者地域生活支援セン ターういんぐ | 延べ47人 |
| H25.11.29 | 武蔵大学 ボランティア講座 | 武蔵大学 | 18人 |
| H26.2.5 | 白百合福祉作業所 ボランティア説明会 | 白百合福祉作業所 | 6人 |

| | | | |
|---------------------|-----------------------------------|----------------|-------|
| H26.2.27 H26.3.6 | 光が丘びよびよ 第1回見学会 第2回ボランティア説明会 | 光が丘子ども家庭支援センター | 延べ12人 |
|---------------------|-----------------------------------|----------------|-------|

イ. 地域福祉入門セミナー

住民が地域福祉活動を始めるきっかけづくりとして、区との共催でセミナーを開催した。

| 日時 | 会議名(テーマ) | 内容 | 参加人数 |
|-----------|----------|---|------|
| H25.6.4 | 江古田地域編 | 2コースに分かれ、ゆうゆうぼてと、第2育秀苑、えごのみ、すのうべる、希望の車いす、栄町敬老館、ギャラリー古藤を訪問見学。 | 20人 |
| H25.10.29 | 練馬北西部編 | こぐれの里、大泉障害者支援ホーム、われもこう、かたくり福祉作業所、谷原フレンド、つくりっこの家をバスで訪問見学。 | 16人 |
| H26.2.24 | 参加者のつどい | 今年度の地域福祉入門セミナー参加者同士の情報交換会。つながりをつくるとともに、今後の地域福祉活動への情報提供を行った。また、貫井福祉工房(併設施設:貫井福祉園・貫井活動交流室)を見学し、障害者施設の理解を深める機会とした。 | 19人 |

ウ. 地域市民講座

地域の課題を住民と共有し、課題解決に向けてともに考えていくための講座を開催した。

| 日時 | テーマ | 内容 | 会場 | 参加人数 |
|----------|--------------|-----------------------------------|---------|------|
| H26.3.20 | 2014年3月、福島の今 | 福島から避難してきた方から、震災当時の状況と現在の福島についての話 | ギャラリー古藤 | 18人 |

エ. パワーアップカレッジねりま

「地域福祉パワーアップカレッジねりま」(区主催)において、地域活動アドバイザーとして関わり、今後地域活動を担う人材の育成、授業の企画・運営に取り組んだ。学生や卒業生からの個別の相談を受け、団体の立ち上げ・運営・周知、情報提供、今後の活動、助成金夏休みの宿題、インターンシップ等に対し助言や支援を行った。

オ. 福祉施設・病院ボランティア担当者等従事者向け研修

福祉サービス従事者向けに福祉施設・病院のための受入れについての研修を「NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会」と共催で企画・開催した。

| 日時 | テーマ | 講師等 | 会場 | 参加人数 |
|---------|---------------------------|---|------------|------|
| H25.7.5 | 福祉施設・病院のためのボランティアマネジメント研修 | 後藤麻理子氏(日本ボランティアコーディネーター協会事務局長) 樋口実氏(中野区かみさぎ特別養護老人ホームボランティアコーディネーター) 堀越未央氏(大泉学園デイサービスセンターボランティアコーディネーター) | 練馬区立勤労福祉会館 | 29人 |

カ. ボランティア体験学習

宿題、課題等でボランティア体験が必要な方を対象として、ボランティアを受け入れている福祉施設等で体験する機会を提供した。(体験参加者16人)

5. 東日本大震災避難者に対する孤立化防止などの取り組み

東京都の孤立化防止事業を受託するとともに練馬区内に避難されている方に対し、必要な支援や情報提供、交流の機会としてサロンを企画、開催した。

(1) 情報誌等を発行し情報提供を行った

| 事業名 | 発行日 | 内容 |
|--------------------------|----------|--|
| 「こんにちは練馬区社会福祉協議会です」No.7 | H25.5.1 | ・「第2回サロンこらっせ」報告 ・地域のイベント等情報提供など |
| 「こんにちは練馬区社会福祉協議会です」No.8 | H25.9.3 | ・「第3回サロンこらっせ」案内 ・相談窓口の案内など |
| 「こんにちは練馬区社会福祉協議会です」No.9 | H25.12.6 | ・「第4回サロンこらっせ」案内 ・地域の情報提供など |
| 「こんにちは練馬区社会福祉協議会です」No.10 | H26.3.13 | ・「第4回サロンこらっせ」案内(雪のため延期) ・地域の情報提供など |
| 大堀相馬焼き販売協力 | 適宜 | 震災後、販路が絶たれたため、各コーナーで大堀相馬焼を設置し、宣伝および販売を行った。 |

(2) 課題を抱えている方への個別相談、支援

社協への個人情報の提供に承諾を得た世帯に対して、電話連絡や訪問を行い、現在の状況のヒアリングを行った。就労、子どもの進学、住居、病状についてなど幅広い相談があり、定期的な訪問や電話連絡による情報提供等を行った。訪問・電話連絡件数 述べ 174 件

(3) イベント

避難されている方と住民同士が交流できる場を企画し開催した。

| 日 時 | テ ー マ | 会 場 | 参加人数 |
|----------|--------------------------|--------------------|------|
| H25.9.30 | 第3回「サロンこらっせ」開催 内容：落語 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら | 10人 |
| H26.3.23 | 第4回「サロンこらっせ」開催 内容：芋煮会 | 西大泉敬老館 | 16人 |

6. 拠点運営

(1) 施設やボランティア団体等への支援

各拠点で会議室、コピー機・印刷機等の機材の貸出し、施設・団体の自主製品の販売代行を行った。

ア. 会議室貸出し

| 拠 点 名 | 利用団体総数（団体） | 利用者総数（人） |
|----------------------|------------|----------|
| ボランティア・地域福祉推進センター | 417 | 3,587 |
| 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー | 608 | 4,578 |
| 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー | 239 | 1,926 |
| 関町ボランティア・地域福祉推進コーナー | 343 | 4,068 |
| 計 | 1,607 | 14,159 |

イ. コピー機・印刷機貸出し

| 拠 点 名 | 利用団体総数（団体） |
|---------------------|------------|
| ボランティア・地域福祉推進センター | 14 |
| 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー | 55 |
| 計 | 69 |

ウ. 自主製品販売代行

| 拠 点 名 | 団体数 |
|----------------------|-----|
| 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー | 5 |
| 大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー | 17 |
| 関町ボランティア・地域福祉推進コーナー | 6 |
| 計 | 28 |

(2) 出張きらら・出張ういんぐの実施

豊玉障害者地域生活支援センターきらら、石神井障害者地域生活支援センターういんぐと共催で各コーナーを拠点にプログラムを企画・開催し障害者がより豊かな生活を送れるきっかけづくりに努めた。（出張きらら：P36(5)ア、出張ういんぐ：P42(6)ア 参照）

(3) 福祉機器等の貸出

他制度による給付や貸し出しの対象にならないが、車椅子の利用が必要な方に、低額で貸し出しを行なった。車いす貸与（保有数 30 台）

| 貸出拠点 | 貸出数 | 車いす貸出し延べ台数 | 車椅子貸出し台数の内訳 | |
|----------------------|-----|------------|-------------|--------|
| | | | 個人 | 学校・団体等 |
| ボランティア・地域福祉推進センター | | 35 | 29 | 6 |
| 光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー | | 21 | 20 | 1 |
| 計 | | 56 | 49 | 7 |

(4) 地域の社協窓口としての役割

社協の会員・寄付の受付や募金活動、社協のキャラクターグッズの販売などを行うとともに、各部署のパンフレットを設置して、必要に応じて担当部署につないだ。

7. 組織運営

(1) 運営委員会の設置

ボランティア・地域福祉推進センターの事業や、センター・各コーナーに寄せられる相談内容から特に高齢者の見守りや外出支援、障害児者や傷病患者の生活支援の対応について報告・協議等を行った。また、地域福祉活動計画の重点事業である小地域福祉活動のモデル地区の豊玉・光が丘の取り組みの報告を行った。(定例会議年8回開催)

(2) スタッフ会議、コーナー担当者会議等の開催

スタッフ会議(センター、各コーナーの全職員参加)およびコーナー担当者会議(各コーナー責任者とセンター職員参加)を月1回設け、情報交換や運営等に関する協議を行った。また、拠点ごとに連絡調整やケース検討を行うため、会議を行った。

(3) 職員の研修参加

職員の資質向上を図るため、内外の研修に参加した。外部研修23講座、延べ30人参加。

(4) 広報・啓発事業

ア. ボランティア・市民活動情報誌『ぼけっと』を発行した。

(ア) 年12回(毎月)発行

(イ) 発行部数 5,000部(A4判8ページ)

イ. インターネット・ホームページ、センターブログ「ぼけっとのうらがわ」(年70回更新)などメディアを活用して、ボランティアやNPOに関する情報を積極的に発信した。

ウ. リーフレットを活用し、センターの役割・機能について住民にわかりやすく情報提供を行った。

(5) 自主財源の確保

寄付金の有効活用および事業収入の確保に努めた。

ア. 寄付金(ボランティア・地域福祉推進センター受付分) 13件 258,309円

イ. 情報誌「ぼけっと」広告掲載料 18件 90,000円

ウ. 使用済み切手収入 56,195円

エ. バザー収入 142,810円

【権利擁護センターほっとサポートねりま】

高齢や障害等のために支援を必要とされる方々が、適切な福祉サービスを選択し、地域で安心して生活を送ることを目的として、福祉サービスや制度の情報提供を行い、福祉サービスの利用援助、成年後見制度の利用相談や支援事業を行った。また、練馬区における「成年後見制度推進機関」として、制度の周知・普及と活用を進めるための事業に取り組んだ。

1. 相談事業

(1) 一般相談

ア. 問合せ・相談・調整状況

(ア) 受付件数

(平成26年3月31日現在)

| 相談件数・状況(件) | 年度 状況 | 23年度 延件数 | 24年度 延件数 | 25年度 | | | |
|------------|----------|-------------|-------------|----------|-----|-------|-----------|
| | | | | 相談の内訳(人) | | | 延相談 件数 |
| | | | | 問合せ | 初回 | 継続 | |
| 認知症高齢者等 | | 4,363 | 4,444 | 8 | 485 | 4,409 | 4,902 |
| 知的障害者 | | 477 | 475 | 3 | 49 | 720 | 772 |
| 精神障害者 | | 1,100 | 1,073 | 1 | 91 | 1,747 | 1,839 |
| その他 | | 1,120 | 577 | 67 | 135 | 617 | 819 |
| 計 | | 7,060 | 6,569 | 79 | 760 | 7,493 | 8,332 |

※状況の「その他」は、難病や高次脳機能障害の方、疾病・障害などの内容が不明な方。

(イ) 上記のうち成年後見制度に関する件数

| 23年度 | 24年度 | 25年度 |
|----------|------------|------------|
| 延べ相談717件 | 延べ相談1,023件 | 延べ相談1,482件 |

イ. 相談の傾向

(ア) 相談件数

昨年度に比べ全体で約1,800件増加した。相談の内訳は、特に継続相談件数が大幅に増加しており、本人状況別でもすべての項目で増加していた。昨年度と比較し、知的障害者は6割

強、精神障害者に関しては7割強増加した。また、初回相談件数についても、知的障害者、精神障害者からの相談件数が増えている。特に、精神科病院および障害者地域生活支援センターの職員からの相談件数が増加している。内容は、障害者総合支援法施行により計画相談事業が実施され、退院促進や地域定着のためのサービス利用計画に関する相談が多かった。その他の相談内容は例年通り多岐にわたっていた。

(イ) センター事業への問い合わせと外部への発信の機会の増加

今年度は都内及び他府県の社会福祉協議会からの問い合わせは11件あった。また、他県の社会福祉協議会から成年後見制度推進における社会貢献型後見人養成の取り組みに関する講師依頼があり、後見監督人として社会貢献型後見人と同行し近隣2県で活動報告を行った。

(ウ) 練馬区における成年後見制度推進機関としての認知向上

ケースワーカーや介護保険関係機関などから、制度や複雑なケースについての問い合わせなど関係機関からの相談は増加している。成年後見制度の本人や親族への説明依頼や説明時の同席を求められることも増えた。さらに、今年度は新たに成年後見制度のチラシを作成し、広報周知に努めた。

(エ) 地域福祉権利擁護事業の支援内容検討会モデル事業の実施

東京都社会福祉協議会より、地域福祉権利擁護事業の取り組み方法についての検証を行うため、「支援内容検討会のモデル事業」の実施依頼を受け3回実施し、その利点、問題点を明らかにした。

(2) 成年後見制度専門相談

司法書士による専門相談を実施した。相談内容は、高齢の親の申立に関する相談や財産管理、相続についてなど多岐にわたっていた。高齢者からの、配偶者の申立てに関する相談も多くなっている。

| 開催 | 相談員 | 会場 | 開催回数等 |
|----------------------|---------------------|--------------------------|-----------------|
| 原則毎月第1水曜日 (祝祭日除く) | 東京司法書士会 練馬支部司法書士 | ボランティア・ 地域福祉推進センター会議室 | 全10回開催 18件相談 |

(3) 権利擁護法律相談

地域活動団体との共催で、身近な地域で高齢者や障害者のための弁護士による法律相談会を実施した。実施回数4回。

2. 福祉サービス利用援助事業

(1) 地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）

認知症や物忘れのある高齢者、知的障害者、精神障害者を対象に、本人の意向を尊重しながら、福祉サービスを利用するための支援調整や、日常的な金銭管理、書類預かりの支援を行った。具体的には、介護保険や障害福祉サービス・医療・保険などの利用申請手続きや更新、賃貸住宅契約更新や区民税の申告など、地域で生活するために必要な手続きや収入・支出に基づいた日常的な金銭管理の支援、親族・関係者調整などであった。

平成25年度は128人が利用した。新規契約は33件あり、特に精神障害者の契約件数が約4割増加した。障害者総合支援法施行により計画相談事業が実施されたことが増加要因の一つになっていると考えられる。

終了(解約)件数は17件で昨年に比べ減少した。終了事由は施設入所が約4割と最も多かった。終了者については、本人状況の変化に合わせ、関係機関などと連携しながらより適切な制度・機関に引き継ぎを行った。

(平成26年3月31日現在)

| 利用者数・状況人 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | | | |
|----------|----|------|------|-------|---------|-----|---------|
| | | | | 新規契約数 | 年度中利用者数 | 解約数 | 年度末利用者数 |
| 認知症高齢者等 | | 62 | 63 | 22 | 85 | 14 | 71 |
| 知的障害者 | | 12 | 11 | 2 | 13 | 2 | 11 |
| 精神障害者 | | 13 | 14 | 7 | 21 | 1 | 20 |
| その他 | | 8 | 7 | 2 | 9 | 0 | 9 |
| 計 | | 95 | 95 | 33 | 128 | 17 | 111 |

※状況の「その他」は、難病、高次脳機能障害者など。

(2) 財産保全サービス・各種手続代行サービス

加齢や身体障害により、預金の払い戻し・各種支払いや手続きが困難な方に、書類などの預かりや手続きの代行を実施した。平成 25 年度中は、17 人が利用し（新規契約 3 人）、地域福祉権利擁護事業や他制度への移行などで 3 人が解約となった。（平成 26 年 3 月 31 日現在）

| 利用者数・状況（人） | 年度 状況 | 23 年度 | 24 年度 | 25 年度 | | | | | | |
|------------|----------|----------|----------|-------|------------|-----|------------|----------|----------|----|
| | | | | 契約数 | 年度中 利用者 | 解約数 | 年度末 利用者 | 契約内容内訳 | | |
| | | | | | | | | 財産 保全 | 手続 代行 | 併用 |
| | 認知症高齢者等 | 12 | 10 | 1 | 11 | 2 | 9 | 2 | 6 | 1 |
| | 知的障害者 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| | 精神障害者 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| | その他 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| | 計 | 16 | 14 | 3 | 17 | 3 | 14 | 3 | 9 | 2 |

※状況の「その他」は、身体障害者。

3. 成年後見制度の利用推進

(1) 周知普及事業

ア. 地域の「ほっと相談会」

今年度も、地域団体や専門職団体とのネットワークを活用した地域での事業推進に取り組んだ。東京司法書士会練馬支部と合同で「合同相談会」、三弁護士会・法テラスと共催で「巡回無料相談会」を行い、成年後見制度を中心に法律などに関して、地域住民が身近な地域で専門職に無料相談が出来る機会の提供を行った。また、成年後見制度推進NPO法人と共催で地域相談会を実施し、気軽に相談できる機会を設けた。

| 開催日 | 相談員 | 会場 | 主な相談の内容 | | |
|-----------|------------------------|-----------|---------|-----------|------------|
| | | | 後見制度 | 遺言・ 相続 | 財産管理 関係 |
| H25.6.22 | センター職員 | かたくり福祉作業所 | 1件 | | |
| H25.8.12 | センター職員 | おちゃ福 | 2件 | | |
| H25.10.19 | 司法書士・センター職員 (合同相談会) | 大泉勤労福祉会館 | 10件 | 3件 | |
| H26.2.10 | センター職員 | おちゃ福 | 3件 | | |
| H26.3.9 | 弁護士 (巡回無料相談会) | 光が丘区民センター | 5件 | 12件 | 1件 |

イ. 制度説明会・学習会

講師依頼を受け、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の周知普及のため、研修や制度説明会で制度概要や具体的な活用方法について伝えた。当事者や家族会向けの内容についての依頼が多かった。今年度も資料作成や伝達方法を対象者ごとに工夫して周知普及を図った。また、制度や事業が必要な方に適切に情報が届くよう、福祉業務従事者を対象とした、制度・事業の説明会、勉強会に注力した。

| 年月日 | 会議名称等 | 実施主体 |
|-----------|-----------------------|------------------------|
| H25.6.6 | 成年後見制度 シリーズ1 | 手をつなぐ親の会 |
| H25.6.28 | 成年後見制度の概要と相談事例 | NPO法人 練馬家族会 |
| H25.7.17 | 権利擁護と成年後見制度を知ろう! | NPO ACT 居宅介護支援事業所ねりま |
| H25.7.20 | お金の使い方 | 大泉障害者地域生活支援センター さくら |
| H25.7.26 | 成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について | 大泉障害者地域生活支援センター さくら |
| H25.7.29 | 成年後見制度について | つぼみの会（高次脳機能障害者と家族の会） |
| H25.8.8 | 成年後見制度 シリーズ2 | 手をつなぐ親の会 |
| H25.8.27 | 市民後見人育成養成事業について | 厚木市社会福祉協議会 |
| H25.9.5 | 成年後見制度活用講座1 | 練馬障害福祉人材育成・研修センター |
| H25.9.13 | ほっとサポートねりまの事業について | 練馬区高齢者相談センター |
| H25.10.10 | 成年後見制度 シリーズ3 | 手をつなぐ親の会 |

| | | |
|-----------|--------------------------|--------------------------|
| H25.12.6 | 成年後見制度活用講座 2 | 練馬障害福祉人材育成・研修センター |
| H25.12.14 | お金の使い方 | 光が丘障害者地域生活支援センター すてっぴ |
| H26.1.16 | ほっとサポートねりまの事業について | 練馬区社会福祉事業団 地域福祉課 |
| H26.1.25 | 地域福祉権利擁護事業について | 光が丘障害者地域生活支援センター すてっぴ |
| H26.1.27 | 新任民生児童委員研修 | 練馬福祉事務所 |
| H26.1.29 | 新任民生児童委員研修 | 大泉福祉事務所 |
| H26.1.29 | 新任民生児童委員研修 | 光が丘福祉事務所 |
| H26.2.5 | 成年後見制度活用講座 3 | 練馬障害福祉人材育成・研修センター |
| H26.2.23 | 社会貢献型後見人（市民後見人）の養成事業について | NPO法人成年後見推進ネット これから |
| H26.2.25 | 成年後見制度について | 練馬介護人材育成・研修センター |
| H26.3.1 | 社会貢献型後見人（市民後見人）の養成と実践報告 | 川越市社会福祉協議会 |
| H26.3.7 | 成年後見制度と地域福祉権利擁護事業について | ほっとスペース関町 |
| H26.3.19 | 成年後見制度について | 社会福祉法人 奉優会 |

ウ. 講演会

成年後見制度の利用促進と親族後見人サポート事業の一環として、成年後見人等を受任している社会福祉士でもある弁護士を講師に招き、親族後見人の円滑な後見業務推進のヒントを伝える講演会を行った。

| 開催日 | 内 容 | 講 師 | 会 場 | 参加 |
|----------|--|---------------------|--------------------------|-----|
| H25.9.30 | 家族の後見人をしていて悩みはありませんか？ ～本人を尊重した支援を行うためのヒントをお伝えします～ | 社会福祉士・弁護士 寺町 東子氏 | 練馬区役所 本庁舎地下 1階 多目的会議室 | 38人 |

エ. チラシの作成、配布

制度概要や権利擁護センターほっとサポートねりまが成年後見制度の推進機関であることを周知するために、区民や関係者が気軽に手に取ることが出来るチラシを作成し、広報周知に努めた。関係機関に、窓口などへの設置や対象となり得る方への配布の依頼を行い、さらなる周知普及を図った。

(2) 後見人サポート

練馬区民で親族の成年後見人等になっている方、成年後見人等になる予定の方々の後見人等の業務支援を行った（ねりま後見人ネット）。今年度は多くの親族後見人等が気軽に相談できる窓口として「親族後見人相談室」を開設すると共に、親族後見人等の支援に特化した上記の講演会を行った。また、今年度も広く情報提供を行うため「ねりま後見人ネットだより」を発行し、関係機関の協力を得て広く配布を行い、「ねりま後見人ネット」の周知を図った。

(3) 地域ネットワークの活用

ア. 関係行政機関との連携

個別の支援において連携を図るとともに、困難ケースなどの情報共有に努め、問題解決に向けての検討を行った。また、成年後見制度関係者会議に参加し、区長申立てや社会貢献型後見人受任ケースなどに関して、検討・協議した。受任について決定し、平成25年度は3件受任した。

イ. 地域住民ネットワークとの連携

地域住民組織などとの連携を強化するため、事業説明・相談会などを実施した。また、個別の支援において、利用者の見守りなどで連携を図った。

ウ. 成年後見制度推進 NPO などとの連携

成年後見制度の利用促進を行う NPO と情報交換を行うとともに、NPO との共催で地域相談会を開催し、制度の周知・普及のための連携を図った。

エ. 「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」の開催

区民の成年後見制度利用を支援する仕組みとして、様々な立場の専門家、行政関係者が連携・協働していくため、成年後見制度に関わる制度の動向について情報共有を行った。事例検討を中心に被後見人等への関わり方や後見業務の推進方法等について様々な立場から意見交換を行い、制度推進に関する課題の共有、整理、解決に向けての取り組みを行った。

| 開催日 | 内 容 | 参 加 者 | | | | | | | | | 合 計 |
|------------|-----------------------------------|-------|------|-----|------|-----|------|---------|-----|----------|-----|
| | | 社会福祉士 | 行政書士 | 税理士 | 司法書士 | 弁護士 | 精神科医 | 社会保険労務士 | 保健師 | 行政関係者 | |
| H.25.7.8 | 障害者総合支援法・被後見人の選挙権・精神保健福祉法の改正・情報交換 | 5人 | 2人 | 2人 | 4人 | 3人 | 1人 | 2人 | 1人 | 14人(7機関) | 34人 |
| H.25.12.19 | 事例検討・成年後見制度の動向・情報交換 | 1人 | 1人 | 2人 | 4人 | 1人 | 0人 | 2人 | 2人 | 15人(7機関) | 28人 |

(4) 後見人養成・支援

ア. 後見人養成

(ア) 養成の目的

親族で適切な後見人が見つけられず、専門職に依頼するには資産がない方の制度利用促進と、判断能力が不十分な方々が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、同じ生活者の視点で地域生活を支える後見人等の確保と質の確立を目的として、社会貢献型後見人の養成を行った。

(イ) 養成研修等の実施

今年度も公募を行い、社会貢献の精神で地域での後見業務に関心のある4人を新たに迎えて、社会貢献型後見人の受任を目指す19人の地域住民を対象に、後見業務に関わる研修、実習を行った。今年度は、後見業務実務の理解を深めるため、後見監督人に提出する書類等の記載方法など、後見業務の実務研修を充実させた。

(ウ) 独自養成の検討

平成26年度から、現在東京都が行っている養成の基礎研修が市区町村事業となることに伴い、練馬区では独自養成を行う。このため、より効果的な研修実施に向けて行政担当部署と検討を重ね、募集時期やより効果的なカリキュラム内容などの確定、作成を行った。

| 研修 (行政施策や対象者理解等) | 実習・見学 (福祉作業所・施設) | 実務研修 | フォローアップ研修 | 受任者懇談会 |
|---------------------|---------------------|------|-----------|--------|
| 8回 | 6回 | 3回 | 2回 | 1回 |

(エ) 実践報告

平成26年度からの社会貢献型後見人養成事業の変更に伴い、今年度より東京都が開催した後見人等候補者養成事業運営担当者連絡会において、26年度より基礎研修を含め新たに取り組む自治体の代表として、東京都の依頼により実践報告を行った。

イ. 社会貢献型後見人の受任支援

(ア) 定期面談・懇談会の実施

登録メンバーが不安なく受任できるよう、定期面談を行い、受任の意向を確認すると共に、後見業務に関する疑問や不安を確認・解消する機会を設定した。また、受任者を中心とした懇談会を開催し、受任者間の情報共有や後見活動時の課題の把握、解決に努めた。

(イ) 受任の推進

今年度も、行政が実施する成年後見制度関係者会議において、社会貢献型後見人の紹介の仕組みなどの説明を行い受任の推進を図った。また、社会貢献型後見人の受任ケースの選定について、成年後見制度関係者会議および権利擁護センター運営委員会において協議するとともに、養成研修受講者の受講状況や受任意思の確認、候補者の選定について協議を行い、3件受任した。その内1件は専門職との連携を図り、専門職が受任した後、専門的対応の事由が終了した被後見人の受任を引き継ぐ、リレー方式での受任をモデル的に行い社会貢献型後見人の受任の拡大を進めた。

ウ. 後見監督人の受任および後見監督業務

(ア) 後見監督人の受任

今年度は、社会貢献型後見人の受任継続ケース7件および新規受任の3件について後見監督監督を行った。

(イ) 後見監督業務

新規に受任した3件については、財産目録の作成等業務開始のための事務手続きの支援を行い、1年以上経過した7件すべてについて支援計画作成支援を行うと共に、家庭裁判所に報告をした。

また、被後見人の死亡事例が2件発生したため、死亡時の各手続き等について、社会貢献型後見人への助言や家庭裁判所との調整など、円滑な手続きのための支援を行った。

さらに、今年度は受任後に高額な資産が発見された事例が発生したため、社会貢献型後見人の受任対象としての適切性を運営委員会などで諮り専門職への引き継ぎを行った。引き継ぎのための家庭裁判所との調整および申立て手続き、専門職との引き継ぎなどについて社会貢献型後見人への助言等適切に業務推進するための助言を行った。

(ウ) 後見監督業務の整備

社会貢献型後見人が信頼性の高い後見業務を行なえるように支援するため、後見監督業務のマニュアルの整備を行うと共に、受任者懇談会において報告様式見直しのための意見を集約し、適正に効率的な情報伝達ができるよう報告様式の改訂を図った。

[社会貢献型後見人及び後見監督人受任状況]

| 項目 | A | B | C | D | E | F |
|-------|-------------------|----------------|-------------------|----------------------|----------------|-------------------|
| 状況 | 認知症高齢者 | 知的障害者 | 認知症高齢者 | 認知症高齢者 | 精神障害者・認知症高齢者 | 認知症高齢者 |
| 類型 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 |
| 後見人 | 第1期 養成研修受講者 | 第2期 養成研修受講者 | 第1期 養成研修受講 | 第2期 養成研修受講者 | 第2期 養成研修受講者 | 第5期 養成研修受講者 |
| 申立人 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 |
| 審判 | H20.12 | H20.11 | H21.1 | H21.6 | H23.4 | H24.2 |
| 後見監督人 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 |
| 備考 | H25.2 被後見人死亡により終了 | | H21.4 被後見人死亡により終了 | | | H26.2 被後見人死亡により終了 |
| 項目 | G | H | I | J | K | L |
| 状況 | 認知症高齢者 | 認知症高齢者 | 認知症高齢者 | 認知症高齢者 | 認知症高齢者 | 認知症高齢者 |
| 類型 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 |
| 後見人 | 第5期 養成研修受講者 | 第6期 養成研修受講者 | 第6期 養成研修受講者 | 第7期 養成研修受講者 | 第7期 養成研修受講者 | 第7期 養成研修受講者 |
| 申立人 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 | 練馬区長 |
| 審判 | H24.8 | H24.9 | H24.12 | H25.4 | H25.12 | H26.2 |
| 後見監督人 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 | 練馬区社協 |
| 備考 | H26.3 被後見人死亡により終了 | | | H25.8 専門職への引き継ぎにより終了 | | |

4. 組織運営

(1) 運営委員会の開催

円滑で適正なセンター運営および事業の透明性・公平性確保のため、また、機能拡充を図るための具体的な取り組みについて協議を行った。

| 開催回数 | 場 所 | 内 容 |
|------|---|--|
| 全5回 | ・練馬区役所 501 会議室 (3回) ・練馬区役所 502 会議室 (1回) ・職員厚生室洋室 (1回) | 年間事業計画および事業報告、社会貢献型後見人養成事業・後見監督業務報告他、権利擁護センター各事業についての協議・検討 |

(2) 生活支援員定例会 *生活支援員現員数〔非常勤職員34人〕

事例検討や災害時の連絡手段の訓練、支援に関係する法律や外部からの講師を招いて支援方法等についての研修会等を行った。今年度から開催された、城西ブロック社会福祉協議会合同での生活支援員研修にも参加し、支援と支援者のあり方を学んだ。

| 実施回数 | 内 容 |
|------|--|
| 全6回 | ①関連情報の提供・交換 ②事業実施状況報告 ③ケース検討 ④活動報告 ⑤テーマ別研修 ⑥自主研修 ⑦意見交換 ⑧災害用伝言ダイヤル訓練など |

(3) その他練馬区の連絡会・協議会などへの参加

精神保健福祉関係者連絡会、地域包括支援センター運営協議会、地域密着型サービス運営協議会、

地域包括支援センターケア会議、悪質商法高齢者被害防止ネットワーク会議、自立支援協議会権利擁護部会、障害者計画検討委員会分科会など練馬区における関係機関の連絡会・協議会等に参加し、情報交換や高齢者・障害者の生活に関する協議を行った。

5. その他事業

今年度は、毎年度行っている光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷに加え、大泉障害者地域生活支援センターさくらとも共催で、知的障害者が安心して地域で生活するために、社会人として必要な事を学ぶための講座として「お金の使い方講座」を開催した。クイズや寸劇等を取り入れ、知的障害の方が理解を深められるよう取り組みを行った。

【練馬障害福祉人材育成・研修センター】

障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図るために、障害福祉サービスに係る研修体制を整え、事業所における高い専門性を持つ人材育成・確保の支援を行った。

1. 練馬障害福祉人材育成・研修センター受託事業

(1) 練馬障害福祉人材育成・研修センター登録状況

事業所向けの研修は、当研修センターへの事業所登録後、各種研修が受講できる仕組みになっている。

＜平成 25 年度登録状況＞（3月 31 日現在）

障害福祉サービス区内指定事業所数 290 か所

練馬障害福祉人材育成・研修センター登録事業所 190 か所

(2) 学習支援

ア. 基礎研修

障害福祉サービス提供経験が少ない従事者に向け、障害の特性や支援方法等について知識や技術を習得できるように研修プログラムを提供した。

40 回開催 参加事業所数 107 事業所

| 研修テーマ | 回数 |
|-------------|------|
| 基礎研修①障害の特性 | 20 回 |
| 基礎研修②障害福祉概論 | 3 回 |
| 基礎研修③実践研修 | 3 回 |
| 基礎研修④テーマ別研修 | 7 回 |
| 基礎研修⑤制度・施策 | 7 回 |

イ. 階層別研修

中堅職員、管理者等の階層に応じた研修プログラムを提供し問題解決の向上を図った。

19 回開催 参加事業所数 67 事業所

| 研修テーマ | 回数 |
|-------------|------|
| 専門知識①事例検討 | 5 回 |
| 専門知識②テーマ別研修 | 14 回 |

ウ. 啓発研修

練馬障害福祉人材育成・研修センターの開所式と併せて、障害者支援に関心のある方を対象に、障害についての知識や理解を高める研修を実施した。

| | | | |
|--|---------------------------|-----|------|
| 開催日時 | 7月18日(木)9:30~12:30 | 参加者 | 162名 |
| タイトル | 障害児・者支援の今後を考える～人材育成の視点から～ | | |
| 基調講演 高山直樹氏（東洋大学教授） パネルディスカッション パネリスト： 明星マサ氏（社会福祉法人つくりっこの家つくりっこクラブハウス所長） 吉田由紀子氏（社会福祉法人あかねの会理事長） 坂元信幸氏（社会福祉法人練馬山彦福祉会山彦作業所施設長） 河野敦子氏（社会福祉法人練馬区社会福祉事業団サービス向上担当課長） コメンテーター： 高山直樹氏（東洋大学社会福祉学部社会福祉学科教授） 中島修氏（文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授） | | | |

エ. アンケート実施

障害福祉サービス事業所に対し、研修センターのサービス充実の為、各事業所で取り組んでいる職員研修や研修センター事業等についてアンケートを実施し、区内の事業所の実態把握をした。
 (ア) 平成 25 年 12 月実施 アンケート回答率 44% (280 事業所中 124 事業所)

オ. その他

- (ア) 登録事業所への研修周知(月 2 回メール)
- (イ) 未登録事業所への定期的な登録の呼びかけ(月 2 回 FAX)

(3) 情報支援

ア. 専用ホームページ開設

従事者が手軽にアクセスし、障害福祉サービスに関する必要な情報を得られるように専用ホームページを開設した。

(ア) 平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月までのアクセス件数 7,417 件

イ. 情報提供

毎週 1 回、法令制度、他機関研修、お知らせなど障害福祉サービスに関する情報をホームページにて周知した。

(4) 連携支援

近隣地域で障害福祉サービス事業所の集まりを設け、事業所同士が情報交換を通じて課題等を共有し、連携する機会を設けた。

豊玉・練馬近隣地域と西大泉・南大泉近隣地域の 2 地区にて実施し、それぞれの地域で顔の見える関係を作ることができ、共通の課題やテーマを話し合うことができた。また、それぞれの地域で課題に即した研修会や、事業所間で体験研修を行うなどより深い連携ができた。

ア. 豊玉・練馬近隣地域

豊玉障害者地域生活支援センターきららを拠点として情報交換会を年 4 回実施した。

| 開催回数 | 参加事業所数 | 内容 |
|---------------------|---|---|
| 4 回 (4・6・8・12 月) | 9 事業所 日中系サービス 3 訪問系サービス 1 相談支援事業所 1 地域活動支援事業所 1 居宅介護支援事業所 2 有償家事援助サービス 1 | 各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でも考える場をつくり研修会のテーマ等についても話し合った。 |

イ. 西大泉・南大泉近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、参加事業所の拠点の見学を兼ね巡回しながら情報交換会を年 5 回実施した。

| 開催回数 | 参加事業所数 | 内容 |
|------------------------|--|---|
| 5 回 (6・8・10・12・2 月) | 7 事業所等 日中系サービス 2 訪問系サービス 2 居住系サービス 1 その他 2 | 各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でも考える場をつくり体験研修の内容等についても話し合った。 |

(5) 広報

ア. パンフレットの作成

研修センター周知の為にパンフレットを作成し広報に活用した。

イ. 研修センターだよりの発行

研修センターだよりを 7 月より毎月発行し、登録事業所にはメール配信または研修開催時に配布し未登録事業所には研修センターへの登録の促しとともに FAX で配信した。また、ホームページにも随時掲載し研修センター事業の周知に努めた。

(6) 運営協議会の設置

練馬障害福祉人材育成・研修センターを運営するに当たり、事業所等の意見を反映するため、練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会を設置し 3 回開催した。

| 開催回数 | 場 所 | 内 容 |
|-------|--|---|
| 全 3 回 | ・練馬区役所庁議室 (1 回) ・練馬区役所交流会場 (1 回) ・練馬区役所東 502 会議室 (1 回) | 運営協議会主旨説明、センター事業概要について、年間目標・計画について、開所式・開所記念講演について、センター事業取り組み状況報告、事業所アンケートについて、26 年度事業計画 (案) について等 |

2. 人材育成の充実に向けた取り組み

(1) 職員研修

外部研修で講師を務めたり、外部研修に参加した職員を、内部中堅職員（4年目～主任まで）研修の講師とし研修を企画・開催した。中堅研修参加職員は中堅職員としての視点を取り入れながら、所属部署にて研修で学んだことを報告することを必須とした。

| 日程 | 場所 | 参加人数 | 内容 |
|-----------|--------------------|------|--|
| H25.11.25 | 練馬区役所 東 501 会議室 | 18 人 | ① 全社協研修での「地域生活に求められる成年後見の機能と体制」実践報告 ② 東社協新任職員研修での「先輩職員から」発表者報告 ③ 日本地域福祉学会報告 ④ 生活困窮者支援と社会福祉協議会の役割―「社協・生活支援活動強化方針」と関連させて― |
| H26.1.31 | 練馬区役所 東 502 会議室 | 12 人 | ① シンポジウム ゆるやかにつながろう～地域の新しい支えあいのカタチ～ ② 城西ブロック社協合同研修 コミュニティワークとは「社協職員は見える黒子だ―各社協の取り組み事例をとおして―」 ③ 日本地域福祉学会報告・大島社協災害ボランティアセンターでの取り組み ④ SST 学術集会発表～地域活動支援センターが「誰でも参加できる SST」を開催する意義に関する考察～ |

(2) 地域に向けた人材育成

地域の福祉サービス提供事業所の連携や、職員の資質向上を図るため情報交換会で出された課題をもとに研修会を開催した。また、支援に関する情報の共有化、サービス従事者間の連携を高めることを目的とし、参加事業所の職員が異なるサービス種別の事業所で互いに体験を行うなど地域密着型連携事業を行った。

ア. 豊玉・練馬近隣地域における研修会の実施（2回）

| 日程 | 場所 | 参加人数 | 内容 |
|-----------|--------------------|------|--|
| H25.10.15 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら | 18 人 | 「総合支援法を含めた障害者の現状について」 模擬事例検討「高齢の母親と精神障害者の息子の二人暮らしのこれからを考える」 |
| H26.2.18 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら | 11 人 | 「地域の社会資源を活用した資源を考える～身体障害、知的障害、高齢者の事例から～」 |

イ. 西大泉・南大泉近隣地域における体験研修の実施（2回）

(ア) 体験研修 1 回目

| 日程 | 体験事業所 | 内容 |
|-----------|------------------|---|
| H25.10.11 | 居住系（グループホーム）→日中系 | ・事業説明 ・ポスティング作業を利用者と共に行う ・振り返り |
| H25.10.18 | 日中系→居住系（グループホーム） | ・事業説明 ・サテライト住居の利用者 3 件訪問（買い物、掃除等） ・病院のデイケア見学 ・振り返り |

(イ) 体験研修 2 回目

| 日程 | 体験事業所 | 内容 |
|-----------|------------------|---|
| H25.11.21 | 居住系（グループホーム）→訪問系 | ・事業説明 ・精神障害者の居宅家事援助（掃除、片付け等）同行 ・振り返り |
| H25.12.5 | 訪問系→居住系（グループホーム） | ・事業説明 ・施設内見学 ・利用者とのコミュニケーション ・振り返り |

【資料】（平成26年3月31日現在）

理事（任期：26.2.7から28.2.6まで）

| 氏名 | 選出分野 | 氏名 | 選出分野 | 氏名 | 選出分野 |
|--------|----------|-------|--------|--------|-----------|
| 上野 定雄 | 会長、学識経験 | 山浦 成子 | ボランティア | 杉浦 剛 | 民生児童委員 |
| 大村 宣雄 | 副会長、学識経験 | 木内 幹雄 | 産業経済 | 高山 喜一郎 | 産業経済 |
| 篠 利雄 | 副会長、産業経済 | 緒方 孝則 | 学識経験 | 小林 元子 | 学識経験 |
| 大江 義宏 | 副会長、民生委員 | 田口 博一 | 民生児童委員 | 中田 圭太郎 | 行政職員 |
| 伊部 美佐子 | 福祉団体 | 渡邊 雍重 | 町会関係 | 植田 敏裕 | 練馬区社協常務理事 |

監事（任期：26.2.7から28.2.6まで）

| | |
|------------|-------------|
| 中川 剛（学識経験） | 三橋 道子（学識経験） |
|------------|-------------|

評議員（任期：26.2.4から28.2.3まで）

| 氏名 | 選出分野 | 氏名 | 選出分野 | 氏名 | 選出分野 | 氏名 | 選出分野 |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|------|
| 内田 哲男 | 民生児童委員 | 栗原 秀雄 | 民生児童委員 | 三宅 陽子 | 福祉団体 | 小林 利生 | 学識経験 |
| 辻 昌子 | 民生児童委員 | 古畑 弘子 | 民生児童委員 | 古川 重子 | 福祉団体 | 古橋千重子 | 行政職員 |
| 悴田 茂雄 | 民生児童委員 | 尾崎 勝美 | 民生児童委員 | 土田 秀行 | 福祉施設 | 角井 稔 | 行政職員 |
| 寺沢 明子 | 民生児童委員 | 田中 義和 | 民生児童委員 | 高橋 八映 | 福祉施設 | 風間 康子 | 行政職員 |
| 石田 芳子 | 民生児童委員 | 大島 光昭 | 民生児童委員 | 齋藤 洋 | 福祉施設 | 枝村 聡 | 行政職員 |
| 田中 敏 | 民生児童委員 | 平野 文男 | 民生児童委員 | 林田 俊弘 | 福祉施設 | 桑原 修 | 行政職員 |
| 成尾 善子 | 民生児童委員 | 加藤 和雄 | 民生児童委員 | 明星 マサ | 福祉施設 | 勝又 勝 | 行政職員 |
| 上野 和重 | 民生児童委員 | 尾崎 藤雄 | 町会関係 | 山本 雄一 | ボランティア | | |
| 芹澤 孝子 | 民生児童委員 | 川島 一夫 | 福祉団体 | 布施美智子 | 報道関係 | | |
| 齋藤 幸雄 | 民生児童委員 | 重田 栄 | 福祉団体 | 阿部 財智 | 産業経済 | | |

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会委員（任期：24.4.1から27.3.31）

| 氏名 | 現職等 | 氏名 | 現職等 |
|-------|------------------------|--------|------------------------------------|
| 明星 マサ | 副委員長 / つくりっこの家クラブハウス所長 | 森本 佳樹 | 委員長 / 立教大学教授 |
| 飯村 史恵 | 立教大学准教授 | 山浦 成子 | 練馬区社協理事、 ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長 |
| 河本 道雄 | 民生児童委員 | 山本 雄一 | 練馬区社協評議員、 NPO法人シニアふれあい練馬代表 |
| 木内 幹雄 | 練馬区社協理事、東京商工会議所練馬支部副会長 | 森 純一 | 東京都社会福祉協議会 |
| 坂元 信幸 | 知的障害者通所授産施設 山彦作業所所長 | 中田 圭太郎 | 練馬区健康福祉事業本部福祉部長 |
| 玉井 弘子 | 大泉学園まちづくりネット、主任児童委員 | 植田 敏裕 | 練馬区社会福祉協議会事務局長 |
| 林田 道子 | しあわせ福祉ネット・関代表 | | |

苦情解決第三者委員会委員（任期：25.11.27から27.11.26まで）

| | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 岩本 康一郎（弁護士） | 坂元 信幸（学識経験） | 辻 昌子（民生児童委員） |
|-------------|-------------|--------------|

生活福祉資金調査委員会委員（任期：25.4.1から27.3.31まで）

| 氏名 | 現職等 | 氏名 | 現職等 |
|-------|---------------|-------|-----------------------|
| 富永 愛子 | 委員長 / 民生児童委員 | 上山 浩司 | 司法書士 |
| 平野 文男 | 副委員長 / 民生児童委員 | 内田 哲男 | 民生児童委員 |
| 古賀 貢 | 練馬区商店街連合会 | 横山 敏子 | 民生児童委員 |
| 鈴木満理子 | 障害者福祉関係者 | 遠藤 裕子 | 練馬区健康福祉事業本部大泉総合福祉事務所長 |

ねりま歳末たすけあい運動推進委員会委員（任期：25.11.28 から 27.11.27 まで）

東京都共同募金会練馬地区協力会 練馬地区配分推せん委員会委員（任期：25.6.3 から 27.6.2 まで）

| 氏名 | 現職等 | 氏名 | 現職等 |
|---------|-----------------------|--------|-------------------------------------|
| 小美濃 千鶴子 | 委員長 | 山浦 成子 | ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長、練馬区社会福祉協議会理事 |
| 関口 嗣男 | 副委員長 | 間瀬 達成 | 東京都社会福祉協議会 |
| 大江 義宏 | 民生児童委員協議会代表会長、練馬区社協理事 | 古橋 千重子 | 練馬区福祉部参事経営課長事務取扱 |
| 渡邊 雍重 | 練馬区町会連合会会長、練馬区社協理事 | 植田 敏裕 | 練馬区社会福祉協議会常務理事 |
| 関口 和雄 | 練馬区障害者就労促進協会理事 | | |

練馬区立白百合福祉作業所運営協議会委員（任期：25.4.1 から 26.3.31 まで）

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|-------------------|-----|
| 元山 健 | 白百合福祉作業所利用者 | |
| 菊地 亮太 | 白百合福祉作業所利用者 | |
| 荒井 久子 | 白百合福祉作業所家族会 | |
| 小林 美恵 | 白百合福祉作業所家族会 | |
| 中村 香代子 | 白百合福祉作業所家族会 | |
| 今村 真由美 | 白百合福祉作業所家族会 | |
| 棚橋 義一 | 地域住民・ボランティア | |
| 加藤 真一 | 地域住民・ボランティア | |
| 成塚 進 | 地域住民・ボランティア | |
| 角井 稔 | 練馬区障害者施策推進課長 | |
| 水元 幸子 | 練馬区障害者施策推進課就労支援係長 | |
| 椿 康宏 | 練馬区社会福祉協議会経営管理課長 | |
| 大垣 喜久江 | 白百合福祉作業所長 | 委員長 |
| 竹内 直美 | 白百合福祉作業所職員 | |
| 中村 彦也 | 白百合福祉作業所職員 | |

練馬区立かたくり福祉作業所運営協議会委員（任期：25.4.1 から 26.3.31 まで）

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|-----------------------|------|
| 三戸 英一 | 大泉町3丁目町会長 | |
| 渡辺 芳江 | かたくり福祉作業所家族会 | 副委員長 |
| 香川 文衣 | かたくり福祉作業所家族会 | 副委員長 |
| 内田 百世 | かたくり福祉作業所家族会 | |
| 竹下 景子 | かたくり福祉作業所利用者 | |
| 岩永 侑香里 | かたくり福祉作業所利用者 | |
| 浅沼 真実 | かたくり福祉作業所利用者 | |
| 吉野 紀代子 | 地域住民・ボランティア | |
| 角井 稔 | 練馬区障害者施策推進課長事務取扱福祉部参事 | |
| 水元 幸子 | 練馬区障害者施策推進課就労支援係長 | |
| 丹保 康人 | かたくり福祉作業所長 | 委員長 |
| 出口 育代 | かたくり福祉作業所職員 | |

豊玉障害者地域生活支援センターきらら運営委員会委員（任期：25.4.1 から 27.3.31 まで）

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|-------|----------------------|------|
| 明星 マサ | つくりっこの家クラブハウス所長 | 委員長 |
| 木内 知己 | 町会商店会関係 | |
| 国島 良臣 | ボランティア | |
| 佐藤 英明 | NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長 | |
| 高梨 文雄 | 東京都精神障害者団体連合会代表 | 副委員長 |
| 田辺 安之 | 大泉病院地域医療連携室室長 | |
| 橋本 邦子 | 家族 | |
| 角井 稔 | 練馬区障害者施策推進課長 | |
| 椿 康宏 | 練馬区社会福祉協議会経営管理課長 | |
| 岩田 敏洋 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長 | |

豊玉障害者地域生活支援センターきらら 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員
(任期：25.4.1 から 27.3.31 まで)

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|---------------------------------|-----|
| 森山 瑞江 | 練馬手をつなぐ親の会会長 | |
| 田中 康子 | 練馬肢体不自由児者父母の会副会長 | |
| 佐藤 英明 | NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長 | |
| 柴田 秀治 | 社会福祉法人江古田明和会えごのみ施設長 | |
| 田辺 安之 | 大泉病院地域連携室室長 | |
| 小嶋 康裕 | 練馬区立氷川台福祉園副園長 | |
| 徳永 ゆかり | 光が丘保健相談所地域保健係長 | |
| 野口 一徳 | 練馬総合福祉事務所高齢者支援係長 | |
| 中村 博志 | 中村橋福祉ケアセンター 中途障害者通所事業管理者 | |
| 斎藤 敦 | 練馬区障害者施策推進課事業計画担当係長 | |
| 堀内 久美 | 練馬区障害者施策推進課事業計画担当係次席 | |
| 望月 幸子 | 練馬区障害者施策推進課事業計画担当係 | |
| 椿 康宏 | 練馬区社会福祉協議会経営管理課長 | |
| 岩田 敏洋 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長 | |
| 菊池 貴代子 | 豊玉障害者地域生活支援センターきらら職員 | |

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ運営委員会委員 (任期：25.4.1 から 27.3.31 まで)

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|--|------|
| 長澤 泉 | HOTJOB メンバー (就労継続支援 B 型事業) | 副委員長 |
| 松沢 勝 | 練馬家族会理事 | |
| 伊藤 郁子 | 茶道ボランティア (きらら・ういんぐ) | |
| 佐藤 真須美 | 石神井会婦人部会員 | |
| 藤田 庄子 | NPO 福祉サロン代表 | |
| 飯島 又三 | ワークショップ石神井所長 (就労継続支援 B 型事業) | 委員長 |
| 山本 雄一 | 練馬区社会福祉協議会評議員、NPO 法人シニアふれあい練馬代表 | |
| 穂山 千恵子 | 練馬区立男女共同参画センターえーる所長 | |
| 別司 新奈 | NPO 法人サニーサイド ケアサポートサニーサイド | |
| 角井 稔 | 練馬区福祉部障害者施策推進課長 | |
| 椿 康宏 | 練馬区社会福祉協議会経営管理課長 | |
| 千葉 三和子 | 石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長 | |

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員
(任期：25.4.1 から 26.3.31 まで)

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|------------------------------------|-----|
| 金井 仁夫 | グループホーム和泉管理者 | |
| 古畑 弘子 | 石神井町・下石神井地区会長 | |
| 金杉 和夫 | 一般社団法人練馬区医師会理事 | |
| 鈴木 英典 | ほっとすぱーす練馬所長 | |
| 渡辺 智生 | 練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人 | |
| 飯島 又三 | ワークショップ石神井所長 | |
| 齋藤 健 | 大泉病院 社会医療部相談課 | |
| 熊谷 彰人 | 陽和病院社会療養部長 | |
| 雄谷 江利子 | 慈雲堂病院地域連携室係長 | |
| 鈴木 啓之 | 東京都立中部総合精神保健福祉センター地域体制整備担当係長 | |
| 渡瀬 菜穂子 | 大泉総合福祉事務所保護第四係次席 | |
| 村形 明美 | 石神井保健相談所地域保健係長 | |
| 椿 康宏 | 練馬区社会福祉協議会経営管理課長 | |
| 角井 稔 | 練馬区障害者施策推進課長 | |
| 齋藤 敦 | 練馬区障害者施策推進課事業計画担当係長 | |
| 堀内 久美 | 練馬区障害者施策推進課事業計画担当次席 | |
| 望月 幸子 | 練馬区障害者施策推進課事業計画担当係 | |
| 千葉 三和子 | 石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長 | |
| 林 優子 | 石神井障害者地域生活支援センターういんぐ 職員 | |
| 下川 ゆき子 | 石神井障害者地域生活支援センターういんぐ 職員 | |

ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会委員（任期：24.4.1 から 26.3.31 まで）

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|-----------------------------|------|
| 伊藤 郁子 | ボランティアグループなしのみ代表、ママヘルプ代表 | |
| 河本 道雄 | 民生児童委員 | |
| 関 和子 | スマートAT研究会代表 | |
| 森本 佳樹 | 立教大学コミュニティ福祉学部教授 | 副委員長 |
| 山浦 成子 | 練馬区社会福祉協議会理事、ねりま子育てネットワーク代表 | 委員長 |
| 吉田 壯二 | 公募委員 | |
| 永野 攝子 | NPO 法人むすび理事長 | |
| 玉井 弘子 | 大泉学園まちづくりネット、主任児童委員 | |
| 須藤 朔宏 | しあわせ福祉ネット・関 | |
| 小林 ひろみ | 練馬区練馬高齢者相談センター練馬区役所支所 | |
| 古橋 千重子 | 練馬区経営課長 | |
| 河島 京美 | 練馬区社会福祉協議会地域福祉課長 | |

権利擁護センターほっとサポートねりま運営委員会委員（任期：24.4.1 から 26.3.31 まで）

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|---|------|
| 飯村 史恵 | 立教大学准教授 | 副委員長 |
| 上山 浩司 | 社団法人成年後見センター「リーガルサポート」東京支部、東京司法書士会練馬支部長 | |
| 工藤 忠夫 | NPO 法人練馬精神障害者家族会 理事長 | |
| 土肥 尚子 | 東京弁護士会高齢者・障害者総合支援センター「オアシス」 | 委員長 |
| 中島 加代子 | 認知症の人を支える家族の会「木瓜の花」代表 | |
| 中村 妙子 | 社団法人東京社会福祉士会権利擁護センター「ばあとなあ東京」 | |
| 長谷川 和子 | 区立福祉園父母の会連絡会副代表 | |
| 小泉 晴子 | NPO法人成年後見推進ネットこれから理事長 | |
| 唐澤 貞信 | 練馬区経営課長（24.4.1～25.3.31） | |
| 古橋 千重子 | 練馬区経営課長（25.4.1～26.3.31） | |
| 河島 京美 | 練馬区社会福祉協議会地域福祉課長 | |

練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会委員（任期：25.6.18 から 27.3.31 まで）

| 氏名 | 所属等 | 役割等 |
|--------|--|-----------------|
| 高山 直樹 | 東洋大学社会学部社会福祉学科教授 | 委員長 |
| 中島 修 | 文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授 | 副委員長 |
| 中村 圭吾 | 株式会社ケアサービス伊東介護事業部事業課長・サービス提供責任者 | ※障事連 |
| 鈴木 英典 | 特定非営利活動法人ほっとすぱーす ほっとすぱーす練馬所長 | ※障事連 |
| 渡辺 智生 | 練馬山彦福祉社会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人 | ※障事連 |
| 的野 碩郎 | 練馬区視覚障害者福祉協会会長、練馬区障害者団体連合会会長 | ※※障団連 |
| 市川 明臣 | 練馬区聴覚障害者協会会長、練馬区障害者団体連合会副会長 | ※※障団連 |
| 鈴木 歩 | 株式会社メディカル・アート 居宅支援めぐみの会ケアマネジャー | ※※※事連協 |
| 鴨治 慎吾 | 区内在住当事者 | |
| 長澤 泉 | 区内在住当事者 | |
| 日比野 敏子 | 当事者家族 | |
| 河野 敦子 | 練馬区社会福祉事業団サービス向上担当課課長 練馬介護人材育成・研修センター所長 | 練馬介護人材育成・研修センター |
| 山崎 直子 | 練馬区福祉部障害者サービス調整担当課長 | 行政 |
| 河島 京美 | 練馬区社会福祉協議会地域福祉課長 | |

※練馬区障害福祉サービス事業者連絡会

※※練馬区障害者団体連合会

※※※練馬区介護サービス事業者連絡協議会

職員の配置状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

（単位：人）

| | 経営管理課 | | | | | 地域福祉課 | | | 合 計 |
|------------|-------|-----|------|-----|------|-------|-----|--------|-----|
| | 総務係 | 白百合 | かたくり | きらら | ういんぐ | ボラセン | ほっと | 研修センター | |
| 事務局長 | 1 | | | | | | | | 1 |
| 課長 | 1 | | | | | 1 | | | 2 |
| 所長 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 副所長 | | | | | | | | | |
| 事務 | 常勤職員 | 8 | 1 | 1 | | 6 | 4 | 1 | 21 |
| | 非常勤職員 | 8 | | | | 7 | 3 | 2 | 20 |
| 支援員 | 常勤職員 | | 6 | 11 | 4 | 4 | | | 25 |
| | 非常勤職員 | | 4 | 6 | 2 | 2 | | | 14 |
| 作業員 | | 1 | | | | | | | 1 |
| 看護師 | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 栄養士 | | | 1 | | | | | | 1 |
| 嘱託医 | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 生活支援員（非常勤） | | | | | | | 33 | | 33 |
| 臨時職員 | 7 | | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 14 |
| 計 | 25 | 15 | 23 | 9 | 9 | 16 | 42 | 4 | 143 |

*表の構成上、事務局長は経営管理課総務係で、地域福祉課長はボランティア・地域福祉推進センターで人数をカウントしている。また、育児休暇等、休職中の職員も含まれる。